

のアヴァスとも結んで過去數十年間世界の通信を獨占してゐた觀がある。しかし最近では漸くその勢力も薄れはじめその母國同様衰運が兆してゐる。即ち極東では全く日本の同盟通信に壓倒されて居り、たとへば蘭印あたりに送られるロイテルの電報が同盟電よりも遅れたり、虚報が多かつたりして各國の通信社に笑はれてゐる有様だし、歐洲では早晚獨逸のD・N・Bに締め出しを食ふことだらう。

現在ロイテルを牛耳つてゐるのはサー・ロデリック・ジョーンズでベルナード・リッカートン・ハットが編輯長として活躍してゐる。

尙同通信社は現在相當深刻な財政難に悩んでゐるとかで首脳部もこれが對策に焦慮してゐるやうだ。

### B・B・C

英國の放送協會と云へば誰でも浮ぶのはあのB・B・Cの頭文字である。英國の放送が定期的に開始されたのは一九二二年のことで、ロンドンのストランド街の或る小さなビルディングの屋根裏、よく云へば最上階の二十呎平方餘りの狭い一室から放送されてゐた。この放送事業は一九二三年から二六年までは無線機械製造業者の出資にかゝる英國放送會社の手によつて經營されてゐたが、一九二六年に解散し、勅許によつて設立された英國放送協會が代つて放送事業を經營することゝなつた現在の建物は數百の室を備へた例の放送會館でこゝから絶え間なく全世界に電波を送つてゐる。

B・B・Cの海外放送は放送會館より中繼線でグウェントリー放送所に送られ、出力百五十キロの大放送設備を利用して世界中に放送される。受信所はクッツフィールドにあつて、こゝでアメリカや歐大陸方面よりの放送を受信してゐる。

放送會館六階のニュース編輯室には四臺の自動式の電報受信機があつて、ロイテル、エクスチェンヂ・テレグラフ、セントラル・ニュース、プレス・アソシエイションの四通信社から刻々ニュースを接受してゐる。こゝに注目されるのは新聞でトップを飾る様な事件でも犯罪に關するものは一切放送しない建前をとつてゐる點である。これはラヂオが餘りにも普及してゐるため、子供や病人のある家庭にさういつたニュースを聴かせるのは考へものだといふところから來てゐるらしい。海外放送は帝國放送の名の下に三十五種に餘る各種の短波を用ひ、英、阿、西、葡、獨、佛、伊の七ヶ國語によつて毎日延時間二十一時乃至二十五時間の放送を行つてゐる。これに當てられた短波放送設備は九臺、總電力二百九十キロと推定されてゐる。この外、近隣諸國乃至は國內に對する放送は主としてロンドン、リジヨナル・ミッドランド・リジヨナル、ノース・リジヨナル、ウエスト・リジヨナル、スタグシヨ一の五中波放送局から獨、伊、佛、英、西、葡の各國語によつて、毎日數回の放送を行つてゐる。

英國は逸早く宣傳のための國家機關を作つた國で、流石にその組織は整然たるものがある。以下先づその歴史から見て行かう。

第一次大戦に於ける英國の宣傳は一九一四年に出來た愛國團體中央委員會が國內宣傳に、又英帝國小委員會が自治領や植民地の宣傳に、更に中立國小委員會が中立諸外國に對して宣傳の局に夫々當つてゐたが、國內宣傳は一九一七年六月より戰時計畫委員會が引受けるやうになつた。又この組織は一九一七年中に陸軍省によつて繼承されてゐる。一方外務省では中立國への文書や宣傳ビラ配布の目的で一九一四年に戰時宣傳局を作り、デーリー・ニュースの共同發行者であつた自由黨代議士チャールズ・マスタートーマンをその長官に任命し、事務所を「ウェリントンの家」に置いて秘密裡に宣傳を行つてゐた。一九一七年の一月ロイド・ジョージが首相となつてから間もなく各種の宣傳部門を統一することゝなつたが、それも完全に統一されるまでには可成りの時日を要してゐる。先づ大戦當初タイムズ通信員で、その後外務省からフランスにある英國陸軍部隊附きの從軍記者として特派されてゐたジョン・ブカンが外務省の情報部の部長に任ぜられ、前記の「ウェリントンの家」も彼の支配下に置かれることゝなつた。その後八月になつてアルスター統一黨領袖サー・エドワード・カーソンが内閣から各種宣傳部門の監督を一任されてから統一も漸次軌道に乗つて來た。かくして翌一九一八年の二月豫ねて希望されてゐた情報省がビーヴァブルック卿指導の下に「クルー・ハウス」内に新設され「ウェリントンの家」と情報部がこゝに集合された。

そしてあの有名なノースクリップ卿が宣傳局長に任命されて縦横無盡の活躍をなしたのだ。

然し間もなく大戦も聯合國側の勝利に歸し、媾和條件のためのプログラム作成を最後の仕事としてこの「クルー・ハウス」も幕を閉じてゐる。

#### 今次戦争と宣傳組織

英國は今度の戦争では對獨宣戰布告と同時に外務省内にあつた情報部を擴大強化して情報省を新設し、政府發表並びに宣傳工作の一切を管掌せしむることゝなつた。英國の宣傳強化は昨春以來屢々議會の問題となつてゐたが、戦争の始まる直前の六月來るべき戦ひに備へて外務省内に情報部が設置され、前駐伊大使バース卿が局長となつた。初代情報相には前大戦當時情報省の次官であつたマクミラン卿が就任したが、その後ダフクーパーに代つた情報省は新聞檢閲部、啓發部、啓發資料作成部、行政及連絡部の四部十四課より成り中央、地方を通して約一千名の省員を擁してゐる。新聞部長にはロザミア系新聞網の支配者たるハトムスワースが就き、最高顧問にはバース卿が就任してゐる。

その地新聞界、政界、實業界の練達の士を網羅した諮問委員會が設けられてゐて、その委員長にはタイムズ紙の理事キヤムベル・スチュワートが就任してゐる。これらの専門家を總動員してあらゆる宣傳對策が樹立されドイツとの宣傳戦に大奮の活躍を演じてゐる。

英國では對獨宣戰の布告直前の九月一日から一切の通信檢閲を行ひ、新聞電報の如きも英、佛兩

國語以外は一切使用を禁止してしまつた。然るに検閲事務の遲滞が餘りに甚だしく、このために間もなく情報省に對する非難の聲が議會に於いても聞かれる様になり、中立國通信員の活動を不當に妨げざる様對策を講ずべしとの聲が高まつたので、ホーア内相は「信賴すべき通信員の打電については出来る限り制限の緩和を圖ることとしたい」旨の答辯を餘儀なくされた譯である。斯くして間もなく、英佛語以外の新聞電報も打電可能となり、ローマ字電報も月曜から金曜までは午後二時より午後十時まで、土曜日は正午より五時まで受付けられるやうになつた。

#### 無言部隊運動

今度の戦争で英國側が最も恐怖し警戒してゐるのはドイツ軍の急降下爆撃機でもなければ超重戦車でもない。それは例の第五部隊（フィフス・コラム）である。英國では早くより國防義勇軍を組織して第五部隊の活躍を封ずるため躍起となつてゐるが、一九四〇年七月八日の英國内務省の發表によれば、六月中に第五部隊又はこれと密かに聯絡をとつてゐたスパイの疑ひあるものとして捕縛されたものは全英國を通じて五百名に達し、その他敵性外人として七月七日までに抑留されたものは二萬人を突破してゐることである。この中には親獨團體の會長であつたダンヴィル提督夫妻を始め、英國ファシスト黨首モズレー夫妻も含まれてゐる。更に國防強化規則によつて一般外人はドライブ用の地圖は勿論ガイド・ブックを持つことも禁ぜられた。これに先立つて五月卅日の内務

省令は各百貨店や洋服店が身許の確かならざる者に一切の制服類を販賣することを禁止してゐると言つた有様である。

その他在英ドイツ人のラチオ・セット所有も禁止され、意識的に反戦記事を掲げた新聞は發行を禁止され、輪轉機まで沒收されることとなつてゐる。殊に去る五月廿三日英國下院議長アーチボルド・ラムゼー（保守黨）がファシスト黨員だと言ふ名目の下に下院に於いて檢舉されたが議會開會中に議員が檢舉投獄されたことは英憲政史上未曾有の出來事である。

以上の如き防諜對策を更に徹底せしむるためにこの七月十二日よりダフ・クーバー情報相の提唱で全国的に無言部隊（サイレント・コラム）運動が實施されることとなつた。斯くして國民の一人一人が無言部隊に参加した心算で沈黙を守り流言蜚語や後方擾亂を目的とするドイツの第五部隊の活躍を封じようと云ふのである。昨今の英國に於ける流言蜚語取締りは嚴重を極め一倍倍の如きは、「フランスも屈服したのだから英國も戦争を止めるだらう、これ以上戦つても無駄である」と云つた廉で三ヶ年の懲役に處せられ、又一造船職工が「結局ヒトラーが勝つたらうが、彼が英國を支配しても別に悪い筈はないぢやないか」と仲間と言つたことが判明して十ポンドの罰金刑に處せられてゐる。

「宣傳の國」英國が、如何に衰運にあるとは云ひ、沈黙戰術を以て宣傳戰に代へねばならなくなつたとはいへば皮肉である。かくしてかつての大戦に宣傳戰に勝つた英國も、今や恐るべきドイツ國の

武力宣傳戦の前に戦はかして敗れんとしてゐるかの様だ。

## 2 米——ニユース本位主義

### 米國新聞發達歴史

從來アメリカの新聞と云へば、亦新聞が通稱となつてゐたが、流石に最近では相當品位も備はり、比較的公平なニユースを載せるやうになつて来た。これは英國の紳士道を誇る新聞が歐洲の模倣者との争ひで段々信用できなくなつて来たのと好い對照であるとはいへ、アメリカの新聞が多分公平になつて来たこと云つても、それは全く比較の問題で過ぎない。獨逸國の自國に都合のいゝ一方的ニユースや、相續く敗戦でヒスナリ一氣味になつた英國の新聞あたりと比較して少しばかり正しいと云ふ程度だ。しかもその正しさは別に一定の主義主張から生れたものではなく、専ら營利本能からあれやこれやのニユースを無定見にならべ立てた結果のおこぼれに過ぎないのだ。何よりもかゝる米國新聞の本質はその發達史の當然しからしむる所である。いまま少し米國新聞史を繰つて見よう。

米國で近代的新聞が現れたのは、十八世紀の初頭で一七〇四年創刊されたボストン・ニユース・レターがその嚆矢とされてゐる。

この新聞の創刊者は當時ボストンの郵便局長をやつてゐたジョン・キヤムベルで、この男が米國新聞の生みの親と云ふことになつてゐる。その後新聞は東部から中部、西部へと漸次普及して行き一八三五年にはニユヨーク・ヘラルド、一八四七年にはシカゴ・トリビュン、一八五一年にはニユヨーク・タイムズ、一八七六年にはシカゴ・デリー・ニユーズと云つた具合に有力な新聞が次々に現はれ、一九三七年の統計によると新聞の数は二千を越え、發行部数は四千三百萬を突破する程の隆盛振りを示してゐる。

### 米國新聞の特徴

かくして今日では米國の新聞事業は大企業化し所謂ビリオン・ダラー・インダストリー（十億弗産業）の一つとなつてゐる。このために新聞は立派に一つの商品と目され、如何にしてより多くの新聞を賣上げるかと云ふことが、新聞業者の念頭を支配してゐる。

今日では新聞の特異性と云ふことは讀者を獲得する魅力とはなり得ない。ピカーの大記者とか主筆とかを抱へて讀者を惹きつけることが出来たのは過去の話である。今や大衆は何よりもニユースを求めてゐる。

だから米國の新聞はニユース本位につくられ、ニユースの商品化、新聞の大量生産が新聞製作上の大方針となつてゐる。即ち費用に頓着なく、誰よりも早くニユースを獲得してこれを讀者に知らせることが新聞屋のモットーである。

だから米國の新聞がビッグ・ニュースのために割愛するスペースの大きなことは、頁數の少ない日本の新聞ばかり見てゐる我々には呆れる程だ。先の歐洲大戰の休戦の報に最初の頁のトップに横八欄メキの見出しを初めて用ひて世人を驚かせた米國新聞は數年後にはデンプシーとタニーの拳闘試合に同じスペースを費してゐる。又一九二七年リンドバークが初の大西洋横斷飛行に見事成功して歸米した日の米國新聞はタイムズが十五頁（寫眞も含む）、ワールドが八頁、ヘラルド・トリビューンが九頁をこの空の勇者のために捧げてゐる。時代の遷變りとは云へ、その昔ウォーターローの勇者ウ・リントン將軍が凱旋した時、當時のロンドン・タイムズが僅かに一欄の四分一をこの將軍のために費したに過ぎなかつたのに較べて全く今昔の感無きを得ない。

米國の新聞が販賣部數の増加を最大の目標としてゐることは上述の如くであるが、單に發行部數の多いことのみを以つてその新聞を評價する譯には行かない。ニューヨーク・タイムズが今日名實共に世界最大の新聞であることは自他共に許してゐるところであるが、それは新聞の態度、内容、品位、信用發行部數等有形無形の諸要素が綜合されて現はれた結果に外ならない。今その發行部數をエディター・アンド・パブリッシャーの一九四〇年版年鑑によつて見るに平日の發行部數は四十七萬部餘に過ぎず、日曜版でも七十八萬部餘に過ぎない。然るにシカゴ・トリビューン紙の如きは平日版九十四萬部餘、日曜版の如き百萬部を突破してゐる有様である。だからと言つてヤカゴ・トリビューンをニューヨーク・タイムズ以上に評價したり、或ひは同列に置いたりするやうな人は何處

にも居ないだらう。これは英國に於いても同様である。デイリー・メール紙の如き百五十萬の發行部數を誇つてゐるが英國最大の新聞としては誰でも發行部數僅かに二十一萬部餘のロンドン・タイムズを押すに躊躇しないだらう。

大産業化した米國新聞企業の一つの特徴はニュース・ペーパー・チェーン（又はグループ）と稱する連鎖新聞團の發達である。今日ではこれら新聞團の數は五十近くもあり、その總發行部數は全國の約四割を占むるに至つてゐる。而して全国的に連鎖網を張圍らして勢力を振つてゐるのが例のスクリップス・ハワード系とハースト系の兩横網である。前者は全國二十三の都市に二十四の新聞を擁し、後者は十五の都市に十八の新聞を持つてゐる。他の新聞團は殆ど地方的なものに過ぎない。

それから以上の連鎖新聞團とは稍々性質を異にしてゐるがニューヨーク・タイムズとかニューヨーク・ヘラルド・トリビューン或ひはシカゴ・デイリー・ニュースと云つた有力新聞社が海外に多數の特派員を擁してゐて、これら特派員からの特電を指定の新聞に供給する新聞のシンチケートも出來てゐる。

#### 米國新聞の對日態度

それから米國新聞の對日態度はどうかと云ふと、昔はハースト系は排日の張本人で日本はこのために随分煮湯を飲まされ、その傷手は今日尙癒えてゐない。否今日の日米間の悪感情を植ゑつけた抑

★の始まりはこのハースト系の排日記事であつた。ところが現在では前科者のハースト系が米國に於ける最も親日的な新聞となつてゐる。日米通商條約の廢棄問題がやかましかつた本年の初め頃、「日米間には通商關係を斷絶しなければならぬ理由は少しもない。條約廢棄は只米國が感情に走りすぎた結果で米國の本意ではない筈だ。米國はよろしく日本との斷交を避けよ」と堂々正論を吐いたのは他ならぬハースト系の新聞であつた。これと反對に昔親日的であつたタイムズ系の新聞が排日的となつてしまつてゐる。

それではどうして排日紙と親日紙とがこんな風に入れ代つてしまつたかと云ふともともとハースト系の新聞には資本系統から見ればドイツ系で、タイムズ系の新聞は英國系である。云はば兩者とも夫々母國の政策に順應してゐるに過ぎないのである。先の世界大戰前にカイゼルは自國の工業を東洋に進出せしめるためにあらゆる畫策を練らしてゐた。

日本と米國とが仲良くなるに米國の産業が東洋に喰込んでドイツ産業の進出する餘地がなくなると言ふのでハーストを使つて日本と米國との離間策を企てたと云ふのが新聞界の樂屋話しとなつてゐる。

#### 米國通信社の近況

米國は前にも述べた如く世界の各地に無線網が完成し、現在世界で一番早く情報の集まる場所であるが、その裏に有力なる通信社の廣汎に亘る活動があることを忘れてはならない。勿論今日米

國がいろんな意味から云つて世界一の大國となつてゐること、従つて政治的に經濟的に種々の國際的な利害關係が米國を中心として起りつゝあること、又世界各国の宣傳が米國を主たる對象として行はれつゝあること、このために世界各地からの情報の主流が米國に向つて流れる傾向にあることなどが大きな原因ではあらうが、米國通信社の大規模の通信網が世界各地に張られてゐることを見逃がしてはならない。

今ニュースが米國に早く集まる一つの實例を御紹介しよう。昨年十一月二十一日のこと、日本郵船の歐洲航路豪華船照國丸が英國の近海に於いて不幸機雷の犠牲となつた際に、我が同盟通信社はロンドン支局員の大活躍で遺憾なく之を速報して通信網の威力を發揮し得たが、この照國丸遭難の第一報が東京本社の外信部デスクに入電したのは二十二日の眞夜中過ぎ午前一時十七分であつた。それから續々後電が殺到して午前六時までに二十餘通の入電があり、同日の各紙朝刊は締切時間を延ばしてこの速報を續々掲載し、同盟電報は完全に各社特電を壓倒した。ところがこの第一報はロンドン直電にあらすしてニューヨーク支局發の至急報であつた。このニューヨーク・東京間の所要時間僅かに十九分、ロンドン直電の至急報第一報が入電したのが午前二時五十八分でニューヨークの第一報に運るゝこと一時間四十分餘である。この直電のロンドン・東京間所要時間は實に二時間半以上を要してゐる。これは何故かと云ふと、東京宛の至急報とニューヨーク宛の同文の至急報を同時に打電しても英國檢關係の方では自然米國向の電報を先に取扱ひ、日本向の電報は後廻しにし、

しかも検閲が、同文でも前者の場合よりも嚴重になる傾向があるからで、このために念がば廻はれ  
でロンドン直電よりもニューヨークの支局經由の電報が早く入電した譯である。

米國の通信社は通稱A・Pの名で知られてゐる聯合通信社(アソシエテッド・プレス)と合同  
通信社(ユナイテッド・プレス、略稱U・P)と國際ニュース通信(インターナショナル・ニュー  
ス・サーヴィス、略稱I・N・S)が所謂三大通信社と稱せられてゐる。A・Pは我同盟通信社  
の如く有力新聞社の聯合出資に成る通信で世界の有力通信社たるロイテル(英國)、同盟(日本)、D  
N・B(ドイツ)、アヴァス(フランス)の各社との間にニュースの相互交換を行つてゐる。現在の社  
長はロバート・マッククリンで、ケント・クーパーが重役として活躍してゐる。全米にニュース網  
を張繞らし他社の追隨を許さぬ地盤を築いてゐる。

U・Pは米國を始め三十九ヶ國の新聞、通信一千四百社に對してニュースを提供してゐる有力通  
信社で我が國では同盟通信社が出来るまでは日本電報通信社がこの通信社と提携してニュースの交  
換を行つてゐたが、現在では東日、大毎がこの通信社と提携してゐる。U・Pの現社長はヒュー・  
ベイリーだが、例のスクリップ・ハワード系との通信社との重役會長の要職には我國にも一、二  
回訪れたことのある米國新聞通信界の巨頭ロイ・ハワードが就任してゐる。I・N・Sはハースト  
系の通信社で社長はジョセフ・ロノリーである。我國では讀賣がこの通信社と提携してゐる。  
次にこれら有力通信社の今次歐洲戰爭に對する手配振りを眺めて見よう。歐洲政局の風雲愈々急

となつた戰爭勃發直前の陣容を見るにA・Pの歐洲特派員は百名を超え、ロンドン、パリ、ベルリ  
ン、ローマその他の各地に散在してゐるこれら特派員は、歐洲總支配人としてロンドンに頑張つてゐ  
るミロ・トムソン配下に大活躍を演じてゐる。これら特派員の下に働いてゐる助手諸君は二千名を  
突破すると言はれる。次にU・Pの特派員を見るに同社の語るところによると歐洲各地に五百名の  
腕利きの特派員を擁してゐるさうで、これらがロンドン支局にある總支配人ウェップ・ミラー(最  
近死亡)及び副支配人エドワード・キーンの下に活躍してゐる譯である。I・N・Sにしても歐洲の  
各主要諸市には五名乃至十名の特派員は派遣してゐるさうで、ニューヨーク・タイムズの歐洲特派  
員四十名などに比してこれらの通信社が如何に活躍してゐるかが窺はれる。

最後に米國のニュース検閲について見るにこの點は極めて寛大で今日世界で言論の一番自由な國  
だと言はれる程あつて、今度の戰爭に際しても一般のニュースに對しては殆んど検閲は行はれて居  
ない。只一九四〇年六月中旬以降陸軍省關係のニュースに關しては陸軍省新聞が一切を統制するこ  
ととなつたため、結局陸軍省に關するニュースのみが事實上検閲を受けてゐる譯である。

### ラヂオ放送

米國のラヂオ放送は早くも一九二〇年にピッツバーグに世界最初の放送局が出来てゐるだけに、  
その普及發達振りは他國の追隨を許さないものがある。米國のラヂオ放送は聯邦通信委員會の監督  
下に民間企業として自由競争して許されてゐるのであつて、廣告放送による料金を収入が財源となつ

てゐるため聴取は無料である。一九三六年來に於ける全米の放送局總數は七百局に達してゐるが、これらが新聞の場合の如く多數のチェーンに参加してゐる譯で、その大半はナショナル放送會社(N.B.C.)とコロンビア放送會社(C.B.S.)の二大放送會社の傘下にある。尙放送事業の性質から新聞社が放送局を支配せんとす傾向が増大し、新聞社の支配下にある放送局の數は一九三六年の初め既に百五十局近くに達してゐたが、スクリップ・ハワード系、ハースト系の新聞社などは自ら放送局を運営してゐる。

放送局にニュースを提供してゐるのはA.P.、U.P.、I.N.S.などの大通信社の外にトランス・ラジオ通信社やラジオ・ニュース通信社などがある。

米國のラジオ放送は一定の廣告主から財政的に援助を得て行はれてゐるために放送の内容に廣告主の干渉が多分に加へられる懸念があり、このため種々の弊害も生ずる譯であるが、信用ある放送會社は權威を保つ上からも廣告放送には相當の自制を行つて居る。

米國の對外放送に於ける最近の著しい動向は全體主義國家のラテン・アメリカ進出に對する近年の米國外交通商政策を反映して中・南米向放送が著しく擴充されて來たことである。最近米國が外國向短波放送に乗出して來たことは獨、伊その他の中、南米諸國に於ける宣傳放送に對抗し、モンロー主義の確立強化を圖り、南米貿易の覇權維持に躍起となつて居る證左である。中、南米向放送はN.B.C.、C.B.S.を始め十幾つの放送會社がスペイン語やポルトガル語を用ひて夫々毎日數時間の

放送を行つてゐるので放送時間の總計に於いては各國を遙かに凌駕してゐるが、中南米諸國に於けるラジオ・セットの大部分が短波受信に適しないため、その効果がどの程度のものであるか、少くとも短波用ラジオ・セットの普及を見るまでは効果は擧げられないものと見られてゐる。

### 3 佛—「文化と自由」は何處へ?

#### 無統制な組織

フランスの敗北は同國の持つ一切の宣傳機關を無に歸してしまつた。たとへ今後、極めて限られた範圍内の國內宣傳が、獨逸軍當局によつて許可されるとしても、既にそれは宣傳の名に値するか否か、甚だ怪しい。たゞこゝで我々は、その脆弱を極めた宣傳組織をふりかへり、戦争における宣傳組織の成否が如何に致命的であるかを見ることとしよう。

大體いままでフランスに宣傳機關があつたのかといはれれば、ある意味ではなかつたとしかいへない。今日の様に宣傳が政治と結びついた時代——本當はそれ以外に「宣傳」はない——に、國家が眞に統一されてゐないところに眞の國家的宣傳があるわけではないのだから、さうも云へようではないか。

フランスには昔から「言論の自由」があるといふ。自由と文化と、これがフランスの賣物であり宣傳だつたのだ。いはゞ自然發生的な宣傳の形式である。だから當局は、この宣傳を補助すればよ



かつた。觀光局と出版物でフランスの文化と自由を世界に告げ、船と汽車で、世界のお客がフランスへ流れこむ路をつけること、これが宣傳の仕事の全部だつたのだ。

歐洲戦がはじまると、流石にフランスも「宣傳の統制」と「統制的宣傳」に就いて考へ始めた。國外へ出る電報の檢閲強化が先づ行はれた。然し馴れない仕事は誰も失敗する。戦争が始まつて半年世界の新聞記者から一番憎まれたのはフランス檢閲當局だつた。電文は一切フランス語でなければ駄目、缺はめちやくに入つて、大抵のバリ電報は意味が通じない。國內でも同様のことが起つた。

毎日の戦況發表が簡單すぎて國民は何がどうなつてゐるのやらちつとも判らんといふのだ。新聞の無氣力も甚しかつた。たとへば歐洲戰勃發直後、ある有名なバリの新聞の如きは「ヒトラーが戦争すると云ふからやるだけの事だ」と書いてゐる。たとへそれがフランスの本音であるとしても、これで果してよく國民の精神を戰時的昂揚に引上げられるかどうか考へて見るがいゝ。獨逸側の宣傳が終始一貫明確な戦争目的を掲げたのに對し、フランス側は戰の終る迄殆んど目的らしいものを發見しなかつたのだ。

#### 新聞通信の現状

それはさて置き、戦前のフランス宣傳組織を點檢しよう。日本の同盟と特別契約を結んでゐるアヴァスなどは同國の代表的な宣傳機關である。この通信社が創立されたのは、一八三五年と云ふから、歴史としてはロイテルよりも古い。當時ハンガリア系佛人でパリに住んで居たミカエル・アヴ

アスと云ふ男が、各國の新聞記事を翻譯して新聞社に供給したのが、アヴァス通信の始まりだ。ロイテル通信の創始者ユリウス・ロイテルも一時アヴァスの下に使はれてゐた事があると云ふ。

アヴァスは有線通信網が殆んどロイテルによつて獨占されてゐるのに對抗するため、逸早く無線通信網の實用化に着眼して、各國に魁けて對外無線放送を開始したことは、注目すべき點だらう。

云はば、アヴァスは無線による通信社組織の鼻祖とも云ふべきで、我國へも同盟通信社を通じて日に約八、九千語のニュースを放送して居り、これはパリ落城について政府がトゥールに移轉する迄續けられた。

アヴァス無線放送の重點は勿論同國の植民地、半植民地への宣傳にあり、これは仲々活潑であるが、もう一つラテン・アメリカに對する放送も相當重大な役割を果してゐる。敗北前途通信はラテン・アメリカ向けに二十四時間打通しの放送を行つて居た位だが、これは勿論同地方がフランスの重要な商業上のお顧客だからに他ならない。

尙前にも述べた様にフランスには殆んど見るべき政府宣傳機關がなかつたため、政府の情報蒐集は専らアヴァス通信網に依存して居り、フランス外務省などは在外使臣の公報よりもアヴァス通信員の情報により多く依存してゐたと傳へられるが、結局確固たる政府機關がなく、全く營利組織に過ぎない同通信等に依存したことが、有事の際に佛國當局の判斷を誤らしめた大きな原因となつたものであらう。

アヴァースの他にラチオ・アジアンス、クーリエ等の通信社があるが大したものではない。尙最近佛印に新しく商業通信社が設立され、日本の手を通じて本國に放送してゐる。

通信の次は新聞だが、その中には政府機關紙のタンはじめ、一九三七年の調査によると二百四十餘程あり、数だけは大したものだった。しかし發行部数は一紙十萬部を出るものなく、隣國イギリスの比ではない。結局輿論を支配するやうな政府宣傳組織も有力な新聞もなかつたことが、政治上における不統一と相俟つてフランスをして宣傳戦に惨敗せしめたものだらう。

その上フランスにはヒトラーとかムソリーニあたりと比肩し得る様な宣傳家が居なかつたことも宣傳戦敗北の重要な因だ。と云ふのはフランスが今迄餘りにも國際聯盟の宣傳力に依存しすぎたため、フランスの國際場裡での大芝居も、國際聯盟の衰退とともに消えたのだ。ブリアン以後大きな「宣傳家」をフランス政界に求められなくなつたのもこの理由による。

だから今度の戦争が始まつてからも、フランスからの電報が傳へた「宣傳戦」は淋しいものだった。シュツァリエとフランソアズ・ロゼエとが唄を歌つたとか、放送したとかが最大の話題であり、世界の文化人がその一言一句に知性の最高峰を求めたアンドレ・ヂイド等は遂に戦の混亂の中にその姿を見失はれたのであつた。

#### 4 獨—鐵の組織

##### ヒトラーの宣傳觀

前大戰に於て宣傳の威力が如何に致命的なものであるかを、どの國よりも身にしみて體驗したのは、他ならぬ敗戦國ドイツだった。我々が既に幾度も引用した様に、敗戦後獨逸軍首腦部が擧つて敗北の原因を英國の宣傳戦に求めたのは決して強辯ではない。ドイツが武力に勝つて宣傳に負けた事實は、勝利に酔ひ痴れてゐた聯合國側すら認めてゐた所である。さればこそ戦敗の廢墟の中から雄々しく立ち上つたヒトラーが何條この貴い經驗を見逃さう。ナチズムが天下を取るに至つたのは、勿論政治的經濟的に見て必然的な原因が充分あつたにしても、ヒトラーの天才的宣傳術が多分に與つて力あつた事實も無視さるべきでない。實に彼こそはかつて敵の用ひた武器を極度に逆用して天下を取り、果ては全歐洲に覇を唱へんとしてゐるのだ。

宣傳に對するヒトラーの見解は、一九二四年レツヒ河畔ランツベルクの要塞監獄で執筆した例の「我が闘争」に要約されてゐる。彼は述べる。宣傳は誰に對してなすべきであるかと云へば、「永久に大衆に對してのみ行ふべきである、宣傳の任務は個人を科學的に訓練することではなくて大衆の注意を、ある一定の事實、事件、必要に集中させることである、即ちこれらの事物を重要らしく見せることである。」従つてヒトラーにとつて宣傳の對象は常に大衆であつて知識階級ではない。知識階

級にはたゞ科學的な指令を與へればよいとしてゐるのだ。又ヒトラーは同じ箇所では宣傳は宣傳夫自身の眞理に奉仕せよと叫んでゐる。「大衆の吸收能力は、非常に制限されてゐる。大衆は忘れることは極めて多いが、理解することは極めて少い、従つて宣傳に於ては特に重要な項目二三を嚴密に限定して、どんなに無知な者でもその意味を知らずに居られなくなるまで、それを繰返して説くことが肝要である、この原則を無視するや否や宣傳は忽ちその效力を失ふものである。」

#### 宣傳の國家機關

ではかゝるイデオロギーの下に組み立てられたナチス獨逸の宣傳組織は現在どの様な状態にあるのか。勿論その歴史はナチスの政權掌握と同時に始まるのだから、至つて新しい。ドイツ全土に亘つて宣傳を統帥する宣傳省の出來たのは漸く八年前の一九三三年三月のことである。だがその腹案はヒトラーが國家社會主義革命に志した抑々の當初から練られに練られたものだけに、間然する所なき完成美を誇つてゐる。

宣傳省、正確に云へば國民啓蒙宣傳省とは「政府の政策及びドイツ祖國の再建に對する國民の啓蒙及び宣傳の目的のために創立す」と當時のコミニケは謳つてゐる。初代の大臣はナチス黨の宣傳部長兼ベルリン大管區長で黨隨一の雄辯家を以て鳴るゲッベルス、その下に今を時めく經濟相兼ライヒスバンク總裁ワルター・フンクが次官となつた。この宣傳省出現には流石に全世界があつと驚いたものだ。從來陰へ廻つてこそ宣傳に餘念のない民主主義諸國も、流石に表面は之を蔑視して

公然と宣傳機關を政府直屬となし得なかつた所に、ナチスは敢てこれをなしたのである。

創立當時の宣傳省は七部に分れて居り、一部は立法と法律、二部は宣傳、三部はラヂオ、四部は新聞、五部は映畫、六部は劇場、音樂美術、七部は外國と云ふ具合になつて居り、一方同省には十三の地方局、十八の國宣傳局が從屬し、これらは連絡局を通じて宣傳省と接觸を保つてゐた。その後宣傳省の組織は幾分改正され、前記七部の他に新に著作部が加はり、又第六部中から音樂及び美術が第三部から國民文化勞作部が夫々獨立して結局現在では合計十一部となつてゐる。

次に各部の具體的活動狀況をクルーゲの説明に従つて見て行かう。第一部は組織問題を取扱ふもので三つの小部門が含まれてゐる。即ち(A)財政、(B)人事、(C)法律の三部門で(A)は一般の經濟問題、ドイツ經濟委員會、ライプチヒ見本市、内閣文庫等を監督し、(B)は内閣及び内閣により保護されてゐるすべての會社の人事問題を取扱ひ、(C)は立法行爲、契約、約定を法的に審理し、國文化院を監督してゐる。第二部の宣傳の任務はドイツの國民的祭典日の設定、冬期救濟事業の組織、母子運動の宣傳、その他一切の宣傳的性質のもの、例へば共產運動の宣傳的克服、外客誘致の宣傳等が入る。

第三部は全ドイツの放送局を指導監督するもので政府が最も力癪を入れてゐる部門の一つだ。第四部の新聞部は同時に政府の新聞部で報道制度はすべてこの統制に服しなければならぬ。この部は更に三部に分れ、國內新聞部、外國新聞部、無線業務部がある。各國のドイツ特派員が指令をう

けるのが、その中の外國新聞部だ。第五部はドイツの映畫製作が眞にドイツ的な本質を反映し、國家にとつて有用なものを作る様に指導するもの。この部の指導下に作られた映畫がどんなものかは、すでにオリンピアその他で我が國民も先刻御承知の筈。第六の劇場部も映畫部同斷、特にこゝでは五大國立劇場の指導監督に力を注いでゐる。第七部の外國部と云ふのは、外國に於ける反ナチ宣傳を克服する部で、今次大戰勃發以來華々しい活躍をなしてゐる。第八部の著作部は國內外のドイツ圖書の保護を任務とする。第九、第十は映畫、劇場と同様で説明を要しまい。第十一部、即ち、國民文化勞作部は、「喜びによる力」團(K・D・F)と聯絡して國民の文化的啓蒙を司つてゐる。

#### 通信及び新聞

以上政府の宣傳統制機關を見て來たが、次に政府に直屬し或はその指導下に活躍してゐる宣傳組織の實相を通信、新聞、ラヂオ等について見よう。

ドイツの通信社として先づ第一に頭に浮かぶのは例のD・N・Bと云ふ文字だ。ドイツ・ナハリヒテン・ビュロー、これを略してD・N・Bと呼ばれるのは、ナチス政府直營の通信社で、一九三四年世界的に著名なウォルフ通信社とテレグラフ・フェン・ウニオンとが合同して出來上つたもので現在世界通信聯盟に加入してゐる。この社は宣傳省の指導下に不斷に對外宣傳を行つて居り、一方ナチス政府は、この通信社を利用してニュースの蒐集を行つてゐる。改組後日未だ淺いが、流石に國宣傳省をバックとしてゐるだけにその活動は目ざましいものがあり、今次大戰を通じて英のロ

イテルとの激烈な報道戦は實戰以上の興味を興へてゐる。

D・N・Bの他に有名なものとしては、トランス・オツェアンが擧げられる。これは専ら對外通信だけを目的として居り、特に南米その他の親獨新聞に働きかけてゐる。その他外務省に屬して外交問題を扱つてゐるものにドイツ政治交通通信社(D・I・T・E・D・I・P・R・M・T・I・S・H・E・P・O・L・I・T・I・S・H・E・C・O・R・E・S・P・O・N・D・E・N・T・S)あり、ソ聯及び東歐問題専門にオステラクス・プレス、黨通信に關してナチス黨通信社(N・A・T・I・O・N・A・L・S・O・C・I・A・L・I・S・T・I・S・H・E・P・A・R・T・Y・C・O・R・E・S・P・O・N・D・E・N・T・S)等がある。

次にナチス政權下の有力新聞を瞥見しよう社會のあらゆる隅々に嚴重な統制網を張りめぐらすナチスが、勿論新聞を見逃す筈がない既に述べた様に宣傳省の第四部は新聞に關するもので、こゝで毎日新聞會議が催されて各紙は日々統制指令を受け取つてゐる。統制は記事のみでなく、伊太利同様記者に迄及び、記者となるにはすべて宣傳省の認可を要し、かつその資格はアリア條項により人種的制限を受ける。かくて左翼から自由主義に至る迄の多數の新聞が廢刊、若しくは變質せざるを得なくなり、ドイツ最古の歴史を誇つたフォッシッシャ・ツァイトツングの如き有力紙すら遂に消えて行かなければならなかつた。

現在活躍してゐるのはすべてナチス機關紙か、或はそれに準ずるものばかりだ。そのうち主要なものを列挙しよう。第一に擧げらるべきはベルリンに於ける黨機關紙フェルキツシャー・ベオバハターだ。同紙は創刊は頗る古いものだが、ナチスがこれを獲得して機關紙としたのは一九二三年以

他の新聞、雑誌、書籍、新聞紙の代表的新聞で政府又はナチス名士の寄稿多く発行部数もベルリン第  
位の新聞は「人民報」その他新聞紙としてはアングリンがあるが、発行部数十萬餘でベオバハタ  
一は、発行部数の多い點では人民民主主義者の「ベルリン・ナチ」が随一で四十餘萬  
と推定されるが、ナチスの重要新聞として今日では無色な家庭新聞となつてしまつてゐる。かつて民主  
主義者、労働者、農民、学生、知識階級に好まれてゐたベルリン・ナチ・ターゲブラットはナ  
チス政権の成立と共に、今日ではナチス系に乘取られて辛うじて餘喘を保つてゐる状態  
である。

#### ナチス系新聞

ナチス政権の成立と共に、今日ではナチス系に乘取られて辛うじて餘喘を保つてゐる状態  
である。

ナチス系新聞のナチス系新聞の特色とも言ふべきは大衆聴取組織の存在である。黨には多数のラジオ  
監督官が直轄して居り、政府當局が何れ国民に呼びかける必要の生じた時、この監督官が出勤し、

町の大廣場にラウドスピーカーを設置するのだ。その他學校、工場、一般集會場等にも備へつけ  
る。かくて用意整ふと全ドイツ國民はあらゆる仕事の手を休めてスピーカーから流れ出る聲に耳を  
傾けると云ふ仕組みである。

ドイツに於ては通信、ラジオのみでなくあらゆるものがすべてナチズムの宣傳機關だ。映畫も劇  
場も美術も決して「藝術のための藝術」などと云ふ陳腐なイデオロギーを守つては居ない。否それ  
どころかスポーツも慰安も悉くその選に洩れないのだ。「喜びによる力」團の組織がしかり、愛國人  
訓練制度がしかりである。しかしこゝではそれらに多く觸れてゐる餘裕がない。

#### 第五部隊の活躍

さて最後にナチスの宣傳組織中見逃してならないものは、今度の大戰で一躍有名になつた第五部  
隊（フィフス・コラム）の存在だらう。第五部隊に關しては前にも觸れたから茲では簡単に述べる  
だけに止めるが、何にせよチェコ、ポーランド、ノルウェー、オランダ、デンマークと何れの攻略  
にも同部隊は相當大きな役割を果してゐるのだから、ドイツに狙はれてゐる民主主義諸國の恐怖も  
小さしとしない。

前記被征服諸國の第五部隊に關しては既に最近一ヶ年間の我が新聞紙上でもお馴染の筈だから略  
すとして、以下英國、米國及び南米諸國の第五部隊を瞥見しよう。英國に於けるドイツ第五部隊と  
云ふのは、親獨的名流英人を會長とする「リンク」集團である。これは本部をホルボーンに置きそ

の他重要箇所に支部を設けてゐる。この組織のメンバーは主としてタイピスト銀行事務員、個人書記等の中産階級に屬するものから成り、ドイツで印刷された會報の配布を受け、ドイツのなしたあらゆる行動を正常化す如き宣傳を受けてゐる。このリンク組織は現在數千の會員を擁し、イギリス帝國の痛となつてゐる。これに對して同國は徹底的な彈壓政策を以てのぞむ一方、無言部隊運動によつて對抗せんとしてゐる（英國の宣傳網の項參照）。

アメリカに於けるナチス第五部隊としては一九三七年頃「獨系アメリカ人團體」と云ふのがあつて、百以上の支部、數萬に上る會員を擁し、ドイツ宣傳省の指令下に活躍して居たが、この團體はその後結成されたより強力な組織たる米國ナチ黨及び獨系アメリカ人戦線に吸収された。現在米國政府の頭痛の種となつてゐるのは、前記米國ナチ黨及び獨系アメリカ人戦線の二者で、前者は一九三四年に組織された米國ナチ少年團を母胎として、今では全國的組織に發展し、チャーマンタウンを中心に相當の活躍を行つてゐる。後者は一九三八年十月に結成されたもので、ニュー・ジャージーに本部を置き、米國に於ける全獨系人を單一組織の下に糾合せんとしてゐる。現在のところ右兩者の關係がどうなつてゐるかはよく判つて居ないやうだ。今度の大戦以來アメリカ當局がこの第五部隊の存在を苦にすることは大したものので最近のネーション誌に於てフレッド・カーチウェイの如きは次の様に警告を發してゐる位だ。「我々は第五部隊を抱いてゐる。彼等はヒトラー總統のスコーガンに共鳴しナチ斯的行動を真似る。彼等は常に尊敬すべき反動勢力の支持後援を受けてゐること

をよく自覺してゐるのだ。これらのグループは當然監視を受け、且つその非合法的行動は抑制されねばならぬ。」

ナチス獨逸が特に南米方面に於ける宣傳に力を注いだ當然の結果として、南米諸國には早くよりナチズムが浸透して居た。一九三八年九月チリーのサンチャゴにナチ暴動が起つたことは尙記憶に新たなる所だし、三九年五月におけるリオ・デ・ジャネイロの叛亂もブラジル・ナチスの仕業だつた。現在チリーのナチ黨は四萬乃至五萬の「潔く身命を賭する會員」を擁してゐると云はれ、ナチ第五部隊中の最強力なものの一つだ。ブラジルのナチ黨たるインテグラリスタは一時相當勢力を得て居たが、三九年春の叛亂失敗後は當局の彈壓下に地下に潜んだものの、依然その鋭鋒を磨いてゐる。その他スイス、スペイン及びバルカン諸國にも夫々第五部隊が活躍してゐるが、茲には紙面の都合上割愛する。

## 5 伊—統制の先驅

### 嚴重な宣傳統制

イタリーはソ聯と共に獨裁制の先驅をなした國だけに、その宣傳組織は仲々がっちりしたものだ。その上御大ムソリーニが新聞記者上りだから、宣傳網の統制も相當水際立つてゐる。ムソリーニは政權を掌握すると同時に、鋭意宣傳組織の統制に力をつくし、新聞を手はじめに嚴

重な統制を加へはじめた。先づ新聞紙に對しては一九二四年早くも日刊新聞紙統制法を公布して、ファシスト政府及び黨を非難したり、或は國家的見地から見て有害と思はれる様な報道は一切掲載を禁止したが、更に一九二六年から新聞記事はすべて當該地方知事の許可を要することとなつた。又政府直屬の新聞監督機關たる情報局が出来てからは、新聞紙はその嚴重な監督に服することとなり、隨時同局が發する指令に基いて編輯しなければならなくなつた。かくして、政府の政策の取扱方から、場合によつては一問題に與へらるべきスペースの大きさ、見出の大小、大組みとなつた場合の體裁などに至る迄情報局が差圖するのだ。

統制は、たゞ新聞の紙面のみに限られるのではない。新聞の經營者及び従業員に至る迄徹底した統制を受けなければならぬのだ。即ちファシスト黨は既に早くから全國有力新聞の社長や主筆に自黨の有力者を送り込んでゐたし、又新聞記者は新聞記者登録規則に従つてすべて政府の認可を経なければならず、かうして認可を得てジャーナリストとなつた者でも更に新聞記者ファシスト同業組合に加入して黨の統制を受けると云ふ仕組みとなつてゐる。

かうした嚴重な統制の下に共和黨の機關紙ラ・ヴォーチエ、社會黨の新聞ラヴァンティ等々の名が消えて行き、伊太利第一の新聞で自由主義を標榜してゐたミラノ市のコリエーレ・デツラ・セーラやローマ市の有名なイル・メッサジエーロ等は主腦部の首をすげかへて準ファシスト紙化して行つた。一方純ファシスト紙や新しくファシズムを標榜して誕生した新聞等には補助金を交付したり、

その他色々の手厚い保護が加へられてゐる。

#### 主要新聞通信の現状

現在ファシスト機關紙中一番華々しい活躍をなしてゐるのは社長兼主筆にファシスト黨隨一の健筆家ヴィルジニオ・ガイダを頂くジョルナル・レ・ディタリアだ。この新聞は一九〇一年の創立で、かつて元外相ソルニエーノ男を中心とするフリー・メーソン結社の機關紙としてムソリーニと戦つた歴史を持つてゐるが一九二七年ファシストに買収されてからはその機關紙と化してしまつた。現在發行部數約二十五萬のうち十五萬は國外購買部數と云はれる。

ラヴォロ・ファシスタはファシスト労働組合同盟の機關紙でラヴォロ・ディタリアの改稱したものの發行部數五萬。トリビュナは愛國主義と強硬外交の主張を以て鳴り、發行部數約九萬。その他準ファシスト紙として發行部數九萬のメッサジエーロがある。以上がローマの四大新聞だ。

右の他ミラノには現在昔日の傳なしとは云へ、尙發行部數ではイタリー第一のコリエーレ・デツラ・セーラ（三十五萬）があり、ムソリーニ首相の機關紙として有名なポポロ・ディタリアがある。このポポロ・ディタリアはムソリーニが一九一四年自ら創刊した新聞で、現在はムソリーニの甥のヴィットが經營の任に當つて居り、發行部數も二十五萬に達する伊太利最重要紙の一つだ。その他各地にファシスト機關紙、準機關紙が數十紙存在してゐるが、何れも取立て述べる迄もあるまい。

海外からの、及び海外への電信報道はすべてステファニー通信社によつて行はれてゐる。この通信社は表面上は個人企業と云ふことになつてゐるが、實際はもとより政府直系の半官通信社だ一八五三年トリノ市に創設されたもので、前蔵相ヴォルピ伯が買収してムソリーニに寄附したものと云はれてゐる。

ファシスト政府が同通信社に與へてゐる特権は大したものので、先づ第一に多數の豫約を申込み、この通信を各省大臣、次官、縣知事、警察署に配布して居り、第二に一定の語数を限つて國有電信による無料打電を許してゐる。そのみではない。政府が何か世界的に發表しようとする公式ステートメント乃至文書を外國通信社に打電する場合その通信費用の全額を負擔してゐる位だ。その反面同通信が政府の嚴重な監督に服してゐることは云ふ迄もない。

#### 映畫

伊太利も近代的な宣傳武器たるラチオの活用を怠つて居ない。このラチオは抑々最初からファシスト政府直屬で、従つて統制はそれだけ非常に簡單に行はれた。現在ラチオ放送権は伊太利ラチオ協議會の手に委任されてゐる。ローマ、ミラノ、テューリン、トリエスト、パレルモ等に強力な放送局が設けられて居り、特にローマ市附近のサンタ・パロンバにあるものは出力二百五十キロワットの能力を備ふるもので歐洲に於ける最強力なものの一つだ。これらの放送局から伊太利は日夜各般の宣傳放送を行つてゐるが、その外交政策上特にアフリカ及び近東向け放送に主力を注いでゐる點は云ふ迄もなからう。

新聞、ラチオに次いで映畫もイタリーにとつて有力な宣傳機關だ。映畫を宣傳の武器たらしめる目的で教育映畫同盟、略してルーチェが組織され、こゝで政府の宣傳映畫が作られ全國に散在する三千八百の映畫館は必ず毎日ルーチェ製作の短篇を上映しなければならないことになつてゐる。ルーチェの作る映畫は伊太利内外の重要な出來事、ファシストの活動狀況、海外に於けるイタリーの企業、其他イタリーの農業、文化、觀光、軍事、衛生等色んな方面に及んでゐる。ルーチェは官學ではなく準公共團體となつてゐるが、その指導監督はムソリーニ首相の指名したルーチェ政府委員會の手にあり、全く官營同様の効果をあげてゐる。その代り政府は損失補填の恩典をこれに與へてゐるのである。

### 6 蘇—赤い宣傳の網

ソ聯の國家宣傳は共產主義による世界革命といふ甚大な計畫遂行手段の一翼としてなされてゐる。自國の依つて以つて立つ主義、國是の正當性を高調し、他の國家の反眞理性を暴露して、内外に訴へ、自國の團結を愈々固くすると共に、相手國の團結の根本精神を衝いて、その陣營を崩壊させるといふいはゞ宣傳の第一義に徹した點で他の國家に一頭地をぬきんでゐると云へるだらう。何しろレーニン、トロツキヤを始めとして、革命のリーダーは殆んど悉くジャーナリストとして



の経験者であつたし、目指す世界革命遂行の手段として、宣傳といふ武器をこの國の當局者ほど良く理解してゐる國はない。従つてその國家活動の多くが宣傳的要素を含んでゐるのだが、こゝでは新聞通信を主に紹介しよう。

### ソ聯の新聞

誰にでも知られてゐる代表的な新聞は「ブラウダ」と「イズヴェスチヤ」だ。ブラウダ(眞理)は約四百萬部發行され、黨機關紙として黨の決定及び意向を代表する。イズヴェスチヤ(報道)は約百七十萬部發行され、政府機關紙であつて、重要法令は本紙によつて公布される。外交に關する論説や報道は政府の意向を反映してゐるのであるが、その記事について外國政府側から文句が出ると同紙の記事に對して、ソ聯政府は責任を負ひ難いと突放してしまふ。

この他に、マシノストロエニエ(機械製作)、エコノミーチエスカヤ・ジーズニ(經濟生活)、クラスナヤ・ズヴェズタ(赤い星)、リョフカヤ・インドゥストリヤ(輕工業)、ソチアリスチエスコエ・ゼムレチエーリエ(社會主義農業)、ソヴェツカヤ・トルゴヴリヤ(ソヴェト商業)、レスナヤ・プロムイシユレンシノスチ(林業)、ザ・ビシチエヴリユ・インドゥストリユ(食料品工業の爲に)、グドーク(汽笛)等の政府諸機關の機關紙があり、コムソモリスカヤ・ブラウダ、ピオニエールスカヤ・ブラウダは兩者共聯邦青年共產同盟中央委員會の機關紙、トルード(労働)は聯邦労働組合聯合會の機關紙で、藝術方面では、リテラトゥールナヤ・ガゼータ(文學新聞)はソヴェト作家同盟の、

ソヴェツコエ・イスクリストヴォ(ソヴェト藝術)は藝術問題委員會の機關紙となつてゐる。以上は中央新聞であるが、地方新聞が地方行政區劃の中心城市で發行されてゐるし、所謂「壁新聞」といつて、工場、軍隊、各種團體の下級機關の發行するものも無數にある。

これ等の新聞を發行するものはすべて黨機關、労働組合、人民委員部、ソヴェト機關、協同組合、軍隊、學術研究團體、その他各種の労働者、農民、インテリゲンチヤの公認團體に限られてゐて、他の一切の機關と同じく新聞も共產黨の支配下に置かれ、國策の遂行に協力することがその經營の原則とされてゐるのだ。

各新聞は責任編輯者の完全な責任の下に編輯され責任編輯者は必ず署名する。ブラウダとイズヴェスチヤは數人から成る編輯委員會が全責任を負ふことになつてゐる。その責任は專屬の記者の書く記事ばかりでなく、寄稿者の原稿に對しても要求されるから、社會の進歩、大衆の利害關係といふ見地からみて有害であると責任編輯者が考へる寄稿は受けつけない。又誇大、過小の記事、誤つた意見が發表された場合はそれを訂正する義務がある。ソ聯の新聞には自殺、強盜、戀愛沙汰の如き記事はあまり載らない。若し載せられたりしても事實を簡単に報道するだけか、それらの事實から社會的教訓をひき出すのが普通である。すべての記事は社會の進歩、人民の利益といふ立場からその價值をはかられ、又必ず高い政治性が要求され、いはゆる「言論の自由」は存在しない。

出版物及び新聞に對する檢閲機關としては國家出版部がある。この國家出版部は出版物の統制を

行ふ許りでなく、印刷機械や紙の供給まで、統制してゐる。

#### タス通信社

海外のニュースを蒐集する爲には、ソ聯人民委員會議に附屬する政府通信社「タス」がある。自社の在外特派員を持つてゐる新聞は現在の所、イズヴェスチヤ、及びブラウダの二紙だけで、何れもロンドン、パリ、ベルリン、ニューヨーク、ローマ等の各地に特派員を置いて、その特電を載せてゐるが、この特電以外の海外電報は總てタス通信社から配給されてゐる。タス通信社は新聞に對する外國及び國內の政治、經濟及び文化に關する通信を供給するのが任務で、ソ聯邦電報通信社（テレグラフエ・アゲンストヴォ・エス・エス・エル）の頭文字をとつてタスと呼んでゐるのだ。タスは各國の通信社と特別契約を結んで通信の交換をする外、ベルリン、東京、ロンドン、ウィーン、パリ、ニューヨーク、上海等の世界主要都市に特派員を配置してゐる。

一寸變つてゐるのはタス通信社が配給する通信の「見出し」が、總てその電報の内容に對するソ聯政府當局の短評となつてゐること、イズヴェスチヤ、又はブラウダ等の中央大新聞以外の地方新聞は、タス通信社の電報を見出しごとそのまゝ使はなければいけない。

タスの内部機構は凡そ他國の通信社とは違つてゐる。報道に關する部門が外國通信と内國通信の二つに大きく分れてゐるのは同じだが、内國通信の取材關係部門は、重工業部、輕工業部、財政部、交通運輸部、農業部、文化啓發部、體育運動部、モスクワ市内部の八つに分れてゐるところなど、

ソヴェト國家體制に如何にもピッタリしてゐるわけだ。内國の發信先はウズベキスタン、トルグメニスタン、ラトビア、白ロシア、タジキスタン、ザコーカサスの六つの系統通信社で、外國通信は一切タス本社の外國通信部が司る。

専務理事にタス建設の功勞者ドレッキーが一九三八年のカラハン事件に連座した後、ハビンソンといふ若手の腕利が椅子に坐つてゐるが、その下に本社だけで五百人、系統通信社を入れると約二千五百人の社員を擁し、陣容からいつて世界の一流通信社の域に達してゐる。

タスが最近力増を入れてゐるのは、御多分に洩れず「無線放送」で、國內放送の数はちよつと知り難いが對外的には毎日二回午前十時—十時五十分、午後九時四十分—十時二十分にフランス語で毎日二百乃至二百五十語を世界の空に送つてゐる。

タスが國內の約一萬に上る新聞社への通信供給を獨占してゐるのは當然だが、對外的には重慶政府側諸新聞、アメリカのデーリーワーカー、ネーション、ニューパブリック、イギリスのデーリーワーカー等左翼諸紙へ直接ニュース配給を行つてゐる事實は、注目すべきだらう。

## 五、日本と宣傳

### 1 東京に渦まく列國の宣傳戰

十五年ほど前になるが、歐洲のある新聞記者が、東京に三ヶ月ばかりゐたのち、かう放言した事がある。

「日本ほど情報の取りやすい國は無い、知りたいやうな資料は、頼めば進んで持つて来てくれる。しかも此方の本國の立場なんか宣傳しようと思へば、此方の云ふ通り、信用してくれる、先づ外國の新聞記者や外交官には、仕事にかけては、樂園みたいな國ですよ」と。

しかしいまは、宣傳にかけても、そんな赤ん坊日本では無い「宣傳でも眞正面からは攻めにくい日本」といふのが外國の宣傳屋たちの定評となつてゐる現在だ。

防諜上の注意は、一般に行き届いて來たし、ジャーナリスト達も、その點細かい注意を拂ひ、また檢閲が實に周到を極めて、滅多に資料など與へる事ではない。そしてまた歐米から、直接呼びかけて來るラヂオ放送の國內聴取には、嚴密な統制が行はれ、海外からの報道には日本人通信員の打つ自主通信が多くなり、各方面から豊富な情報が集つて一方面的なデマに躍らされる事は殆んどない。

しかも日本の立場、極東の情勢は、日本自から強力な放送をして悪意あるニュースを抑へてゐる。決して樂園どころではない。

かくして、極東宣傳戦における日本の、東京の立場が、決定的なものとなつた今日、各國が腕つこきを揃へて、難かしい東京宣傳戦に制覇せんと秘策を練る場面が、展開されて來たのである。

#### A 在京各國特派員

活潑な東京宣傳戦の花形に、日々刻々、日本の出來事を、母國の各新聞社に記事として送つてゐる新聞通信特派員がある。これらの特派員等は日本の軍事、政治、外交、經濟、社會、運動等々、凡ゆる動きを傳へ、日本の眞意を探り、一分一秒も早く本國に打電、筆の力で國際外交の檜舞臺に活躍してゐる。彼等の見事な活動振りは、むかし我が國の有識者間に、在外々交官を廢止して、新聞通信特派員を活用せよ、といふ叫びのあつたことを想起しても分るやうに、概して眞相を正確に把握しヴァラエティに富んだ才能で大局を見抜き、敏速に本國へ報道するあたり、變轉目まぐるしい現下の國際情勢に處しては、寧ろ野人としての特性により、官吏外交官の通性を凌駕してゐるとも云へよう。

これらの特派員がために働いて集散するニュースは、夥しい數に上るのだが、東亞の盟主を誇る我が國には、一體どの位の各國特派員がゐるものだらうか。現在東京にある各國新聞通信特派員を

を追つて上げて見ると

#### D・N・B通信社(獨)

— 特派員 オットー・カロー

グ ルドルフ・ワイゼ (前大戦に従軍、陸軍大佐)

#### ステファニ通信社(伊)

— 特派員 ガエタノ・アウリヂオ

#### A・P通信社(米)

— 特派員 ラッセル・D・ブラインズ

— ジョージ・レルマン・モーリン

#### U・P通信社(米)

— 特派員 ハロルド・O・トムソン

#### ロイテル通信社(英)

— 特派員 メルヴィル・ジエームス・コックス (スパイ被疑事件で取調中自殺)

#### アウアス通信社(佛)

— 特派員 ロベール・ギラン

— ブケリツチ

#### タス通信社(蘇)

特派員ボリス・イリヤング

— ユーローク・タイムズ (米) —

— 特派員ヒュー・バイアス —

— ユーローク・ヘラルド・トリビュン (米) —

— 特派員ウィルフレッド・フライシャー —

(アドヴァイザー社長令息、子供の頃から日本在住)

— インターナショナル・ニュース・サービス (米) —

— 特派員ラトリート・スミス (例の軍刑法に引つかかり問題を惹起したヤングの後任で、ヤングとは反対に非

常にオットリした性質の持主)

— フランクフルター・ツァイトウング (獨) —

— 特派員リヒャルト・ゾルゲ —

— ドイツチエ・アルゲマイネ・ツァイトウング (獨) —

— 特派員グイルヘルム・シユルツェ —

— ロンドン・デーリー・ヘラルド (英) —

— 特派員エドウィン・アリントン・ケナード —

— デーリー・テレグラフ (英) —

— 特派員ベンリントン —

パリ・ソワール (佛)

— 特派員ジャン・ミロー —

その他日本に三、四十年滞在して、特派員中の最古参の存在を誇る傍ら、保険屋さんを兼業に

てゐるロンドンエクスチェンヂ・テレグラフのアレキサンダー・ロックス・キヤット氏。ハンガリー

の志士を以て任ずる、特派員中の變り種、ミラノのコーリエール、デラ・セラ紙特派員フェルディナ

ンド・ダブリユー・メツゲル氏。その他ビルマ、シドニーホノルル、シカゴ、メルボルン、各紙

特派員を始めフォスロイデーニー・エシー特派員ボリス・エフ・シーロフ氏等在京特派員は、昭

和十五年五月十日現在で、約五十名に上つてゐるが、その他にも、東京のジャパン・アドヴァタイ

ザー紙、ジャパン・タイムズ紙、ジャパン・ニュースウィーク紙、神戸に本據を置くジャパン・ク

ロニクル紙等の報道に従事する外人を合せると、約百名近い人員が日本で働いてゐる譯である。勿

論記者に競争はつき物であり、殊に今度のやうに本國に激烈な戦争がある時、ニュースの蒐集散布

の勝敗は直接國家に響いて行く。同じ同盟通信社の屋根の下でタイプを叩き、額を合せて挨拶して

ゐても内面の競争は、ますます物凄い火華を散らせてゐる。これら夥しい新聞通信社のうちU・P

A・P、ロイテル、D・N・B、アヴァス、タス等の通信社は、日本の同盟通信と共に、世界通信

聯盟を結成して、共通にニュースを分け合ひ交換してゐるので、大體世界各所のニュースが、お互

ひに落ちなく入る便宜は多いが、一方その國の宣傳的性質を帯びたニュースが流れこむことも多い

歐洲戰のニュースが獨のD・N・Bのもと、英のロイテルのものでは、事毎にまるで正反對の内容を傳へて来るのは、この邊の事情を雄辯に物語るものであらう。そこで現在の様に、英獨が對戦してゐる時には、第三國の大體中正を得てゐると思はれるアメリカのA・P、U・P等のニュースに比較的信を置かれるが、これさへ米の親英を考へれば、相常割引すべきであり、戰爭當事國のD・N・B、ロイテル等のニュースは、餘程注意して検討すべしといふ事になる。理想としては、邦人特派員の眼に寫つた事實を、本國に送ることが、最も必要なことなのだが、十が十までさういふわけにも行かないので、この様に外國通信を利用する譯で、それに、注意して日本人の主觀で濾過した外國新聞通信社のニュースは、いくら向ふが宣傳を狙つたところで、さううまうまとは引かゝらない。まして前記のやうに各方面の通信が、刻々に入手出来る状態となつてゐては、極端な宣傳に利用されることは、絶無といつても過言ではなからう。

敏腕であればある程、特派員の突込んだ活動は、とかくスパイ的行爲に陥りやすく、注意を要するが、先日軍刑法に問はれ、日本を迫られたインターナショナル・ニュース・サーピスの特派員ヤング等は、スパイ的行動と同時に、盛んに造言蜚語を各方面に飛ばしてゐたらしい。

#### B 東京を狙ふ電波

この書の他の箇所でも、觸れてゐる様に、今は各國とも、強力な短波無電設備を擁して、間斷な

く放送を行ひ、數多の電波は國境もなく、地球上四方八方へと、融通無碍に飛び廻つてゐる。無論わが國でも、これらの電波が膺す波を、キャッチ出来るが、國內では、一般には法律上聴取を禁止されてゐる爲、實際各國放送を聴いてゐるのは、取締官廳たる逓信省と外務省、その他關係方面だけで、二十世紀の生んだ時代の子無電放送に關する限り、各國血みどろの宣傳も、日本に對しては、全然效力を發揮してゐないと言ふことが出来よう。この點は實際各國の宣傳陣が、日本を苦手とする大きな原因の一つだが、しかし世界各國とも、歐洲戰不介入を標榜する日本に對し、なほ諦めずこの世紀の寵兒をひつきりなしに飛ばして、味方に有利なニュースを放送してゐることは事實で、並々ならぬ努力の程が窺へる。簡単に各國の放送設備を見ると

#### イギリス

五十キロ放送設備

三 臺

二十

一 臺

小 放送設備

數 臺

使用國語、英獨佛を始め十七ヶ國語（ラテンアメリカ各語、ポルトガル語、スペイン語も使用）

一日放送延時間四十時間

#### フランス

百キロ放送設備

一 臺

植民地 十二ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100) (101) (102) (103) (104) (105) (106) (107) (108) (109) (110) (111) (112) (113) (114) (115) (116) (117) (118) (119) (120) (121) (122) (123) (124) (125) (126) (127) (128) (129) (130) (131) (132) (133) (134) (135) (136) (137) (138) (139) (140) (141) (142) (143) (144) (145) (146) (147) (148) (149) (150) (151) (152) (153) (154) (155) (156) (157) (158) (159) (160) (161) (162) (163) (164) (165) (166) (167) (168) (169) (170) (171) (172) (173) (174) (175) (176) (177) (178) (179) (180) (181) (182) (183) (184) (185) (186) (187) (188) (189) (190) (191) (192) (193) (194) (195) (196) (197) (198) (199) (200) (201) (202) (203) (204) (205) (206) (207) (208) (209) (210) (211) (212) (213) (214) (215) (216) (217) (218) (219) (220) (221) (222) (223) (224) (225) (226) (227) (228) (229) (230) (231) (232) (233) (234) (235) (236) (237) (238) (239) (240) (241) (242) (243) (244) (245) (246) (247) (248) (249) (250) (251) (252) (253) (254) (255) (256) (257) (258) (259) (260) (261) (262) (263) (264) (265) (266) (267) (268) (269) (270) (271) (272) (273) (274) (275) (276) (277) (278) (279) (280) (281) (282) (283) (284) (285) (286) (287) (288) (289) (290) (291) (292) (293) (294) (295) (296) (297) (298) (299) (300) (301) (302) (303) (304) (305) (306) (307) (308) (309) (310) (311) (312) (313) (314) (315) (316) (317) (318) (319) (320) (321) (322) (323) (324) (325) (326) (327) (328) (329) (330) (331) (332) (333) (334) (335) (336) (337) (338) (339) (340) (341) (342) (343) (344) (345) (346) (347) (348) (349) (350) (351) (352) (353) (354) (355) (356) (357) (358) (359) (360) (361) (362) (363) (364) (365) (366) (367) (368) (369) (370) (371) (372) (373) (374) (375) (376) (377) (378) (379) (380) (381) (382) (383) (384) (385) (386) (387) (388) (389) (390) (391) (392) (393) (394) (395) (396) (397) (398) (399) (400) (401) (402) (403) (404) (405) (406) (407) (408) (409) (410) (411) (412) (413) (414) (415) (416) (417) (418) (419) (420) (421) (422) (423) (424) (425) (426) (427) (428) (429) (430) (431) (432) (433) (434) (435) (436) (437) (438) (439) (440) (441) (442) (443) (444) (445) (446) (447) (448) (449) (450) (451) (452) (453) (454) (455) (456) (457) (458) (459) (460) (461) (462) (463) (464) (465) (466) (467) (468) (469) (470) (471) (472) (473) (474) (475) (476) (477) (478) (479) (480) (481) (482) (483) (484) (485) (486) (487) (488) (489) (490) (491) (492) (493) (494) (495) (496) (497) (498) (499) (500) (501) (502) (503) (504) (505) (506) (507) (508) (509) (510) (511) (512) (513) (514) (515) (516) (517) (518) (519) (520) (521) (522) (523) (524) (525) (526) (527) (528) (529) (530) (531) (532) (533) (534) (535) (536) (537) (538) (539) (540) (541) (542) (543) (544) (545) (546) (547) (548) (549) (550) (551) (552) (553) (554) (555) (556) (557) (558) (559) (560) (561) (562) (563) (564) (565) (566) (567) (568) (569) (570) (571) (572) (573) (574) (575) (576) (577) (578) (579) (580) (581) (582) (583) (584) (585) (586) (587) (588) (589) (590) (591) (592) (593) (594) (595) (596) (597) (598) (599) (600) (601) (602) (603) (604) (605) (606) (607) (608) (609) (610) (611) (612) (613) (614) (615) (616) (617) (618) (619) (620) (621) (622) (623) (624) (625) (626) (627) (628) (629) (630) (631) (632) (633) (634) (635) (636) (637) (638) (639) (640) (641) (642) (643) (644) (645) (646) (647) (648) (649) (650) (651) (652) (653) (654) (655) (656) (657) (658) (659) (660) (661) (662) (663) (664) (665) (666) (667) (668) (669) (670) (671) (672) (673) (674) (675) (676) (677) (678) (679) (680) (681) (682) (683) (684) (685) (686) (687) (688) (689) (690) (691) (692) (693) (694) (695) (696) (697) (698) (699) (700) (701) (702) (703) (704) (705) (706) (707) (708) (709) (710) (711) (712) (713) (714) (715) (716) (717) (718) (719) (720) (721) (722) (723) (724) (725) (726) (727) (728) (729) (730) (731) (732) (733) (734) (735) (736) (737) (738) (739) (740) (741) (742) (743) (744) (745) (746) (747) (748) (749) (750) (751) (752) (753) (754) (755) (756) (757) (758) (759) (760) (761) (762) (763) (764) (765) (766) (767) (768) (769) (770) (771) (772) (773) (774) (775) (776) (777) (778) (779) (780) (781) (782) (783) (784) (785) (786) (787) (788) (789) (790) (791) (792) (793) (794) (795) (796) (797) (798) (799) (800) (801) (802) (803) (804) (805) (806) (807) (808) (809) (810) (811) (812) (813) (814) (815) (816) (817) (818) (819) (820) (821) (822) (823) (824) (825) (826) (827) (828) (829) (830) (831) (832) (833) (834) (835) (836) (837) (838) (839) (840) (841) (842) (843) (844) (845) (846) (847) (848) (849) (850) (851) (852) (853) (854) (855) (856) (857) (858) (859) (860) (861) (862) (863) (864) (865) (866) (867) (868) (869) (870) (871) (872) (873) (874) (875) (876) (877) (878) (879) (880) (881) (882) (883) (884) (885) (886) (887) (888) (889) (890) (891) (892) (893) (894) (895) (896) (897) (898) (899) (900) (901) (902) (903) (904) (905) (906) (907) (908) (909) (910) (911) (912) (913) (914) (915) (916) (917) (918) (919) (920) (921) (922) (923) (924) (925) (926) (927) (928) (929) (930) (931) (932) (933) (934) (935) (936) (937) (938) (939) (940) (941) (942) (943) (944) (945) (946) (947) (948) (949) (950) (951) (952) (953) (954) (955) (956) (957) (958) (959) (960) (961) (962) (963) (964) (965) (966) (967) (968) (969) (970) (971) (972) (973) (974) (975) (976) (977) (978) (979) (980) (981) (982) (983) (984) (985) (986) (987) (988) (989) (990) (991) (992) (993) (994) (995) (996) (997) (998) (999) (1000)

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

「日英協定」 十ヶ所

ないが、世界の最長放送時間を持つものである。

大戦と共に、これらの放送は、量も質も、飛躍し増加し続けてゐる。短波放送は、単に本國と植民地との連絡係りだけでは、なくなつたのである。

英國放送協會の短波海外放送(帝國放送)は、大戦前の二十一時間が、四十餘時間に飛上り、ギリシヤ語、ルーマニア語、ポーランド語、アフリカ土語、ギリシヤ語等が増加した一方、印度、パレスチナ、カナダ、濠洲等に向けては、特別な「放送紐帯」を形成して、植民地、自治領に呼びかけてゐる。

ドイツは、ポーランドと戦争状態に入るや、直ちに「外國放送聴取禁止令」を布告すると同時に、短波放送の大擴充をやり、特にヨーロッパ向放送は、從來三十分間だつたのが、一躍十四時間以上となり、なほ擴充を續けてゐる。

先には有名なハンブルク放送の名放送の主「ホーホー卿」を生んで、歐洲一圓に話題を振りまいたが、最近では占領したウィーンの放送局から、世界に名だたるオーケストラの放送をどしどし送つて文化宣傳に乗り出したかと思へば、歌劇「椿姫」の登場人物を現在のイギリス政界の巨頭に當て嵌めて、チエンパレンが口説かれるところなどを對英放送に織りこんだり、盛んな宣傳振りで、廣義國防、國家總力近代戦の特長を遺憾なく發揮してゐる。ソ聯はお國柄規模は不明だが、日本語を使つた對日放送を、ウラチオ、ハバロフスク等から盛んに送つてゐる模様で、執拗な赤い宣傳電波が

日本の銃後擾亂を企てゝゐる。またカレチアス號撃沈の時、英國放送は早速ドイツの仕業と喧傳し同船に乗つてゐたアメリカ人船客二十名は、溺死したと稱して、ドイツの非道を鳴らし、アメリカ參戰に誘ひの手を打つたが、これなどもアメリカ同様中立にある日本への宣傳を意圖し、世界各地を自由に航行する日本船舶の危険を報じて、對獨對抗陣營へ導かうとしたものと云はれてゐる。

### C 在京大使館の活躍

文書に依る宣傳としては、大戰始つて以來、駐日英獨佛三國大使館が、毎日發表する「英國大使館情報」、「獨逸大使館情報」等と稱するニュースがあり、これらは、毎日各大使館に入手するニュースを、半紙版三枚位の分量に、簡単な謄寫版刷りとして、各官廳及び新聞通信社に無料で配付して盛んに自國側發行ニュース採用方を懇請してゐるが、戦線の進展と共に展開された空中戦、海戦等の戦況を發表する場合、常に戦果が異つてゐる。一方で、オスロー上空の空中戦に「我は敵十機を撃墜、我方の損害二」と發表すれば、相手は「敵機十三を落し、地上にあるものを三機使用不能に陥し、我は全機歸還せり」と發表する。この様にどつちがどうか、餘りにひどい宣傳を行ふ爲、一般には採用されないが、依然各國とも發行を繼續してゐる。こゝでも實力の伴はない宣傳はないらしく、印刷物の發行供給部数は獨三、英二、佛一の比例で、ドイツの大使館では、各方面關係者の要求ある限り幾らでも配付するのに對して、フランス大使館では殆んどさういふことはなく、

何時でも、最低限度の一枚に留めてゐる模様である。

また各國大使館は、パンフレット類の發行に依る宣傳にも努め、英國大使館では、本國から英語印刷の各國向パンフレットが來ると、それを譯して日本語版を作り、更に日本向きだけのものも製作、無料で散布してゐる。試みに、英國大使館發行宣傳パンフレットの題名と著者を上げて見ると英國大使館情報の名で昭和十四年秋から出版されてゐる「英國情報叢書」の最近の分には

- I 我等は何故開戦したか（公文書摘録）
- 2 獨逸・一九一四——一九三九年（ヒュー・バイアス）
- 3 獨逸の不足物資とソ聯の資源（M・B・スレッツジャー）
- 4 銃後の英國（ジョージ・ケイジャー）
- 5 英佛の團結（H・ヴィア・レッドマン）
- 6 英自治領の戦時體制（ピーター・V・ラッソー）
- 7 印度と大戰（アブデラ・サフ・アリ）

その他ネヴィル・ヘンダーソン卿の最終報告書（ベルリン駐劄終了迄の事情を書いた英國大使の報告書）等では英國の開戦を意義づけ、ドイツの弱勢を説いて、獨ソ間の關係は、明日にも隙が出來さうに論じ、「英國の充實した國力を見よ、大英帝國自治領はこの様に十分な連繫のうちに、幸福な生活を送つてゐる」と説いて、間接的に對日宣傳を行つており、一方、アーネスト・ダブリュ、



ゼイムス著の「對英日本貿易論」では、直接的な宣傳として、「日本は英國と協調してのみ繁榮して行くものである」と強調し、「日英兩帝國間の貿易の推移は、過去七十五年間伸長し、重要性を増し續けて絶えざるものであつた。蹉跌もあつたが、併しそれ等の蹉跌たるや、國際間の難局と國際貿易の不可避なる周期的の振、不振に左右されたものである。併し長年この傾向には變りがない。日英間の關係が初めて正式の立場に置かれて以來、その特徴とした政治的の友誼と共に繼續して行くであらう」といふ調子で、細かな統計を上げて宣傳に努めてゐる。ドイツの大使館は、日本語版の特別な叢書を發行せず、「スカンヂナヴィーヤ半島に於ける英國」等、二三の獨文書を持つて來てゐるに過ぎないが、月刊誌として「ジグナル」を初め二三種の雑誌を、各方面に配付して、ドイツの近狀を、軍備、藝術、スポーツ等あらゆる方面に亘つて紹介し、餘裕たつぷりに科學的なドイツ全體主義文化の宣傳にも乗り出してゐる。

英獨本格對立の態勢が執られた今日、兩國とも、單に戰況そのもの、優劣宣傳だけでは、効果を收め得ないから、共に文化宣傳にも力を入れ、大衆への影響力の強い普通寫眞や、ニュース映畫、文化映畫等も多量に入つてゐる。

大きく云へば、ドイツ・ベルリン・オリンピックの記録映畫「民族の祭典」などは、上々の宣傳映畫で、ドイツの藝術に、非常な好感を齎したし、これはまた儘かに、ドイツの爲に、目に見えぬ新しい力を、プラスしたものだ。こんな大物ではないが、各國大使館に、その本國で撮つた映畫

は、現在相當入荷され、これが正式な手續きを経ず映畫業者の手に廻つて上映されるので、つい先頃内務省の映畫檢閲係から、警告した程である。かう手が混んでくると宣傳もなかく物入りである。口傳される宣傳は強い。日本に滞在する外國人に對しては、各本國とも、凡ゆる機會に母國の近況を、母國の情報で知らせるやうに努め、延いてはこの報道が、日本に傳播されるやうに努力してゐる。例へばイギリス大使館は、毎週一回、定期的に、在京演英人のお茶の會を兼ねた集會を、帝國ホテルで催し、その際本國から到着した最近の情報に基づいた、戰況、外交等に關するアップ・ツー・デートのしかも自國に有利なニュースを提供してゐる。このニュースを得た各個人が、場所環境の異なる住居に歸つて、近隣や知り合の日本人にこれを話せば、波瀾萬里を距て、故國懐かしく戰況を案ずる人間が假にも自國を悪く云ふ道理はなく、もし百人の英人が、一人當り十人の日本人に、英國側に有利なニュースを傳へれば、このニュースは、千人の耳に擴まつて、一犬虚に吠えて萬犬實を傳ふといふのが、この狙ひなのだ。ドイツ大使館でも同様、事ある毎に集會を催して日本在留民の團結を計つてゐるが、イタリー、アメリカ等總てこの方法で、社交のうちに宣傳を行ふことに努めてゐる。ロイタリークラブ、汎太平洋協會の集會等々から見て行けば、皆この類になる譯で、豪華な白いテーブル、美酒、美食のうちには、相當高價なホットニュースか、プロバガンダが盛られてゐることであらう。かうなると何でも彼でもが宣傳になる様だが、別にそれ程神經過敏になる必要はなく、日本人獨自の感覺の範疇で、これを撰別して行くことが肝要なのではなからう

か。

なほかくれた宣傳の手は盡さないが、これだけ苦心するだけに、近來各國大公使館ともすべて情報部とか、宣傳部とか、秘密組織を設けて活躍しており、伊大使館は専任のアルデマーニ情報官を迎へてゐるが、中にも英國大使館等は、今春、イギリス情報省極東支部長といふ殿めしい肩書で來朝したレッドマン以下、大きな網を、東京、上海、香港、重慶に張り巡らし、極東權益確保に躍起となつてゐる。

この細かな宣傳の觸手から、繰り出される有形無形の闘ひのうち、今度の大戦が進展し、深刻化するに従ひ、各國大公使館の宣傳發表戦が、いかに行はれてゐるか、こゝに一例として、英、佛兩大使館の情報發表應酬戦の一つを紹介しよう。四月九日、突如として北歐電撃作戦に乗り出し、英佛聯合軍の機先を制して、ノルウェー南方の軍事重要據點を、次々に手中に收めたドイツ軍は、僅三週間の後には、ノルウェー中南部を完全に壓倒し、この爲英國内閣改造説さへ傳へられたが、その五月六日、ドイツの大使館はわが記者團を招いて、北歐の戦況地圖を前に、ドイツ軍快勝の全面的戦況報告を行つた。この時航空武官補佐官ウィルヘルム・ネーミッツ少佐は

イギリスが、總退却の止むを得なかつたのは、最初から立遅れ、重要據點を悉くドイツ軍が、占領してしまつたからだが、獨空軍の勇敢な活躍があつたことを特に強調したい。五月三日ノルウェー西海岸の立體戦では、飛行機が戦艦を爆沈するといふ、世界戦史上未曾有の戦果を收め

た。この時は五百キロ爆弾がウェアースバイト號敵戦艦の中央部に命中し、僅か三十秒間で沈没させ、火焔は三百米の天に沖したといふ。現在北歐の戦況は、すでに一段落を告げ、トロントハイムを包圍しようとした英軍は、殆ど捕虜となつたり、殲滅されたりして、逃げ歸つたものはほんの僅に過ぎない。トロントハイムの戦闘では、ナムソスから攻めて來た英軍が、同盟國であるノルウェー軍を裏切つて退却した。こんなことは恐らく世界戦史上始めて、同盟軍を見殺しにするなど、言語道斷と言はなければならぬ。併もアンデルスネスに上陸した英軍は、チェコとポーランドの志願兵で、これらは實に、他國民の血に依つて、自分等の利益を得ようとする英國人傳統の老獪性の發露であると思ふ。……結局英國は、トロントハイムを包圍しようとして敗れ去つたのであるが、今後は大英帝國と自稱する威信のためにも、新戰場を求めて來るだらう。北歐ではナルヴィク以北に、攻撃を集中するだらう。だがその様な北極圏には、何年駐屯して攻めて來やうとも痛痒を感じない。我軍の新鋭爆撃機メッサーシーシュミットの威力と、スエーデンの鐵鎧やデンマークのバター、ハム等食糧を確保したこの優勢さ……。

と昂然たる意氣で、各方面への示唆に富んだ戦況宣傳を行つたが、これに對し、翌五月七日、なにドイツ大使館に負けてなるものか、「獨空軍の英主力艦撃沈」「獨軍の北歐戰絕對的勝利」は、飛んでもないデマだと、イキリ立つた英國大使館は、すぐに記者團を招いて、海軍武官タムネル大佐が次の様な反駁聲明を發表した。



ドイツ側情報の、五月三日ウァースバイト號級戰艦一隻及びヨーク號級巡洋艦一隻撃沈は、全くのデマに過ぎない。ドイツ官邊では、大戰開始以來、英佛側商船二百三十萬トンを沈没させたといつてゐるが、實際の數字は、その三分の一の七十五萬九千トンに過ぎず、海軍艦船の實際沈没数は、八萬九千トンで、戰艦ロイヤル・オーク號、航空母艦カレチアス號の二隻が含まれてゐるが、この二隻だけが今大戰の最大の犠牲である。今回のノルウェー作戰中、沈没又は大損害を受けた英國艦隊は、定期的に公表されてゐて、少しの差止めもない。獨逸軍の襲撃により沈没したのは、驅逐艦二、護衛艦一、トロール船五位で、その他は軍事行動中、驅逐艦三隻が喪失し、潜水艦三隻が行方不明になつてゐるに過ぎない。これに對し獨逸海軍は、四隻の巡洋艦、十一隻の驅逐艦、五隻の潜水艦を沈没され、主力艦二隻が損傷を蒙る等、その損失は莫大なものだ。それでこの海軍力均衡の變動は、やがて我が英艦隊の全支配に依て、豫定の勝利を可能ならしめるものと信ずる。

とお互ひに自國に不利なことは絶対に言はない。一方だけの宣傳を聞けば、そつちが絶對優勢で敵軍は問題にならないことになるが、事實は決して蔽へるものでなく、この應酬戰の勝敗、事實の眞偽の程も、その後の戰況の推移によつて忽ち明らかになるから怖ろしい。と云へば、いかにも悠々と事實を認めさせて行けば良さうだが、機先を制された場合、どうにもそのニュースを引繰り反せぬ場合が實に多い。例へば米國における支那の泣き言宣傳が、今なほ米國人に日本の非人道行爲

を信じさせてゐるやうなものだ。

かくて、ある時は空中戦よりも華やかに、ある時は經濟封鎖戦よりも地味に、英・獨・米中心の宣傳戰が、東京の空に渦をまく。

#### D コックス自殺事件と英諜報宣傳網

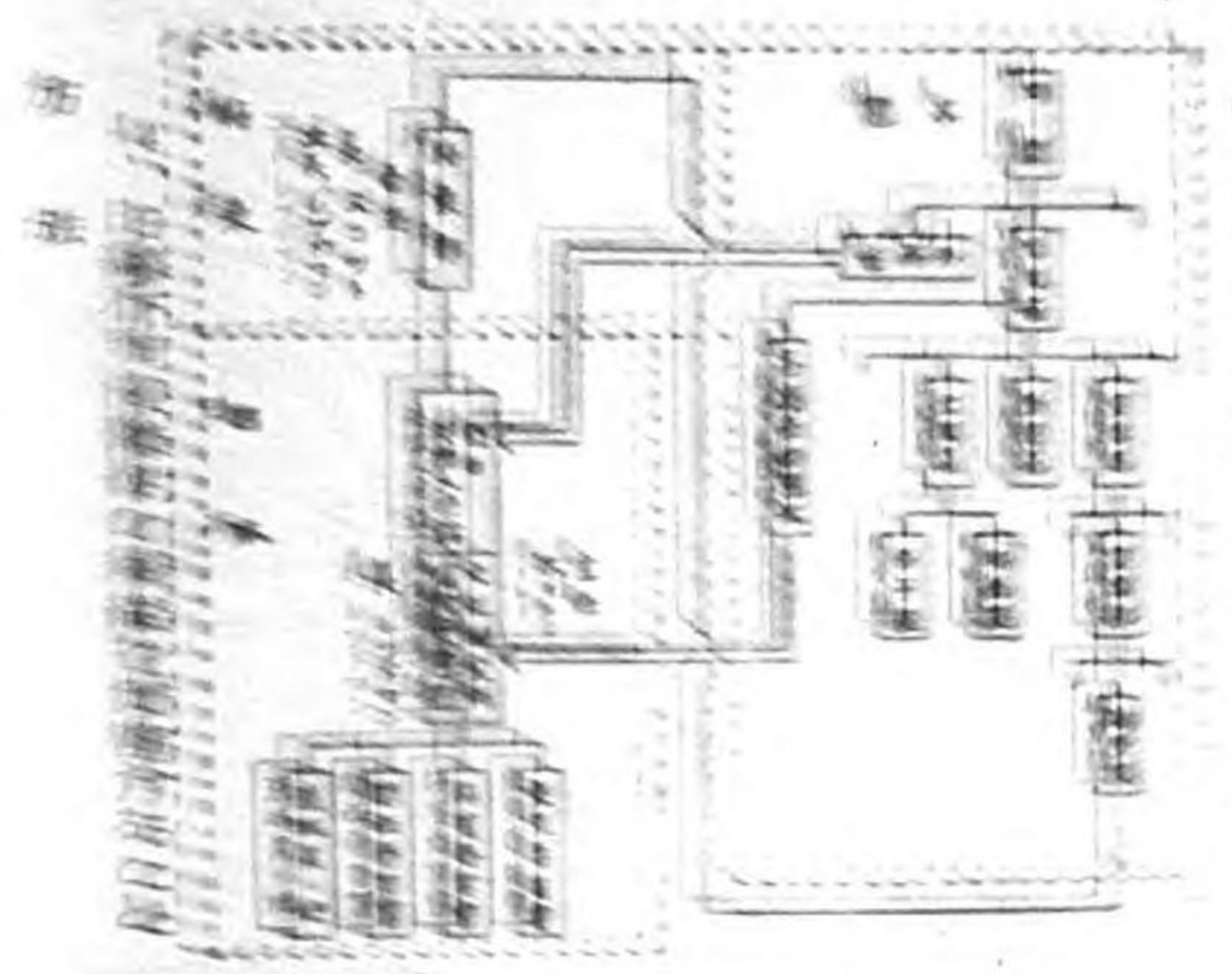
東京を中心とする外國の對日宣傳網の活躍は、ザツと以上の様なものだが、この中で英國が最も凄腕を振つてゐることは一目瞭然だ。

ところで、この宣傳網とうらはらの關係にある英國の諜報網が、去る七月二十七日、憲兵隊の手で一齊檢擧を見た。

事件の概要は當時新聞に報道された通りだが、この被檢擧者中に、先に紹介したロイテル通信社の東京支局長コックスが入つて居り、然も取調べ進行中に自殺を遂げたので、一層世間を驚かした。

一體、諜報とか間諜とかいふ言葉を聞くと、昔ながらのマタ・ハリやX27號的なものを、考へる人が多いが、今日の諜報網といふのは、この事件と當時の陸軍當局の注意喚起が、よく示してゐる様に、さういふ時代がかつた一人二人の英雄的スパイの活躍する仕掛は、殆んどなくなつたといつてよ。

いはゞ宣傳網と諜報網が合體して、宣傳は情報の素地を作り、情報は宣傳の先導役となつて武器



右の1の目的のため、親英的上層階級に働きかけ、日英協同が東亞の安定に最も必要であると説き獨蘇接近が將來東亞に有害な作用を及ぼすことを説く

右の2の目的のため、獨蘇協定によつて日本が裏切られたとの感情を冷さぬ様に宣傳を繼續し、歐洲戦は最後に英側が勝つことを強調する

右の3の目的のため獨伊側への輸出は限定された商品しかないと指摘し、獨伊の支持繼續は不可能であることを説明し、反對に日本は英國から常に多くの商品を輸入し、英資材がなければ困ることを強調する。

右の4の目的のため、日蘇間の歴史的宿命が相容れないこと、ソ聯の外蒙侵入、中國共產黨蔣介石への援助の事實を上げ、獨蘇關係は冷却せず將來日本は背負ひ投げを食ふことありと警告する。

對象

- 1、日本人への宣傳は一般大衆を目標とする必要は少い、比較的少數の有識者、有力者を目標としてこれを通じて大衆に波及させればよい
- 2、元老、重臣、社會の上層階級及言論界の有力者又は中堅分子を目標とし、特に親英分子を選べ
- 3、右翼方面の一部をも目標とするがよい

### 具體的方法

- 1、パンフレットやニュースを配布すること、日本語でもよいが、日本人中には英語で書いたものを殊更喜んで読む者があるからこの點に注意せよ
- 2、軽い會合を屢々開催して、その機會にいろいろ發表するがよい、會合に出る者は親英分子が多いから効果的である
- 3、映畫の配給その他

英語で書いたものを喜んで読む者がある、などとは中々我國民の弱點をよくつかんだところで、讀者の中でも、この周到ぶりに一驚される人があらう。

かういふ英國の宣傳の効果はどの位上つてゐるか？ 簡單には判らぬが一面の資料として宣傳用ニニュース類の常時送付先を調べてみると左の通り

各種商店宛	約一、一〇〇
個人宛	約 八〇〇（うち外人三五〇）
新聞雜誌社宛	約 二五〇
學校宛	約 一〇〇
其他教會官公署宛約	一〇〇

## 2 伸びる日本の電波

### A 對外宣傳陣の活躍

變轉極りない世界政局の眞只中に、世界宣傳界のエキスパートと伍して、日本も漸く強力に伸び上つて來た。こゝでは直接對外宣傳の機關として、外務省情報部、文化事業部、國際文化振興會と同盟放送、放送局の海外放送とを取り上げてみたい。

#### 外務省情報部

こゝの活躍は、近來なかなか、華々しいものがある。生れは大正九年で、前世界大戰を巡る各國の情報宣傳戦に刺戟され、中心的な國際情報機關設立の要が叫ばれて、講和談判終了後に出來たもの。

初代部長には時の支那公使伊集院彦吉を据え、その下を支那關係、歐米關係の二課に分ち、第二課長を廣田弘毅がやつてゐたが、間もなく廣田から現外相松岡洋右に代り、松岡課長當時、白鳥敏夫、伊藤述史の二人が事務官として机を並べてゐたが、そりが合はず、殆んど口も利かなかつたといふ話が傳つてゐる。またこの當時は、稻原勝治、鷲尾正五郎、松岡新一郎、森權吉、中村英之助等錚々たる顔觸れを情報部囑託として任用してあり、情報部の存在を明かにしてゐた。

二代部長は時の外務次官田中都吉が兼任、ついで小村欣一郎長となり、現在行はれてゐる内外新聞記者團との共同會見を開始、在任實に六年に及んで、大正四年、死んだアメリカ大使の齋藤博と代つたが、齋藤は一年半の在任中に、良く部の機構を整へ、ロンドン會議を迎へて奮闘した。

次が白鳥敏夫で、情報部の華やかな時代を現出した。折柄滿洲事變勃發し、幣原外相、有田次官の下に、白鳥は事々に強硬な態度を見せ、殊にスチムソンの日本誹謗の聲明に對しては、重ねて強硬な反駁をして男を賣つた。白鳥は秘密外交反對主義で、情報をどんどん明るみへ出し、在外公館が恐慌を來したといふ話がある。元來頭も良し、英語も外務省有數なので、外人記者をリードして自由奔放な情報部長ぶりを示した。

天羽英二は八年六月に、彼の後を襲つて部長となつたが、有名な「日本は東亞の安定勢力である」といふ天羽聲明を出して、各國に反響の渦をまき起し、米國あたりから抗議が殺到した。

支那事變中を引受けたのが河相達夫で、彼は神道から來る「結びの精神」を説き、日本精神を強調した歴代部長中の異色、「日本外交の目標」といふ著書を出し、英譯して外國にも出したが、これを讀んだ一獨人記者が、結びの精神に非常に感心して、日本哲學の研究を始めたといふエピソードがある。

十四年十二月からは、いまの須磨彌吉郎となつた。須磨は人間も明朗瀟灑で、語學も頗る流暢、内外人ともに受けが良く、情報部の空氣もとみに明朗化したと云はれてゐる。秋田の生れで四十九

歳、廣島高師やら東大英文科、中大法科等に學んだ變り種で、六尺近い堂々たる體軀だけに、太つ肚の非常時型外交官である。南京總領事時代、藏本書記生失踪事件の處置でミソをつけたが、米國大使館參事官時代は、支那事變の眞義を説いて各地を遊説、滿洲大使館へうつるといふ所で情報部長になつた。

情報部長は、一日二回の記者團との會見の他、外人記者團とは、毎週月、水、金午前十一時十五分から定期會見してゐるが、去る七月六日、米大統領ルーズヴェルトが、「日本のモンロー主義」に言及し、「佛印はアジアの問題である、従つて米國は發言を要求せぬ、蘭印は米國の國防と權益に關する故に黙してをれぬ」と發言したとき、八日の外人記者團との會見で須磨は、「日本のモンロー主義といふが、一體日本にそんな主義があるのか、寡聞にしてモンローといふ日本人を私は聞いた事がない、ルーズヴェルトは妙な事をいふ、佛印はアジアに任せるが、蘭印はアジアの部分ではないといふのか」と例の如く啖呵を切つて見せたものである。

この仕事は頗る多岐に涉つてゐる。蔭の仕事として、神經を使ひ、苦心を要するのは、情報蒐集の仕事の他に、やはり記事の檢閲であらう。東京駐在のD・N・B、ロイテル、A・P、U・Pステファニ、タス等各國通信社や、各新聞特派員の原稿は、全部一應こゝで目を通す。無論放送局の海外向けニュースも、こゝで檢閲する。

海外向けのパンフレット、繪葉書、カードの類にも、餘程嚴密に檢閲の要がある。ついでこの間、

國際觀光局から、日本の紹介と外國遊覽客招致のため、刊行されたパンフレットに、軍事上の機密に觸れた部分があつて、發送禁止や削除となつた事さへあり、役所の公刊物でも、こんな手落ちがある位なのである。

支那の捏造デマ宣傳の手にかゝつては耐らない。例へば、日本兵が銃劍術の試合をやつてゐる寫眞が、支那さんの手に渡ると、試合で向き合つてゐる相手が、忽ち支那服の農民と修正され、日本兵が支那の農民を銃劍で芋刺しにして、多數の日本將校たちが、笑ひながら見てゐる圖といふ事になる。支那の捕虜に、日本兵がサイダーをやつてゐれば、毒を吞ませてゐる所だとか、全く手がつけられない。米國邊りには、かうした寫眞が、數限りなく撒布されて、米人の安い人道主義を掻き立てゝゐるのである。しかし、こんな狂人じみた宣傳屋は、化けの皮が剥げるまで待つとしても、近頃難かしいのは新聞の記事である。

新聞雑誌は、直きに重慶邊りへも渡つて行くやうだし、それでなくとも、外國新聞特派員等の判斷や記事の材料になる。物資不足を論じるとしても、徒らに米がない、炭がない、と喚く事は、既に絶對不可である。國內での反響だけを考へ、國內にだけピンと来るやうに、センセーショナルに書いた場合、外國には、往々にして、ピンと来すぎ、行き過ぎて過大に響くのは當然の話だ。社會全體の關聯に眼を配つて、米の不足にせよ、炭の不足にせよ、不足の状態を、程度を科學的に検討したのち、明快に書かなければならぬ。しかも、これが限られた字數で行はなければならぬのだ

から、難かしい。すべてがさうだ。記者も編輯者も、小功を狙ふ時代ではなくなつた。

#### 文化事業部

情報部の仕事は勤なら、これは靜である。世界各國の日本に對する知識啓發のため、外務省に現在の文化事業部が設置されたのは、滿洲事變後の昭和十年だつた。最初實は、大正十二年から對支文化事業を任務として、北清事變團匪の賠償金をもつて始められたのであるが、滿洲事變のとき、諸外國の對日認識の缺陷から、日本が不當な糾弾の的となるに及んで、世界に日本の國力、産業文化等の程度を廣く紹介する必要を痛感し、それまで對支一點張りであつた文化事業部を、對象を廣く世界各國向けへと昇格させ、事業内容の整備擴充を行つて現在に及んだのである。滿洲事變當時まで、世界各國人の對日認識の程度は、實にお話しにならぬ程低いものであつた。知識階級はいさ知らず、その國の輿論を形成する一般民衆等は、日本は急激に世界の槍舞臺に現はれた武力一本槍の野蠻國位にしか考へず、甚いものになると、支那は知つてゐても日本を知らなかつたり、日本は支那の一部だらう程度に考へてゐる者が多かつた。あまりこれがひどいので、當時我が國に「認識不足」が流行語となつたわけである。だからこの文化事業部も日本紹介に全力を擧げ、對日認識は正に凡ゆる手段と方法をもつて努めたのである。

この仕事は、直接事業、國際文化振興會關係、國際學友會關係、その他諸外國に關する文化團體との接衝等に分れてゐる。



文化事業部が、直接各國との文化交流を行ふ直接事業には、各國主要大學に開設されてゐる日本語講座に對する教師の斡旋と派遣、及びこれに必要な資料の提供を初め、場合によつては、その他日本の各般に亘る研究材料の供給もやつてゐる。ドイツだけでもミンヘン大學を初め數校ありその他ウィーン大學、ローマ大學、瀛洲のシドニー大學には、前述の各機關が我が方の斡旋で設置されてあり、日本語指導の傍ら、日本の政治、經濟、文化各方面の指導をも兼ね、質的に優秀な日本の理解者、研究者の養成に當つてゐるのである。

國際學友會は諸外國からの留學生の保護、斡旋を圖り、宿舍の斡旋やら、その研究題目に應じてそれぞれの好む學校への斡旋もしてゐるのであるが、現在、この學友會の斡旋を受けてゐる諸外國の學生は約五十名、タイ國の四十名（東京のみ、全國では百四十名）を筆頭に、ビルマ、アフガニスタン、フィリッピン、印度、ドイツ、フランス、イタリー、英國、ポーランド、ブラジル、ウルグワイ、ボリヴィア、ベルギー、メキシコ、米國等、瀛洲支那を除く殆ど世界各國からの學生を網羅してゐる。この外爲替管理等の障害のため、特に考慮された交換學生制度もあり、現在故國の念變のため歸國したフランス、ハンガリーの交換學生を除き、ドイツからの四名は東大で勉強、イタリーからの一名は北海道でアイヌ研究に當つてゐる。學友會は昭和十年十二月外務省の手で、日本研究學生の便宜のため設立されたもので、國際學友會館が淀橋區西大久保一ノ四五八にあり、夏期保養のための保健寮も、静岡縣清水三保の松原にある。

また諸外國關係の文化團體には、東京にある日獨文化協會、日伊協會、日佛協會、日洪文化協會等をはじめ、印度の日印協會、米國ロサンゼルスの日羅文化協會、バンコックの日泰文化協會等があつて、日本と諸外國との文化的接觸に活動し、文化事業部は相當な豫算で援助してゐる。何しろ外國に送附する刊行物は政治、經濟、文化等各般に涉つて國內の權威者に執筆を乞ひ、入念に検討して出すのだから大變だ。またこれに附隨して各國と圖書の交換等も行つてゐる。

必要に應じては視察團の招聘、權威者の海外派遣等も行つてゐるので、パリ萬博や近くはニューヨーク、サンフランシスコ兩萬博への出品等、何れもこの文化事業部が中心となつてゐる。また例へば、歌手藤原義江がリオデジャネイロで、日伯協會の親善獨唱會を、開催するといへば、會場の都合から、料金の打合せまで、東京からリオデジャネイロへ電報を飛ばして斡旋する仕事もありその外映畫及び寫眞の交換、運動の親善使節等、凡ゆる方法手段をもつて日本紹介に全力を盡し、國際觀光局と提携しては、各國の觀光客の誘致等も行つてゐる。いつかロンドン・タイムズに「歴史の浅い割合に世界文化に大きな役割を演ずるものに、日本の文化事業部がある」と嘆せしめたと云つて係員何れも意氣軒昂であつた。

このうち對支文化事業部の方は、昭和十三年興亞院が創設せられるに及んで、對支文化事業の殆んど全部を、興亞院文化事業部に任せられたが、これも東亞新秩序の建前から、實に大きな仕事で、興亞院でも千葉醫大の教授から迎へた松村文化部長以下、種々な角度から、新生支那に呼びかけ、漸

く、第一步を踏み出さうとしてゐる。

#### 國際文化振興會

外務省の文化事業部に協力して日本紹介を行ふ民間唯一の機關たる國際文化振興會は、昭和八年我が國が國際聯盟を脱退した時から活動を開始した。

聯盟脱退によつて、諸外國との文化交流の一つの據點を失つた日本は、この會に頼むところ多く長き邊りから事業御奨励のため、年々御下賜金を賜り、總裁には高松宮殿下を奉戴してゐる。

この會は一昨秋紐育に設置された日本文化會館をはじめ、北京、ブエノス・アイレス、リオデジヤネーロ、リマ、メルボルンの各地に駐在連絡員を置いてあるが、壽府の事務所は、聯盟脱退後解消し、巴里の駐在員も歐洲動亂勃發のため、これまた今年の一月休業の看板をあげてゐる。國內では京都の地方委員會が、關西の有力者の後援で、古典研究のため同地方へ在留する外國人に對し、文化工作を行つてゐる外、九州、東北、京城の各帝大内に、國際文化協會等を設置してゐる。事業は大體文化事業部と同じ目的で活動してゐるのだから、さして變りはないが、民間團體といふ點が強力にものを云ふ。

宣傳に力を盡す各國は、また反對に各國からの宣傳に利用されまいと警戒する。兩方同じ文化的工作を行ふのであるが、そこに官廳と民間との差異を、彼等ははつきりと區別し、どちらかと言へば、民間の國際文化振興會の斡旋提供を歓迎する状態である。

各方面の資料出版物は勿論、お役所では一寸簡單に行かないこと——これをまた彼等は歓迎するのだが——種々細かい世話に至るまで各方面に手を擴げて活躍してゐる、例へば各國との通商路開拓に對する側面的役割である。最近文化と貿易は、不可分のものとして考へられる様になつて來た。海外での博覽會、展覽會、商品見本市等貿易の進出には、商品だけの陳列では宣傳効果は實際に少ない、商品の陳列と一緒に、その商品背後の製作事情なり、それを生み出す文化なりを紹介する資料をも添え、こんな立派なものがかうして出來ると言つた文化的背景を、實際に示した方が、商品の印象も強ければ、價值もぐつと上つて來るわけだ。振興會は現在この方面に主力を集中してゐるといつていい、商品の進出はまた、當然大きな宣傳となつて行くのだから、これこそ生きた宣傳であり、同會が力こぶを入れるのも無理はない。

この外日本紹介のまとまつた資料編纂も同會の大きな役割の一つとなつてゐる。近來日本の進出が、諸外國から注目されるにつけ、外人の本格的な日本研究が熾んになつたが、これに應へるため昭和十五年から向ふ六ヶ年の計畫で、日本語辭典、日本語文典、日本語讀本の編纂を開始、その中辭典の方は十五年度は數千語の基本語彙の選定から始め、一方教材となる讀本の編纂、及び文典の編纂と併行して行ふこととなつており、未だ手をつけた丈だが、從來餘りなかつた必要な仕事として期待されてゐる。しかし、講師や學生の交換は未だ試験的な領域を出てゐないし、映畫、幻燈、寫眞、レコード等資料の送附件數も夥しい數には上つてゐるが、これもまだ無理押しつけの觀が深

く、日本を理解させるには未だ未だ努力が必要となつてゐる。

### B 海外放送

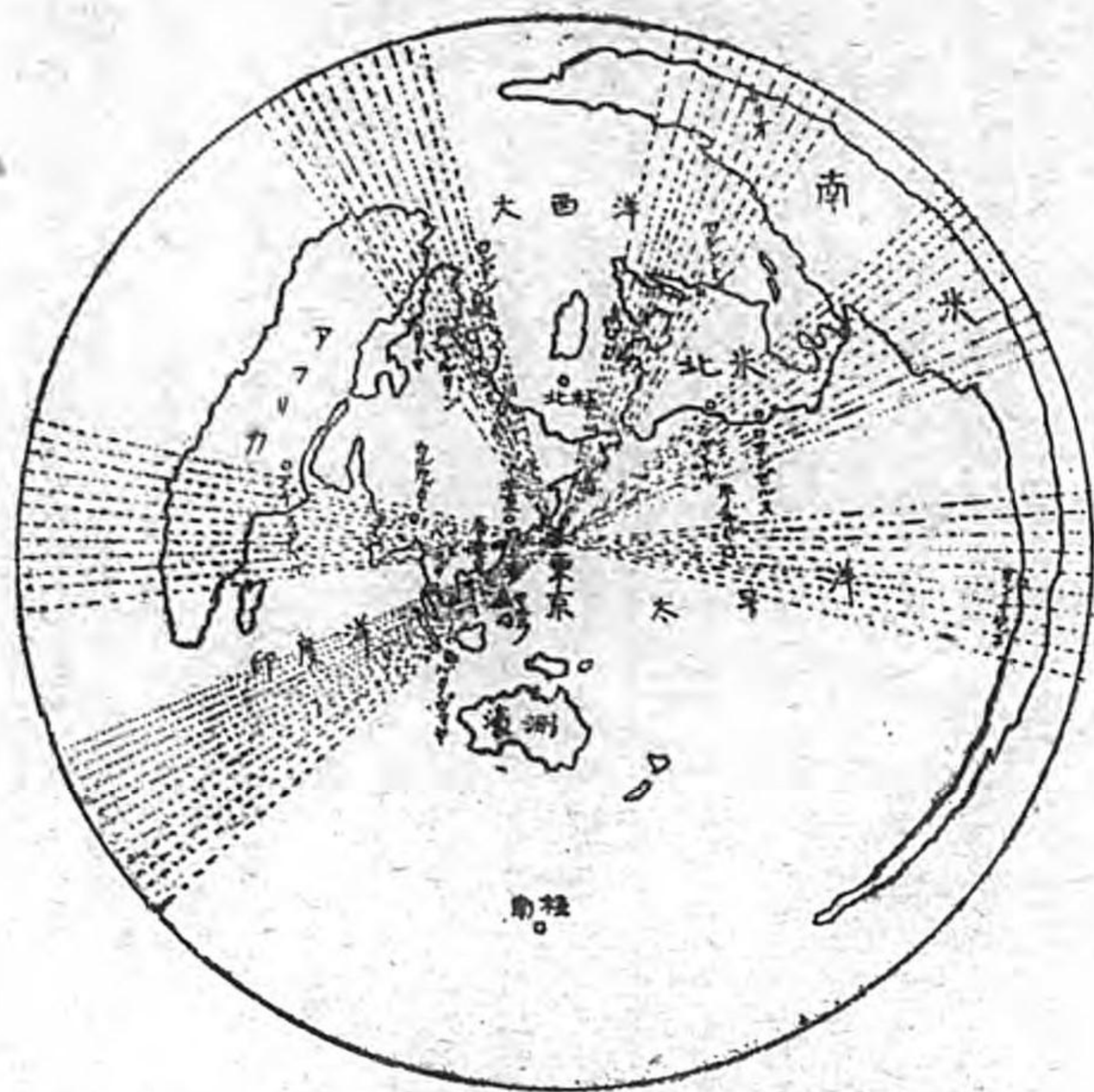
泰なき重爆——ラヂオ宣傳戦に、日本はいま、強力な進撃ぶりを見せ始めた。

日本の海外放送史は、昭和十年六月一日に始まる。このとき、國策宣揚と日本文化紹介を目的に主として、北米及びカナダ、ハワイへ向け、短波による放送を開始、毎日東京時間午後二時から、一時間に亘つて、定期的に、日本語と英語のニュース、演藝、講演等を放送し始めたのである。

しかし、無論これだけでは、諸外國の強力電波網に及ばず、密接な關係にあるヨーロッパ、南米南洋方面へは、全然手が届かないので、十二年一月からは、更にヨーロッパ、北米東部、南米並びに海峽植民地、ジャバ向を毎日一時間づつ、二十キロワット送信機により、日本語と英語によつて放送し始めた。

その十二年春からは五十キロワット放送をやつて、海外の好評を博し勢ひづいて擴張したところへ、支那事變勃發、支那華僑向放送が必要となつて、八月から海峽植民地、ジャバ向放送に支那語ニュースを加へ、支那側のデマ放送を壓倒して、戦況を明確にする功を樹てた。

さらに事變をめぐる微妙な國際情勢から、十三年一月、八月、十四年七月と、放送の量に質に、三回の大擴張が行はれ、その後歐洲大戰の本格的展開に呼應し、東亞の盟主たる立場を、世界に明



圖向方射發波電送放外海

(る據に料資局送放)

かにすべく、十五年六月一日から断行したのが、現在の堂々たる海外放送陣で、このプログラムを表にすれば次の如くである。

海外放送實施表(昭和十五年七月一日現在)

放送方向	放送時刻	コールサイン	周波数 (キロサイクル)	波長 (キロワット)	出力
一、西南亞細亞	日本時間午前0,00—1,00 G M T二五,00—二六,00	J Z K	一五,一六〇	一九米七九	五
二、歐羅巴	日本時間午前四,00—六,00 G M T一九,00—二一,00	J J Z Z TK	一五,一六〇 一一,八〇〇	一九米七九 三五米四三	五 五
三、南米	日本時間午前六,30—七,30 G M T二二,30—二三,30	J J L S Z S K Q	一七,八四五 一五,一六〇	一六米八一 一九米七九	五 五
四、北米東部	日本時間午前10,00—11,00 G M T一,00—二,00	J L S Q	一七,八四五	一六米八一	五
五、北米西部	日本時間午後二,00—三,30 G M T五,00—六,30	J Z K	一五,一六〇	一九米七九	五
六、布哇	日本時間午後四,00—五,00 G M T七,00—八,00	J Z K	一五,一六〇	一九米七九	五
七、支那南洋	日本時間午後九,00—11,00 G M T三,00—四,30	J J Z Z J K	一五,一六〇 一一,八〇〇	一九米七九 三五米四三	五 五

日本時 目的地時

一、西南アジア向

目的地時	放送内容
前 〇,〇〇	開始アナウンス(英)
後九、三〇—一〇、三〇	日本語ニュース
コロンボ、ボンベイ	演藝、音楽又ハ講演(日英)又ハ時事解説(木、土曜)
後八、三〇—九、三〇	英語ニュース
カブール	演藝音楽
後八、〇〇—九、〇〇	ビルマ語ニュース(月、水、金曜)
ネツカアデン、トルコ	ヒンズー語ニュース(火、木、土曜)
後六、〇〇—七、〇〇	終了アナウンス(ビルマ、ヒンズー又は英語)
(前) 日 一、〇〇	終了

二、歐羅巴向

(備考) 日曜日はビルマ、ヒンズー語ニュースは休止し演藝又は音楽とす

前	開始アナウンス(日獨)
四、〇〇	
四、〇五	日本語ニュース
四、一五	演藝、音楽

前六、三〇  
前七、三〇

後八、〇〇—二〇、〇〇

後七、〇〇—九、〇〇

(前 日)

四、三五 獨語ニユース  
四、四五 演藝、音樂又ハ講演(二週三回) 獨語(水曜)伊語 畢  
又ハ通信(獨、伊語講演ナキ場合)

場合)

四、五五 アナウンス(日獨)

四、五八 レコード・チャイム

五、〇二 アナウンス(英佛)

五、〇五 英語ニユース

五、一五 演藝、音樂

五、三五 佛語ニユース

五、四五 演藝、音樂又ハ通信(二週三回)

畢)

英語(火曜)佛語(金曜)又ハ講演(英佛)

終了アナウンス(英、佛)

終了

六、〇〇

三、ル米向

グエノスアイレス  
後五、三〇—六、三〇

前六、三〇  
前七、三〇

リオデジャネーロ  
後六、三〇—七、三〇

(前 日)

前 六、三〇

六、三五

六、四五

開始アナウンス(西又ハ葡)  
葡語ニユース 日曜日  
西語ニユース 演藝音樂  
演藝音樂又ハ講演(日、西、葡  
但シ日曜日ヲ除ク)

七、〇五

七、一五

七、二五

七、三〇

日本語ニユース  
郷土便り又ハ演藝音樂  
終了アナウンス(日)  
終了

四、北米東部向

ニューヨーク  
後八、〇〇—九、〇〇

(前 日)

前 一〇、〇〇

一〇、〇三

一〇、一五

一〇、三〇

開始アナウンス(英)  
演藝音樂  
英語ニユース  
演藝音樂又ハ講演  
(英週一回月曜日)又

五、北米西部向

- 一〇、四〇 演藝、音楽
- 一〇、五五 終了アナウンス(英)
- 一一、〇〇 終了

後

- 二、〇〇 開始アナウンス(英)
- 二、〇三 英語ニュース翌日ノ番組豫告アナウンス(英)

サンフランシスコ

後九、〇〇—一〇、三〇

(前日)

二、二〇

演藝音楽

二、四〇

演藝音楽又ハ講演(英)

二、五〇

日本語ニュース

三、〇五

演藝音楽又ハ講演(日)

三、一五

郷土便り又ハ演藝、音楽

三、二五

終了アナウンス(日)

三、三〇

終了

後二、〇〇  
三、三〇

六、布哇向

後四、〇〇  
五、〇〇

ホノルル

後八、三〇—九、三〇

(前日)

後

四、〇〇

開始アナウンス(日)

四、〇三

日本語ニュース

四、一八

演藝、音楽又ハ講演

(日英)時事解説(火

曜)又ハ郷土便り(月

曜)

四、二八

演藝、音楽又ハ子供

ノ新聞(水、土曜)

四、三五

英語ニュース

四、四五

演藝、音楽

四、五五

終了アナウンス(英)

五、〇〇

終了

七、支那、南洋向

後

九、〇〇

開始アナウンス(日)

九、〇三

日本語ニュース

後七、〇〇—九、三〇	シヤム、佛領印度支那	九、一五	郷土便り又ハ演藝音楽又ハ講演(日)―チャイム
後七、二〇、九、五〇	シンガポール、ジヤバ	九、三〇	英語ニユース
香港、マニラ		九、四〇	演藝、音楽
後八、〇〇—一〇、三〇	漆洲	九、五〇	蘭語ニユース
		一〇、〇〇	チャイム―アナウン
		一〇、〇五	ス(支)
		一〇、一五	通信(支)
		一〇、二五	演藝、音楽(支那向キノモノ)
		一〇、四〇	支那標準語ニユース
		一〇、五〇	講演(支)支那音楽
		一一、〇五	廣東語ニユース
			演藝音楽(支那向キノモノ)―チャイム
後一〇、〇〇—一一、三〇			
後一九、〇〇—三〇			

一一、一五	{タイ語ニユース(第一送信月、水、金曜)チャイム
	佛語ニユース(第二送信但シ日、火、木、土曜ハ第一第二送信同時送出)
一一、二五	終了アナウンス(佛)
一一、三〇	終了

かくの如く、丁度滿五年で、海外放送は、これだけ伸び上つた。放送方向も、最初の一方向から七方向となり、用語も英、獨、佛、伊、西、葡、支、蘭、タイ、ヒンヅ、アラビア・ビルマの十二ヶ國語に増加し、放送延時間は十二時間と飛躍、種目も増え、同盟の通信を編輯して出すニュースも増量した。

勿論この程度では、米國はもとより、獨の五十時間、英の四十時間、伊の二十時間にも遙かに及ばないが、効果はなかなか目覚ましい。例へば、現下の文化工作として最も重要な支那、南洋向放送は、事變直後は、支那側が、日本語でニュース放送をやり、電波戦を演じたものだが、いまは問題なく、日本の放送が勝ちを占め、連日、表にみるやうな豊富なプロを組んで、効果を収めてゐる。

特に新設した「支那語通信」は、ニュースでもなく、講演ともつかず、主張と指導と説明の三つの役割を兼ねた新型で、内容もはつきり、敵状論述（蔣政権の崩壊）、興亞通信（東亞新秩序の建設）日本情報（日本の決意と行動）、國際情勢（事變を巡る展開）の四項目に分けて、起ち上る支那青年に強い影響を與へてゐる點が注目される。

どんなにこの海外放送が聴かれてゐるかといへば、事變勃發直後は、一時激減した形だったが、十三年の初め頃から次第に回復して、外國人からの聴取報告も増加の一途を辿つてゐる。

現にワイルド・ラチオ誌などが「東京の海外放送は、嚴然たる極東の聲であり、一日も聴き洩らす事は出来ない」と紹介してゐる程、歐米人の關心と興味を惹き始めてゐる。無論海外同胞の喜びはまた格別である。

放送協會の調査による、昭和十年六月一日放送開始以來の反響聴取報告を見ると次の如くである。

昭和十年	九七四人
十一年	一、七二六
十二年	一一、七二八
十三年	一九、五四〇
十四年	六、七七八

（昭和十年は六月一日より十二月末日まで十四年は六月末日までの数）

なほこれを地域別に見れば

イギリス	六、九七八
フランス	一、四七四
ドイツ	五、四四九
滿洲國及支那	一、一二六
スペイン	一三一
イタリア	五九
濠洲	一、二四〇
カナダ	二、四〇七
アメリカ東部	六、九三二
同 西部	八、四〇二
ハワイ	一、二四三
南 米	二、三七九
バルカン諸國	六八〇
其 他	一、四七六

對外放送は、何と云つても相手に聴かせるといふことが、何よりも肝要であるから、その放送内



容により、影響するところは實に大きい。例へば文化の高度に發達した國と、比較的遅れてゐる國に對しては、それぞれ、かなり手加減して、向くやうなものを放送せねばならぬことは勿論であり、どこの局でも、ダイヤル一つで樂に聴ける外國人が、詰らないプロは聴かないと云ふのは、これまた當然のことである。聴かれない放送は話にならぬ。だからプログラムの選定に就ては、慎重の上にも慎重を期せねばならず、放送協會でも、海外放送の番組編成に當つては、海外放送委員會を開き、充分審議の上、更に放送編成會の審議を経てから、實施するといふ段取りになつてゐる。ラヂオ放送もまた、目下酣である。

### C 同盟放送

放送協會の海外放送は、今では大概の人が知つてゐるが、同盟通信社が、蒐集したニュースを、全世界に向つて放送し、それが各國の新聞報道となつて輿論を形成し、日本の主張を理解させ、云はゞ最も力強いスポークスマンの役目をしてゐる事は、餘り知られてゐないやうだ。

時々刻々に、同盟本社へ流れこむ政治、經濟、社會、運動等ありとあらゆるニュースは適宜編輯され、時を移さず、社内に出張してゐる中央電信局の手で、小山の無電塔を通し、英文とローマ字（和文）で、モールス符號により放送される。

毎日午前六時から、翌朝午前二時頃まで、三十分乃至一時間置きに、電波が飛び、この休んでゐ

る四時間の間でも、重大ニュースさへあれば、即刻至急報が、世界中を駆けめぐる手筈になつてゐる。

このローマ字放送は、一日の放送回数廿八回、朝六時半から三回外經放送があり、九時から夜の十一時十八分まで、百語又は二百語づゝ廿五回のニュース放送が続き、午前九時半と午後五時半には、ニュースの核心を要約した放送が行はれる、語數總計約五千語、原稿にして約二萬字、新聞の一頁半や二頁は、樂々組み得る豊富さで、滿洲、支那の邦字新聞の全部、漢字新聞の大部分は、この放送を、唯一のニュース源として、毎日の新聞を造り上げてゐる。東京の重大ニュースが、汽車も碌に通はぬやうな滿洲の奥地で、忽ち號外になつたりするのも、この放送の魔力である。

更にホレル、の日布時事、布哇報知、桑港の新世界朝日、日米新聞、ロサンゼルス、の羅府日報、加州毎日、シヤトルの北米時事、ニューヨークの紐育新聞、日米時報以下、ヴァンクーヴァー、サクラメント、フレズノ、タコマ、ヒロ等、北米各地の邦字紙二十數紙、ベルーのリマ日報秘露時報、サンパウロの聖州時報、ブエノスアイレス、メキシコ等、中南米各地の邦字紙十數紙等も同様、にこのニュースで、立派な日本字新聞を造り、故國のニュースに渴いてゐる同胞達を喜ばせてゐる。

南洋へ行つても同じこと、フィリッピンではマニラの商工新聞、ダヴァオのダヴァオ公論あり、パタビアの瓜哇日報、新嘉坡の南洋日々新聞等みなこの放送を頼みとし、受信社數は總計二千有餘、

最近では敵性香港に於ても、ロイテルを向ふに廻して、堂々の宣傳戦を演じてゐる。しかし放送地域が廣く受信者が雑多だけに苦勞は實に多い。

また七つの海を航行中の日本船舶に對しては、英文放送が一日三百語（午前十時）送られるが大體は片假名で一日二回（午前八時半、午後五時半）二千五百字を放送し、夜十時半からは五時半の分をまとめて送つてゐるが、一般ニュースの他に、逓信省、海軍省その他關係廳の指令や、報知等も織りこんで放送する。

この片假名放送はまた、前線の兵隊さんを大いに喜ばす陣中新聞等の唯一の材料となつてゐる。未だに頑強つてゐる「重慶放送」を制壓し、極東の真相を、日本の決意を、全世界に主張してゐるのが、「東京放送」同盟の英文放送である。

一日十三回、六千語に及ぶ放送内容は、無論いまは、重慶のデマだらけの放送とは、比較にならない正確さで、自ら世界報道陣の信用を買つてをり、殊にさきの乾釜子、張鼓峰、ノモンハン等ソ満國境事件には、正確、敏速よくソ聯タス通信を抑へ、タスお膝元の歐洲においてさへ、斷然同盟電の勝利であつた。

その後國際情勢の幾變轉と共に、かうした事例は枚擧に遑なく、「東京放送」は日本の聲であると共に、世界の報道陣に、一日も缺くべからざる立役者となつたのである。

この放送方向は、歐洲ゾーン、米洲ゾーン、太平洋ゾーンとに大別されるが、歐洲ゾーンは、ロ

イテル、アヴァス、ステファニ、D・N・B、タス、バット（ワルソー）レタ（リガ）、アナトリー（アンカラ・スタンブール）、バルス（テヘラン）、アネク（バタヴィア）等の各通信社、ブリュッセル、リスアニア、ラトヴィア・カプール等の通信社、國際聯盟事務局（ジュネーヴ）上海同盟等で、放送時間は午前六時、午後五時、午後八時、午後十二時、語數合計は二千語。

米洲ゾーンは、マニラのロイテル及びU・P支局、ホノル、の日布新聞その他、ニューヨークのトランス・ラヂオ社、リオデジャネーロのアゲプラス通信社、リマ、メキシコの通信社桑港の邦人經營紙等で、午前一時半、午前十時、午後一時二十分、午後九時、語數二千語。

太平洋ゾーンは、上海、天津、北京、香港の各同盟支社局に向け、午前十時、午後二時三十分、午後七時、午後十時四十分、午後十一時四十分の五回、語數二千語。

なほ數年來待望の國內同報無電放送もまた同盟の手によつて、この五月から開始された。いま國內に電話や、有線電信で送られたニュースが、無線電話に乗つて、アツといふ間に、國內の隅々まで、撒布されるのだから、わが通信界には、正に劃期的な試みである。

これを受信する支社局は、札幌、旭川、小樽、函館、青森、秋田、仙臺、新潟、長野、高山、金澤、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、廣島、高知、松山、關門、大分、福岡、長崎、熊本、鹿児島、京城、釜山、臺北、臺南の廿九支社局だが、なほこれは擴充される筈で、一日の放送字數二萬字、うちニュース一萬五千乃至六千字、相場商況四千字乃至五千字で、一日二十回だから、一回約二千

字だが、この送信時間約十二分、翻譯の時間約八分、僅か二十分で、新聞の約半段分のニュースが、  
全國各新聞の編輯デスクへ配給されて行くのである。

### 3 國內宣傳の實際

#### A 官廳宣傳街の中心

「どうも日本の宣傳は成つとらん、むしろあちらでつくづく」と等といふのが、洋行歸り諸氏の紋切型の曰となり、「も少し國策の内容を知らせてくれやうもあるだらうに」と、インテリ論文が怨めしさうな顔を並べる。まつたく内外に對して、宣傳下手日本といふのは、耳にタコが出来るほど聞きつづけた。さうかと思ふと、何事にせよ、日本にケチをつけられたくない人達は、「宣傳で勝つなどは汚ららしい、宣傳下手こそ日本の誇りだ」と、妙に力んだ議論をいまでも堂々と横行させる。こんな苦笑物の宣傳論議が続いてゐるうちに、しかし、日本の官廳宣傳網は次第に起ち上つて來た。ずつと昔、同じ省内でさへ、情報宣傳係など云ふと、他の課の持てあまし者のやうに、軽く片づけられてゐたのが、いまは一流の人材をすぐり、組織を建て直し建て直しして盛り上つて來

た。各國に比して立ち遅れは否めないが、必要が、これに追いつき追ひ抜かせようとしてゐる。少くとも日本で十年といはず五年前でも「宣傳省の必要」を唱へたら、指導者階級でさへ、どんな顔でどんな挨拶をした事だらう。今はだがこれはけふの問題だ。

わが國家宣傳センターは、政治センターと同じく、麴町永田町から三宅坂、霞ヶ關にかけて展開してゐる。ドイツの國民啓蒙宣傳省とは行かないが宣傳省的方向を持つ内閣情報部は永田町首相官邸に、三宅坂には陸軍省情報部あり、霞ヶ關には、海軍省軍事普及部、外務省情報部が相對してがつちりした宣傳街を形ち造つてゐる。外務省の隣りの内務省には、検閲線を護る圖書課があり、近く擴大強化されて映畫、演劇、レコード等の娛樂面にも、廣範圍の宣傳統制を行はうとする。宣傳の量と質に大きな變化を與へたラチオは、逓信省管下として、AKは東京都市逓信局が監督の衝に當り、對支文化宣傳には興亞院が對外的には外務省文化事業部と鐵道省觀光局が數へられるが、無論この他の各省でも、それ／＼の建前から、宣傳に活躍してゐるのであり、實踐運動に張り切る精動聯盟もまた、霞ヶ關の一角で國民に滲透する宣傳秘策を練つてゐる。

この官廳宣傳街の中心となるのが、内閣情報部と陸軍省情報部、海軍省軍事普及部だ。

#### 内閣情報部

こゝの歴史は新らしい、支那事變勃發の丁度一年前、昭和十一年七月、情報を國家的な見地から綜合検討し、宣傳政策を樹立する必要が痛感されて、時の廣田内閣が作つた「情報委員會」が、情

報部の前身である。事變が始まつて三ヶ月、十二年九月末には、現在の岡山縣知事横溝光暉を初代部長に、内閣情報部と飛躍し、今年の四月から熊谷憲一氏が、岡山縣知事から、横溝と入れ代つて部長となり次で大情報部への飛躍をめざして伊藤述史が新任した

未だ一般には、この仕事ぶりは知られてをらず、愛國行進曲の撰定と、週報、寫真週報の發行文士の大陸派遣位のところ、知られてゐる一斑であらうが、試みに官制を紹介すれば、

- 一、國策遂行の基礎たる情報に關する各廳事務の連絡調整
- 二、内外報道に關する各廳事務の連絡調整
- 三、啓發宣傳に關する各廳事務の連絡調整
- と所謂情報部の三大職務を記してある。

この各廳事務の連絡調整といふのが、文句は簡單だが誰しも察しのつく如く、なかなか至難の發當でとかく苦心大にして効果は小、前記各宣傳機關を集めた宣傳省への擴大が望まれる所以である。なほ更に

- 四、各廳に屬せざる情報蒐集、報道及び啓發宣傳
  - 五、國民精神總動員に關する一般事項
- と數へ上げると、頗る多事多端、しかも新らしい仕事だけに、目に見えぬ苦勞も多いらしい。つまり、各方面の情報を素早く集めて、綜合検討して行政の基礎を固め、また政府各部門の報道

が喰ひ違はぬやうに努める縁の下の力持から、新らしい文化政策の指導、何々週間といつた行事が、ぶつかつたり、氾濫し過ぎたりせぬやう統制するやうな仕事、新聞通信、映畫、放送、レコード關係者との懇談會、精勵宣傳の一役まで、全力を擧げなければならぬのである。實際の統合宣傳機關としての仕事も、まだまだこれからといふ所であらう。

例へば週報、寫真週報も、良くここまでやつて來たと云へるが、この兩者を區別しての狙ひは判るとしても、週報はもつとより廣い大衆層に、喰ひつかせなければなるまい。この程度位上つて喰ひつけといつた所で、一日くたくに働いた庶民は、多少インテリだつたとしても、この調子では、縁なき衆生に終るより仕方がない。

ある一定部數が出てゐても、大衆化の材料にはならぬ。週報が村の青年團の教科書になつた等といふのは、喜ぶべきことではあるまい。ごく普通のインテリ層に取つてさへ固つ苦しい、のでは問題にならぬ。あの安さも結構だし、編輯の苦心も判るが、表紙だけちらり、あとは積んでおくでは、紙も浮ばれまい。

週報がもつと大衆のベツトとなるやうに、情報部の人々ももつと街頭に出る必要がある、明るく強く、情報部を伸ばすために。

近衛首相は、就任後記者團との初會見で、内閣情報部の改組擴充を考へてゐる、と云つた。ところがこの内閣情報部強化は、急激に促進され、本書編纂終了間際の八月十三日に至り、閣議

申合せにより

「内閣情報部の機構を更ぬ外務省情報部、陸軍省情報部、海軍省軍事普及部及び内務省警保局圖書課の事務等を統合し、情報並びに啓蒙宣傳の統一及び敏活を期すること、追つてこれに關する機構の整備については、内閣及び關係各省において速かに研究の上決定實施せらるゝこととする」と發表され、福谷憲一から伊藤速史へ、情報部長の更迭も、鮮かな抜き打ちで發表された。これは、宣撫省の前提として、まづ情報部に擴充されるのであるが、新官制については、なほ協議中で決定を見ないため、こゝでは新情報部長伊藤速史の簡單なプロフィールを紹介しその活躍要望に止めて置く。

伊藤速史は、愛媛縣生れで五十六才、明治四十二年東京海商卒で、外交官としては有田前外相、徳川家正公、獨逸公使、來栖駐獨大使等と同期だから、隨分遠く國でも古い存在である。歐洲各地から支那を歩き、例の國際聯盟退會時の首席議員として活躍、後岡さんとの因縁も淺くない。昭和十二年九月モーターランド公使を兼ねてからは、暫く外務の補佐役をつとめ、上海駐在無任所公使として、外人方面への宣傳役に當つた事もあり、十四年夏には、重要訓令を奉行して、獨伊兩國に使し、以來動亂の歐洲諸國を遊歴して、各國の動向を打診、つい先頃歸朝したばかりである。伊藤速史といふ名は、外交官のうちでも廣く民衆に知られてゐるが、五十六才と聞くと大體の人がびつくりする、これ程若々しく華やかな存在となつてゐるわけだ、兼情報部長としても正に一得で

ある。語學の達者揃ひの外務畑でも、彼だけは別格、七ヶ國語を自由に操る天才で、しかも日本語が、座談でも演説でもとてもうまい。また何を書かせても、さらさらと書いてのけて、素晴らしい筆が立つ。一寸口八丁手八丁の常套形容詞では追いつかぬ才人である。

それよりも若い時から情報取りの天才と謳はれたが、その後ジュネーヴに永くゐて、各國の外相連中と大概飲み友達になつてからは、情報にかけては右に出る者のない凄腕の牙えを示してゐる。しかもたゞ華奢な才人ではなく、心臓の強さにかけても、さしもの松岡さんが、兜を脱ぐとか、脱いだとかいふ強者だから、押しも十分、先づ三拍子も四拍子も揃つた大情報部長適格者であらう。

こゝには専任として書記官六名、情報官七名、屬三十二名と囑託陣があるが、情報官の中には、民間から登用された六人の異色陣が活躍してゐる。田代金宜（元都新聞政治部長）林謙一（元東京日々記者）下野信恭（元報知記者）田中寛次郎（元同盟通信記者）井上司朗（元安田銀行）水谷史郎（元放送局）の諸氏であらう。

#### 陸軍省情報部

大本營陸軍報道部として、重慶のデマ宣傳と渡り合ひ、鐵壁の陣を固めてゐる陸軍省情報部は、そのはじめ新聞檢閲委員なるものがあり、新聞關係の業務を擔當して來たが、大正八年、シベリア出兵の機運昂まると共に、輿論指導の重要性を痛感した當局は、軍事調査委員秦眞次中佐を、大臣官房御用係、情報係に任命した。

情報部の歴史はこの時に始まりたと云つてよからざるであらう。以来幾多の英才を生み出し今日まで育つて来たのである。秦中佐は、一般社会に軍事思想を普及し、陸軍を理解させる積極的な活動を始め、一方新聞情報の蒐集、記事資料の提供、新聞記者の應接等、新聞に關する一切の業務を、新聞係に統一したのである。

この年の五月になると、參謀本部は、軍機保護の立場から、新聞記者の出入を嚴禁し、陸軍省内でも、各局課内に記者の出入することを制限し、新聞關係事務は、更に廣汎に涉つて、新聞係に統一される事になり、軍事調査委員長村岡長太郎少將を、新聞係監督の位置に置き、同委員香椎浩平中佐を、新聞係業務として陣容を強化した。

翌大正九年の初頭から、露、支、米各方面の情報主任、調査主任、外字紙主任等を設けて、新聞の機構を整へ、監督村岡少將、隊長秦中佐、班員には岡村寧次少佐以下が任命され、こゝに我々を觀し、新聞係の地位が、確立したのである。

かうして昭和三年までは、大臣官房に所屬したが、その後軍事調査委員に、昭和八年からは軍事調査部に所屬し、更に昭和十一年からは軍務局に所屬する事になつた。

この間の新聞班長は、二代三宅元治以下仙波安壽、櫻井忠雄、古城風秀（昭和七年八月まで）本間雅晴（八年八月まで）鈴木貞一（九年三月まで）坂本博（十一年三月まで）秦彦三郎（十二年八月まで）原守（十三年七月まで）の諸氏が就任し、滿洲事變から支那事變へと、情報、宣傳の目覺

ましい活躍を續けて来た。

シベリア出兵以來二十年の長い間、お馴染みだつた新聞班といふ名が、こゝに陸軍省情報部と改まつて、發展的解消を遂げる日が来た。支那事變始まつて滿一年の十三年七月、原班長を最後に、新聞班の名は終り、佐藤賢了大佐が、情報部初代部長となつたのである。

この二十餘年の永い間には、新聞班の仕事も、ますます増加し、たゞ新聞だけでなく、放送、映畫、講演、パンフレット等に、國防思想普及の總ゆる業務が集中されて、新聞班の名もそぐはなくなり、折柄、支那事變に際會して、いよく軍民一體渾然たる體制の進軍開始を機に、情報部が躍り出たわけである。

佐藤大佐が轉出して、十三年十二月、清水盛明大佐が部長となり、つゞいて十四年十一月松村秀逸砲兵大佐が、傳統のバトンを受けついで、現在に及んでゐる。

松村大佐は、人も知る舌八丁、筆八丁の名部長、ひげの濃い、眼玉の巨きな熊本縣人で四十一の精神な働き盛りである。陸士三十二期の出身で、支那事變勃發當初は、北支方面軍司令部付となつて活躍した。

その後昭和十三年七月、情報部入りと同時に大本營參謀に任ぜられ、現在は内閣情報部の情報官も兼ねてゐる。情報宣傳にかけては、陸軍切つてのエキスパート、ラヂオの放送もうまければ、筆も立ち、ジャーナリズムを、最もよく理解してゐる武人の一人である。

その他こゝには南京一番乗りの戦車隊長として、ヒゲで有名な藤田實彦中佐や、秋山邦雄少佐、中島鎮三少佐、出淵勳少佐など、鉦々たる部員が揃つて、堂々たる堅陣を張つてゐる。

#### 海軍省軍事普及部

海軍の軍事普及部も實に一般には、馴染み深い名であるが、こゝもいまは大本營海軍報道部として、拖ぎなき奮進を續けてゐる。

普及部が確立されたのは、大正十三年の事で、いま臺灣總督の小林躋造大將が初代委員長となつたが、昭和七年上海事變に際して、普及部規定を設け、大いに内容の充實に努め、鹽澤幸一大將が少將で、このポストについた。

この頃から、内外輿論の指導、海事思想の普及、新聞、雑誌、放送、映畫、演劇、寫眞等の指導等、各方面に統制ある仕事ぶりを示し始めた。

鹽澤さんからは、日比野正治、坂野常善、野田清とバトンが渡り、代々名委員長として民衆にも親しまれた。事變が始まると、普及部も大童の活躍ぶりを示し、殊に渡洋空襲第一報の堂々たる發表ぶりなどは、水際立つた鮮かさで、よく國民に海の荒鷲の偉力を知らせ、快哉を叫ばせたものである。

さらに十二年十一月二十日からは、大本營海軍報道部と成つて、一段と拍車がかげられ、精彩ある報道陣を張つて聖戰完遂に邁進してゐるが、十三年十二月金澤正夫少將が新委員長となつて現在

に及んでゐる。

金澤少將は、海軍大學を出てから、天龍艦長、第一艦隊參謀、霧島艦長などを歴任した體軀もがつしりした海の武人、山口縣生れで、當年五十二歳である。藤日向が少しもなく、卒直な所が人に好かれ、また良く世の中を知り、他人の言を容れる雅量もあり、評判が頗る良い委員長である。

この下に南洋事情通の大熊讓大佐あり、最近イタリー大使館附武官から歸朝した許りの歐洲通平出英夫大佐あり、こゝも頗る多士の堅陣である。

#### B 新聞雑誌の検閲線

新聞、雑誌の検閲は、事變下ますます、複雑を極め、記事の書き方も、實に難かしくなつて來た國家も轉換期なら新聞雑誌も轉換期だ。検閲も昔とは違ふ。いまの検閲の定義は、「言論機關を國家の進展する方向に添ひ、眞摯な協力を約束させるために行ふ」ものである。現在新聞雑誌のもつ社會的役割が非常に微妙であるだけに、検閲陣の苦心は大きい。

昔は左翼と風紀問題位のものでたつたらしいが事變に入つてから、事務が急激に増加し、又戦局の進展、時局の推移とともに益々重大なものとなつてきた。

何處の國でも、戦時は言論機關の検閲が極度に強化されて來る。戦争遂行の障害となる一切の言論は勿論、何等かの形で、眞の國策に協力してゐない記事は、今後漸次、姿を没して行くに違ひな

50  
検閲の仕事には、差止事項の傳達、指導検閲、發賣頒布禁止の三つの部門がある。

一、差止事項の傳達、關係官廳で決定した新聞記事掲載禁止事項を、内務省圖書課で取扱ひ、地方廳を通じて新聞雜誌社に通告してゐる。差止事項には、軍の作戰機密、政府の重大方針、對外關係に悪影響を及ぼす事項、外交問題の措置等の機密事項から、刑事上の犯人捜査に關する事項まで種々雑多のものがあつて、その數は近來非常に増加し、検閲の大きな仕事の一つとなつてきた。

一、指導検閲 記事の取扱上、特に注意を要する問題について、特別に注意指導を與へ、又新聞雜誌で、検閲の標準が不明なため、取扱に悩む記事の内検閲を行ふなど、検閲態度を明示して、積極的に戰時下の言論機關を國策の協力へと指導してゐる。

一、發賣頒布の禁止、新聞紙法によつて、安寧秩序を紊すもの、風俗壞亂の虞れあるものは、發賣頒布が禁止される。

この安寧秩序の適用範圍は、頗る廣範圍に及んで、風紀關係以外で検閲に抵觸したものは、凡てこの適用で處罰されることになつてゐる。事變勃發當時は發賣頒布の禁止を受けるものが、一時は随分多かつたが、最近では、新聞雜誌で夫々細心の注意を拂つてゐるため、大分數が減少してきた。

さて、此の言論機關の大目付役、内務省圖書課の検閲陣は、  
圖書課は、内務省警保局に屬して、いまの課長は福本柳一、此の課の中には、新聞、雜誌、出版

物、レコードの四つの係がある。新聞の係りは田中事務官以下屬官九名、雜誌は門叶事務官以下、大體同數、夫々検閲事務を擔當してゐる。此處の仕事は、本來は地方廳の検閲の指導が主であるが、便宜上、新聞の係では、朝日、日々、讀賣、都、中外、國民、報知、同盟等の帝都の有力新聞紙及通信を、雜誌では改造、中央公論等の綜合雜誌十數種類を、直接検閲して、標準を明示してゐる。検閲標準は時代とともに移るが、内務省の現在の標準は「新聞、雜誌は、常に國策への眞面目な協力の上にたつ報道機關でなければならぬ」といふ觀點の下に、標準を定め、禁止處分や禁止事項とは別に、國家觀念に立脚して記事の取捨選擇を實行させ、自由主義的な不眞面目な批評、及び些少なりとも國家に不利益となると思はれる記事には、嚴重な取締が行はれてゐる。

何しろ新聞雜誌の検閲業務は、相手がスピード第一であるだけに、短時間の裡に、複雑多岐な問題を、明確に處理しなければならぬので、係官はこの點、並々ならぬ努力を拂つてゐる。發賣間際に、どつと殺到する雜誌検閲もさることながら、一日に十回近くも組替へる新聞紙、一日中ひつきりなしに入つてくる同盟のニュース等のため検閲陣は文字通り活字に明け暮れてゐる。朝刊の地方版第二版が刷上るのが、午後八時位で、最終版は時として、翌日の午前四時位になることがある。此の間、係官は各社の地方版、市内版を検閲しながら、禁止事項その他の問合せにも、應對しなければならぬ。翌日は、早々から地方廳の検閲狀況が、刻々と電話で報告されてくる。さうしてゐる間に、正午には、もう呼賣版の検閲が始まつて、午後四時頃までは輪をかけて、目の廻るやうな



忙がしさが始まる、といつた調子で新聞とともに、毎日無休の連続である。課長等も先づ内務省第一の難役で、圖書課長在任中は汽車には一度も乗らず、寝てゐても、毎晩一度や二度は問合せの電話で叩き起され、しかも新聞雑誌社からは、往々にして憎まれるといふ割の悪い役廻りである。

いま圖書課の懸案は、新聞雑誌の數量統制と、課の機構の擴充強化である。統制は進行中だが、圖書課の擴充案は、いま法制局で審議中で、大體秋までには、勅任課長を載く檢閲課が出現する豫定である、擴充案のねらひは、新聞雑誌出版物をはじめ、レコード、映畫、娛樂の檢閲陣を強化して、その質的向上をはかり、これを總動員して、國民の時局認識と國策協力の實を擧げることを目的としたものである。このため現在の新聞、雑誌、出版、レコードの他に、現在警務課の所管となつてゐる映畫檢閲を圖書課に移し、更に大衆娛樂の芝居、レビユー、浪花節、漫才等の臺本檢關係も新設して、凡そ檢閲と名のつくものは、一切こゝで取扱ひ、名も圖書課を檢閲課と改める豫定である。

また特に新聞雑誌には力を入れ、檢閲官 關係者の増員をはかり、檢閲官の中には、民間の有識者をも入れて、檢閲陣の再編成を行ふことになつてゐる。

### C 新聞の統制と記事の傾向

事變下三年を閲した現在の新聞は、いま大きな轉換期に直面してゐる。大ざつぱに言へば自由主

義からやうやく新政治體制即應の第一段階に入つたと云へるかも知れない。

一昨々年七月、蘆溝橋に響いた一發の銃聲を契機に、國內には戰時體制、國家總力戰の布陣が、徐々にはあつたが、確立に向ひ、今次歐洲大戰の餘波は東洋の岸壁をも強く叩いて、日本國民に新政治體制の緊急重大性を、はつきりと印象づけた。

したがつて、時流に敏感な新聞はこの歴史的潮流の轉換の中に身悶えした。中身はともかくとして、いやが應でも紙面は變らねばならぬ。

もと／＼新聞は其の起原に於て、ある主義、主張を宣傳するために作られ、自由主義を温床に成長して、この活潑なる運動の展開によつて政府を鞭撻し、社會をリードして、華々しい業績を數多く残して來た。

だが此の事變を契機に突發した颱風は、この新聞から永年その使命としてきた、餘りにも自由主義的な言論批判性を奪ひ去つたのである。永年の方向を見失つた新聞は、混亂をきわめ、刻々に進展する事實の前に指導性もなく、たゞ事實の羅列に終止した時代が続いた。

確かに毎日の紙面には、資本と機構に依存する華々しい戰況の速報戰、カメラマン、從軍記者の決死的冒險によるフィルム、ニュースが全面を埋め盡した。だが此の時代には事變の本質を東亞全局の變化と歴史的轉換に結びつけ、それによつて建設的な大衆動員を敢行するやうな、自主的權威のある指導方針をもつた新聞は一つも無かつた。

しかし聖戰三年、やうやく冷靜を取戻した観のある新聞は、こゝに初めて日本の國際環境と國民生活の實體の中から國家と國民の統一的前進の方向を主張し、その途を阻害するものにむかつて戦ひ抜くといふ、新しい指導力を發見したやうに見える。そして、やうやく新聞は、いま相容れぬ自由主義的批判性に變る新しい批判、新しい主張を使命として轉換期日本を乗り切るべく、脱皮し飛躍せんとしてゐるのだ。

以下紙面の各部門について大體の動向を取上げてみる。

**國內政治**——社會の全面的轉換の契機に際し、新聞もこれに即應して新しい指導性を持つためには先づ新聞と新聞人の思想そのもの、再編成が必要であつたが、各紙ともこれを怠つたため、何等の指導性も見透しもなく、刻々進展する社會情勢、複雑怪奇の國際情勢に對應して、まさに言論の昏迷時代を現出してゐた時であつた。

論説や、評論にしても大抵現象の解釋に止まり、それさへしどろもどろで、全く歸一するところがない有様だつたが、最近やうやくその態勢を整へて來た。

だが、全面的には未だ思想の變化が行はれてゐないために、社説には至極革新的なものを掲載してゐる新聞が、記事に解説にこれとは全然相反するものを麗々しく取上げ、不統一ぶりを暴露してゐるものが多い。

**外電**——各社特派員の手になる外電は、堅實性も指導性も具備して、國民によく世界新秩序の

方向を明示してゐるが、捏造特電が依然として跡をたゞない。又、交戦國のどちらかで出すニュースをそのまま検討もせず、特電として取扱ひ、まんまとその宣傳に躍らせられた場合も多い。

**經濟**——近代の戦争は經濟戰といはれ、一國の經濟が、戦争の勝敗を決定するといはれるだけに、國民の經濟界への關心は極度に高められてゐる、このため、各社とも、經濟面には相當の紙面を割き、専門的なものから解説的なものへといふ傾向が、非常に強くなつた。この際この面に望まれるのは思ひ切つた大衆化であらう。そして經濟面の外電は比較的堅實味があり捏造記事は殆んど見られない。

**社會**——興味本位の記事が段々少くなり、指導的建設的な意圖の下に編輯されて來てゐる。最近の傾向としては特に外電に關聯した記事と、國民の生活面に關係のある經濟問題が、非常に其の數を増してゐる。

**運動**——國民體位の向上といふ觀點から相撲、野球、一般競技が益々隆盛をきはめてゐるが、各社とも、これを運動欄に取扱ふだけでなく、社會面でもすゝんで紙面を提供して、國民の保健向上に、眞摯な協力の態度がとられてゐる。

**廣告**——事變以來、比較的健全性を増し、待合、花柳病の藥品等の廣告が跡を絶つて來た。だが依然として、化粧品、藥品等が斷然壓倒的で、映畫、芝居、旅行案内等の娛樂に關する非生産的なものが殆んど紙面を埋めつくしてゐる。

いま問題の新聞統制も新聞の傾向とは不可分の関係にある。

新聞統制のはじまりは、大體近衛内閣の時の臨時資金調整法の成立が端緒となつてゐる。その後、パルプ資材の不足と、輸出振興の必要から、平沼内閣の時に、整理に乗り出したもので、此のほかの整理理由としては、健全な報道機關の確立、無意味な販賣競争の抑制、内容の低劣な新聞の排撃、統制による國民一致協力の實現等の項目が上げられてゐる。

その具體的方針としては、先づ地方紙の整理から始め、大體地方は一縣に一紙、大都市は實情に應じて、出来る範圍内に統制する意向で、既存の新聞を合同廢刊せしめてゐるが、現在までのこの整理状況を見るとかなり思ひ切つてやり、事變前に約千二百餘もあつた日刊新聞が、現在では約八百餘に縮減されてゐる。

このほか、週刊又は旬刊の新聞紙を入れると其の数は莫大なもので、例へば九州の或る邊鄙な縣には凡そ新聞と名のつくものが約七十位あつたが、整理の大鐵槌が下つた現在残つたものはたつた一紙のみであつたといふ事實を知ると、大體の見當がつく事と思ふ。

世界列國の日刊新聞の数は、ドイツ千五百、イギリス千六百、アメリカ二千五百といはれてゐるが、内務省の見解では、日本に於ては地理的にも、人口的にも、まだ整理する必要があると云つてゐるから、怖らく今年中には殘餘の數百の新聞が廢合の運命に遭ふものと見られる。しかし此の整理は餘程大局を見定めてやらないと飛んでもない事になる。とかく形式的な數量統

制を急ぐ結果は、新聞の言論的生命が全く無視され、たゞ資本と機構の大なるものが、何時までもその大を保持し、資本と機構の小なるものは多く廢合の憂目をみる他は無く、同時に既成の言論機關に對抗すべき新しいものゝ誕生等といふことは、全く不可能な事になる恐れが多分にあるからだ。

#### D 官廳發表から記事まで

最近行はれた官廳發表の中でも、國民にとつて最も感動的であり、忘れ難いものゝ一つは、昭和十三年十月二十五日、大本營陸海軍部の敵首都漢口陥落公表の想ひ出であらう。

官廳發表から、どんな経過をとつて、新聞の記事が出来上るかを語る前に、われ／＼は先づ、一億同胞が首を長くして待ちに待ち、そしてそれが行はれると、國民の血を沸かして止まなかつた、漢口陥落の歴史的な公表の瞬間を、想ひ出してみたい——この感激極りない、歴史的ニュースが、どんなにして國民に傳へられたかをふりかへつてみたい。

その年、十月も二十日を過ぎると、武漢目指して、怒濤のやうな進撃を続ける皇軍が、何時その一角に日章旗を翻へすかといふことが、新聞街はもとより、一億同胞の期待する最も大きな問題となつた。

新聞街では、最前線從軍特派員からの刻々に打電されて來る特電によつて、机上に大きな地圖を擴げ、皇軍の進撃地點を一々記入して、漢口までの距離を計り「あともう三日、あと二日！」と皇

軍漢口一角突入のニュース速報に、手具脛引いて待つてゐたのである。

然し大本營報道部では、各新聞通信社特派員の特電によつて、漢口陥落の世界的ニュースが、まぢく速報されるのを避け、最も速い、派遣軍司令部からの情報に基いて、これを公表し、一億同胞の期待に應へると共に、歴史的な感激の瞬間を、公平に、同時に國民に頒つこととしたのであつた。

二十四日頃になると、新聞街一丁目あたりでは、皇軍漢口突入の情報は、既に確認された様子で、街の燈屋さんや、旗屋さん等は奉祝行列用の製品に大童、街の角々には、戦勝祝賀の行列が、今にも繰り出し兼ねないといふやうな興奮が漲つた。だが大本營の公表は未だない。その頃陸軍省記者俱樂部には、毎晩遅くまで數十名の新聞通信記者が押寄せ、薄暗い電燈の下で公表を待ちつゝ、皇軍破竹の進撃を話し合つてゐた。當局の公表が遅れれば遅れるだけ、新聞記者はもとより國民は前線將兵の困苦を胸に浮べて喉をうるませた。

然しそれはあまり遅くはならなかつた。

明けて二十五日、待望の時は遂に訪れた。「今日こそ陥落公表間違ひなし」といふ情報が當局から廣らされて、新聞街はいきり立つた。

短い秋の日は早くも暮れて、夕刻からは冷い雨が、三宅坂の落葉をたゞいてゐた。數十名の新聞通信社の記者達は俱樂部に頑張つて一歩も外に出ない。各社の寫眞班や、ニュース映畫班も夕刻か

ら續々と詰めかけて来る。放送局でも、この歴史的公表の聲を、一刻も早く銃後國民に傳へやうと、録音器の取付に忙しい。

やがて午後八時が過ぎた。各社の記者達が、本社のデスクと打合せる喧噪な電話の話聲、ニュース映畫班の目映いばかりの照明燈の試験——皆チツトしてゐられない興奮の雰囲気につままれる。

午後九時少し前、各社出先きの俱樂部の机上電話は、みな本社と繋ぎつばなしにされたまゝ、受話機が放り出されてゐる。オートバイの使者が、各社から呼ばれる。これは電話以外の原稿を届けるためだ。皆が立つても居てもゐられない氣持で、胸をわく／＼させてゐると、やがて情報部の廊下から、意氣込んだ軍靴の音が響いて來た。時の大本營陸軍報道部長の佐藤賢了大佐、發表係主任の福山寛邦中佐、秋山邦雄少佐達の歡喜と祝福に満ちた顔が、暗い電燈の光に浮ぶ——ワツ！といふ記者團の割れるやうな喚聲の中を押し分けて、福山中佐は俱樂部の部屋の中央に進み、發表文を手にして立上る。午後九時——歴史的公表である。佐藤大佐も側からチツト目を離さず、これを見守つてゐる。放送局の録音用のマイクが、福山中佐の前にヌツト突き出される。ニュース映畫の照明燈、寫眞班のフラッシュを浴び、新聞記者達の耳を吸ひつけて、福山中佐の公表は行はれた。

「大本營陸海軍部二十五日午後九時公表——我軍は本二十五日午後四時三十分陸海軍協力して漢口の一角に突入せり——一語一語に無上の感激をこめて、發表文は嚴かな口調で、讀み上げられた

のだった。再びあがる記者團の喚聲——時を移さず續き放しのまゝになつてゐる電話によつて、この歴史的公表は各社のデスクに送られた。デスクからは「皇軍漢口の一角に突入！」の見出しをつけて、早速號外として印刷工場に送ると共に、地方支社局へも同時に、電話で速報、號外準備の手配をする。漢口占領を告げるサイレンのうなりが、冷雨降りしきる帝都の秋の夜空に響き渡つて市民の耳から未だ消え去らぬ内に、號外はもう町の辻々に氾濫する。商店の店先のラヂオは、臨時ニュースとして福山中佐の感激的な公表の聲をそのまゝ放送してゐる。同盟通信社からは専用線を通じて全國支社局へ——更に加盟新聞社へと一刻を争つて速報され、又滿洲支那をはじめ海外にもこの世界的ニュースの電波が駆け巡つた。

すべてこれらは、みな一瞬の出来事であつて現在新聞通信社のニュース傳播機構が、如何に巧妙に組織され、卓越したものであるかを如實に示してゐる。この大本營公表の漢口陥落ニュースは、號外になると共に、翌二十六日付全國各社朝刊の一面トップ記事となつて掲載され、永く國民のその時の感激を留めてゐる。

以上は漢口陥落の大本營陸海軍部の公表から、新聞號外となつて、國民にこのニュースが傳へられた経過であるが、官廳の発表は最近のやうな事情から非常に多くなつたものゝ、その總てが、かゝる國民的期待と、感激のうちに行はれるものでない事は勿論である。中には正直なところ新聞社でも、もてあます様な発表もある。然し官廳発表は大體見透し物でなく決定した事實ばかりであるか

ら、新聞通信社では大なり小なり殆んど洩らさず、之を報道してゐる。中でも内閣の発表だとか、宮内省の宮廷記事、大本營陸海軍部発表等は、一刻を争つて報道されるのは當然だ。

大體新聞の記事には、官廳等から発表されたものを、そのまゝ報道する、新聞にとつては、いはゞ受動的な記事と、一方、新聞記者がある問題について探りを入れ、研究し、検討してまとめあげた、積極的な記事があるやうに思はれる。正確迅速といふ、ニュースが具有せねばならぬ本來の性質からして、どちらの記事に優劣があるといふ譯ではないが、概して官廳等の発表物は、一般に信用され易い性質をもつてゐる。

何々省発表と、官廳の「発表」の文字が付くことになる、どんなに小さな事柄でもそれは極めて嚴重な手續を経て、事務當局の案文の起草、次官から大臣の決裁を待つて、初めてなされるものであるから、これを取扱ふ新聞社でも決して忽せにはしない。

一旦発表と決まれば、それ／＼出先の記者に對して、口頭なり、或はプリントにして手交される情報部長談だとか、大本營の綜合戰果だとか、長文のもの、數字のあるもの等は、プリントにして渡される場合が多い。

重要なもので一刻を争つて報道する必要のあるもの、或は新聞の締切間際になされる発表等には出先の記者は非常な苦心をする。一人が発表文について、その経過とか、その意義とか、発表文についての前書風の記事を、急いで執筆してゐる間に、一人は発表文を大急ぎで、本社のデスクへ電

話で読みあげたりする。口頭で発表される時など、一人は筆記し、他の一人はその一枚々々を受けとつて、電話に吹き込んでゐる事もある。

これを受けとつたデスクでは、原稿を整理して見出を付け、印刷工場に廻すことは、他の場合と異なる所はない。

官廳の諸発表が、毎日出先に詰めてゐる記者團に對して、記者が何も知らないでゐる間になされる譯のものではない。時には陸海軍の新上陸作戦の様に、突如として行はれ、新聞社側で面喰ふ様な事もあるが、これ等は作戦機密の上からなされる特殊な場合である。殆んど總ての場合には、記者の側でも発表される問題について、大體は知つてをり、むしろ當局を突つて発表の促進役を勤めてゐるのである。

當局の發表に對する新聞社の競争は、只これを如何にして早く報道するかといふ速報の競争が大部分だが、これを若し發表前に或る新聞が出し抜いた場合は所謂特ダネとなる。當局にとつても、出し抜かれた新聞社にとつても、これは一大事であつて、時には重要な外交交渉が頓挫したりする事もあり、當局では嚴重にこれを警戒するのを常とする。

この種の記事のすつば抜き(スクープ)で有名なのは、一八八七年、ベルリン會議におけるベルリン條約の全文を、調印の前日にすつば抜いて、世界をあつと言はせたロンドン・タイムズのベルリン特派員ブローキッツであらう。ピスマーク議長の許に、英佛露奧伊土諸國の首相、外相が一堂に會して密議し、新聞記者は完全に敬遠されてゐたものを、會議の重要な經過はもとより、遂に條約調印の前日フランス語の原文に英譯を附して、全文タイムズに掲載したのだから世界中が吃驚したのも當然であらう。かうしたスクープの蔭には新聞記者の血の出る様な苦心が秘められてゐるのである。

### E 國內放送の實力

「ラヂオは第一に國策の遂行機關であり、次いで文化機關、報道機關である」去る五月十五日日本放送協會總會の席上で當時の勝遜相ははつきりと宣言した。我が國で放送が開始された當時考へられた様な「ラヂオは娛樂機關だ」といふ概念はこの宣言以前既に全く修正され、國策遂行機關としての重要性が第一線に押出されたのは、何も目新しいことでは無いが、放送事業を所管する遜相が、之をはつきり規定した點にこの宣言の意義がある。

ドイツでは夙に「ラヂオは國家の意志を傳へ、且ラヂオの聴取は國民的行爲である」とされ、ラヂオは國家の國民に對する重要な政治的指導機關として、運用されてゐるが、この數年間に於ける國際政局の緊迫は、各國が好むと好まぬとに拘らず、放送事業經營の統制と、擴充強化を齎し、歐洲大戰が勃發するや、戦局を左右する有力な宣傳機關としての電波が、有實無實のニュースを載せ

て地球上凡ゆる隅々まで、火花を散らして戦つてゐるのは周知の事實である。かゝる放送事業の國策化の點で、日本は非常に有利な立場にあつた。つまり「無線電信電話法」を讀みかへすまでも無く我國の放送事業は、本來政府の管掌に屬し、運営の便宜上公益社團法人たる日本放送協會（臺灣は臺灣放送協會、朝鮮は朝鮮放送協會）に委ねられてゐるに過ぎず、従つて一度政府の態度が決定すれば、之を自由に統制するのは、全く易々たる事だつたからである。

かくて支那事變が勃發し、聖戰完遂に國力の總動員を計らねばならぬ重大時局に際會するや、わが國の放送事業は、殆ど事變前の面影を留めぬ程に變貌し、午前六時の「お早やう御座います」から、午後十時二十五分の海外放送に至るまで、凡ゆるプログラムは、凡て廣義の國策遂行一色に塗り潰された。試みに事變以來新設された主な放送番組を見れば、

イ、ラヂオ時局讀本 十三年七月十八日以降、午後八時三十分から十分間、毎月數回乃至十數回

ロ、特別講演の時間 十三年一月以降毎夜七時半から十分間

ハ、録音による週間回顧の時間 毎日曜日午前十時四十分から

ニ、その他 朝のニュース 今日のニュース ニュース解説 時事解説 精勤特報 店員の時間 中等學生の時間 時局演藝 文化演藝 官公署公示事項

等、時々刻々決定されて行く國策を、國民に徹底させる番組を中心に、多數の新プロが編成され、午後二時四十分からの「ラヂオ體操の時間」増設は、國民保健の徹底を期して、「店員の時間」新

設に對しては主として慰安放送ではあるが「劃期的社會立法たる商店法に協力する爲」と銘うち、凡て國策の線に沿ふことを目的としてゐる。又一日平均放送時間に就いても、時局色は明らかであつて、事變前の昭和十二年三月現在と、事變後の昭和十四年三月現在とを比較すると、第一、第二放送を合計した延時間は十四時間十六分から十六時間一分となり、一時間四十五分の増加であるが、そのうち報道時間の増加が實に一時間十六分に上り、國民から見れば、時々刻々のニュースが、日々の生活に不可分に食ひこんだわけであり、放送者からすれば「聴かせたい」徹底させたい「ニュースが急速度に増加した現れと見ることが出来る。

では放送内容はどうか？

報道の部門に於ては第一に「臨時ニュース」が刻々戦況、重要政策を傳へ、また實況放送ではアウンサーが前線に出張して、戦況を實感に或ひは録音により、銃後に傳へて前線を彷彿せしめたり、大本營發表その他の實況を録音、ニュース放送中に編輯挿入して、効果を揚げたのも事變完遂の爲の新機軸であり、國民に訴へた影響は見逃せぬ所であらう。

こゝで思ひ起すのは、武漢三鎮の攻略成つた一昨年十月二十七日夜「大本營陸海軍部公表、我が軍は本二十七日午後五時三十分、陸海軍協勇殘敵を掃蕩し、武漢三鎮を完全に攻略せり」といふ感激のニュースに次いで、愛國行進曲が放送された瞬間だ。街に家庭にこの國民的感激のニュースを聞いた國民は、誰からともなく、何時とも知らず、揃つて愛國行進曲を唱和してゐた。ラヂオが巧

まさしてあげた劇的效果だったのである。

慰安放送は、事變前まで娯樂の爲の娯樂、慰安の爲の慰安が、ラヂオ放送の最大の眼目であつたし、又それはそれで、ラヂオの普及に、大きな貢獻を爲したが、現状は既にかゝる時期を、遠く過去に押しやつてしまつた。時局問題を對話演藝體として、平易に具體的に説明する「時局演藝」、自然科学、地歴、經濟等を演藝化した、時局常識を普及する「文化演藝」が、新たに世に送られる一方、音樂でも江戸音樂の祇園趣味、輕佻なジャズを成るべく避けて、事變に因む勇壯な軍歌、吹奏樂、輕音樂等に力點を置き、特輯番組には必ず時局的な意義を附與することになつた。「皇軍慰問の夕」「傷病將士慰問の午後」「上海戦線思ひ出の夕」「支那事變國債賣出の夕」「心身鍛鍊の夕」「八紘一宇の夕」「銃後婦人の夕」等々であり、その内容は「消極的意味の娯樂を排し歡喜明朗を求め以て國民の士氣と教化に力める」のを目標としてゐる、未だ稍もすると名前倒れになる傾きもあり、今後の改善に待つべきであらう。

國策遂行機關として、ラヂオに對する政府の關心は日々に高まり、政府から「是非放送してくれ」といふ、ニュース、講演が増加して來た。重要國策の決定に當つては、大臣或ひは事務當局のエクスパートが、積極的にその解説役を買つて出て、國民の協力を要請する場合が非常に多くなつて來たことも見逃せない。

然しラヂオはその超空間性の爲に、敵國諜報機關が一言半句も洩さず聴取して居り、その隱時性の爲に一度放送された事柄は再び歸らないのであるから、新聞雜誌以上の嚴密な注意を要し、放送の取締が一般通念より高度となるのは當然で、ニュースは殆ど批判を入れずに報道の一點張、放送原稿の嚴密な校閲はもとより、時には放送時中の遮斷をも敢て行ふ。昭和十五年七月七日事變第三周年記念講演會に於ける暴漢の外相演説妨害に際して、放送を中斷した如きは最近の一例であるが、世界の耳に筒抜けのかゝる席上に於て、騒擾を起す如きは、全くの利敵行爲であると見做されても辯解の餘地ない行動である。

さて聴取者の側には、如何なる變化が起りつゝあるか。聴取者總數は、去る五月二十九日、遂に待望の五百萬を突破（大正十四年假放送開始に當つての聴取加入數の約千倍）六月二十九日現在で五百五萬七千四百九を算し、三世帯に一個の割合で、ラヂオは普及されてゐるといふ勘定になる。事變勃發以來、消費節約、貯蓄獎勵、平和産業の萎縮、受信機器の品薄及び昂騰、配電線不足等の爲、聴取者加入數は一時寧ろ減退の傾向にあつたが、政府當局と放送協會の努力により、又國民の自覺によりラヂオの有用性が次第に徹底し、使用材料を極力節約した第十一號受信機の出現や、工業地帯及農村方面の好景氣等と相俟つて、昭和十三年十一月頃から騰勢を盛返し、以來漸増を續けてゐる。

「擧つて國防、揃つてラヂオ」の宣傳ポスターに、陸海、内務、逓信四省の名前が書列ねてある一事にも、如何に政府當局がラヂオの普及に、力を入れてゐるかを見るべきである。又ラヂオ未施設村





と日本に對しては宣傳の及ばぬことを嘆いてゐるのである。

#### F 邦人通信員の進出

完全な自主打電——永らく日本の新聞通信界の待望の的はこれだつた。日本人の眼で見たニュースを、世界の各地から集める、この理想へしかし日本は次第に進みつゝある。

日本が現在、海外に有してゐる邦人通信員は一番多いのが同盟通信の海外特派員——これが支那關係を除いて大體四十名で、他に東西朝日新聞、東日、大毎、讀賣の各大新聞社が獨自の見解の下に、派遣してゐる歐米特派員が大體合計數十名で、現地に於て囑託として、或ひは通信員なる名目の下に、報道の任に就いてゐる者を合すれば、百名を超える數になつてゐる。

これ等の特派員の派遣先を、同盟通信のみに就いて見るならば、大體次の如くである。香港、マニラ、バタヴィア、シンガポール、ボンベイ、シドニー、ロンドン、パリ、ベルリン、モスクワ、ローマ、ジュネーブ、ワルソー、ワシントン、ニューヨーク、サンフランシスコ等が主たる支局の所在地であり、他に隨時、各近接支局より、樞要なる地點に、更に特派員が出張し、ニュースの蒐集に當るのである。例へば、歐洲第二戰亂が、バルカン方面に、微妙な動きを見せてゐる折柄、バルカン地方の現地ニュースの報道は、甚大な影響を持つものとして、ローマ、ワルソー等からブカレスト、イスタンブール等に、特派員が出張、隨時重要ニュースの打電に活躍するが如き

である。

そして各外國支局は、所在地の通信社、例へば英のロイテル、獨のD.N.B、佛のアヴァス、伊のステファニ等と連絡、ニュースの交換を行ひ、またさきに觸れたやうに同盟東京本社で蒐集した日本東亞ニュースは、隨時無電を以て全世界の通信社に、撒布され、同時に各通信社の獲得したニュースは、同盟本社のアテナに、連日打電されて來るのである。この通信契約は、日本の世界に於ける通信網の威力を語るものとして、世界動亂の兆益々激化の今後、更に一段と重視されねばならない。

かくして打電されて來る電文は、特派員のもものは、檢閲の關係等の制限が無いが、ローマ字を以てされ、他の外電は英語或ひは佛語であるが、英語が大部分を占め、佛語はその三分の一もない。そしていまは、昔の何十倍にも及ぶ、自主的打電のローマ字電報が日夜同盟本社外信部のデスクへ殺到して來るのである。

かくして打電され來つたニュースは、日本文に翻譯され、嚴密に檢討された後、初めて「ロンドン十日發同盟」の如き形式を以て、外地の各新聞に傳へられるのである。だから、同盟外電が傳へるものは、同盟自身の特派員のニュースも、各外國通信社との交換ニュースも、新聞紙上に現れる場合には、全て區別が判然としてゐないが、そのニュースはどれも、充分濾過されて正確なものとなつてゐるのである。

なほ滿洲にあつては、滿洲國通信社が、新京に本社を置き、滿洲各地に通信網を張り、所謂「國通」の名の下に、ニュースの發信受信を行つてゐる。同盟とは姉妹關係にあり、滿洲國內に於ては「ロンドン十日發同盟」のニュースも「ロンドン十日發國通」の名の下に、發信され、また滿洲國內のニュースは、全て同盟を通じて、全世界に打電し撒布されるわけである。

#### G デマの傳播

口うつしの情報を何よりも尊重する、これが戦時下の何處の國にも現れる人間の弱味である。政府の發表や聲明を餘り信用せず、新聞や雑誌に書かれてゐる事には、頭から懷疑的にぶつかつて行く。耳から耳へこつそり傳へられる情報だけが、何か真らしく、胸をわくわくさせて聞き、また人に傳へる。戦時下の報道統制等が因をなしてとかく起りたがる通弊である。

日本でもちよい／＼この種のデマを耳にする。相當教養のある人が「蔣介石が日本へ來てゐるさうですね」等と眞面目に訊いてくると、全くがっかりするが、そんな事になる心理は解らないでもない。

この程度なら未だ良いが、廣く世間に流れ渡つて、飛んでもない事になる悪質のデマもあり、これは笑つて済まされぬ宣傳ゲリラ隊なのである。英國でも一九四〇年七月十二日から「無言部隊」運動を起し、國民の戦意を喪失させるデマ、間違つた情報、敵を利する正確な情報等を嚴封せよ。

とデマ防壓の防異運動に着手してゐる。

全く亂れ飛ぶ流言蜚語こそは、いま世界各國で取締りに悩む目に見えぬ怖るべき敵である。この取締りは頗る難かしいものとされてゐるが、流言の本質を究明して、實際に即した對策が練られなければならぬ。それならば流言蜚語は如何にして傳播するか、これについて最近發表され、學界の注目を惹いてゐる新學說に、東洋大學心理學教授關寬之氏の「走行説」がある。

従來、流言や迷信の傳播徑路に關する學說としては、佛國の方言學者ドーザー氏や柳田國男氏等の主張する所謂「放射説」一點張りで、流言は一箇所から次第に遠方へ、必ず波紋狀に擴がると主張する。例へば現在、東北と九州で非常に似てゐる方言があるが、放射説では、これは關東あたりと言葉が、次第に東西に擴がつたもので、其の傳播徑路は、恰度音波が、波紋狀に擴がるのと同様だと説明してゐる。走行説はこの放射説に全く反對して、流言は先づ交通機關により、その時々々の條件次第で、一箇所から數箇所に飛び、この數箇所を結んだ多角形で、流言の及ぶ範圍が自ら形成され、それから寧ろ反射的に、次第に内部に浸潤して來ると實證してゐる。流言に關する實驗例は

犬と辨當 一人々々保母をつけた三十二名の幼稚園兒に聞える様に、先生二人が「犬が辨當を食べて逃げたさうだね」と流言して、遊んでゐた百二十名の園兒の中に放ち、その傳播徑路と流言の變化を調べたところ、先づ門と畑と小高い丘の三方面に走行、約十分經過した頃には、犬が白犬、赤犬、白赤の犬、シェパードとなり、次第に浸潤して行くにつれて、二十分の後には、犬が狸や狐

と言ひ傳へられて、百二十名を捕らへた。

**遠足と子供** 小學生三十二名に「近いうちに遠足に連れて行く」と流言して、三玉間を去る流言の俚路を調べると、先づ走行態には、一部の友達とその家庭に傳へられ、遠足期に及んで一歩児童に擴がつたのは前の場合と同様だが、この場合は流言がなると児童に不安や恐怖を興へる性質のものでなかつたので、内容の變化は見られなかつた。

**赤マント事件** 昭和十三年十一月から翌年二月にかけて、帝都の學童を畫へしませた事件で、赤マントを着た怪漢が出現、子供の血を吸ふといふこの流言蜚語を擧げると、この流言の本源の江東方面から、交通機關で走行、先づ中央線で小金井に飛び、一方山手線で赤羽と品川に飛び、この三箇所から約四箇月に亘つて全市に擴がつたが、チヂヤ、新聞から小學校までが大層になつて防塵に努めた結果、やがて消滅して終ひ、流言は擧げや擧げには非常に要いものである事を物語つてゐる。

**目なし達磨** 色々の類ひ事が噂々海に、達磨に用玉を畫き返む「目なし達磨」の迷信は、現在肥後其他で調べられる傳播路の本源が四箇所ある。第一は室町後山時代に至るまで盛んに流行した。第二は甲府、八王子の區路を遡つて、徳川末期に五田市で流行し、其後青森、岩山に傳はつた。第三は慶長年間靜岡から濱名湖邊に流行し、それから手塚に傳はつて第二の系統と合流してゐる。第四の群馬縣豐岡には、多數の信徒をもつ達磨寺が建立されて、徳川末期に盛んに目なし達磨が畫

出され大いに流行つた。其後、達磨寺を起點として二方面に傳播、一つは長野縣上田市迄行つて消え、他方は達磨寺から中仙道を経て埼玉縣に入り、川越、熊谷、浦和、東京に擴がり、東京では川崎大師、西新井藥師、柴又帝釋で、現在盛んに行はれてゐる。そして目なし達磨の生産額も、全國で一年に十萬圓に上るといふ繁昌振りだが、この迷信は地方々々で異なるが一般に金錢上の縁起を擔いでゐるので、長野縣や東北地方の養蠶地や、農村では支持されないのも面白い。

**錢洗辨財天** 鎌倉扇ヶ谷町にある錢洗辨財天は、保元平治の頃、源頼朝が發見し福の神として祀つたのに始まり、其の後北條時頼が當時天災地變がしきりに起つたので、人民の救濟策の一つとして、節約、貯金を奨励、辨財天のお水で洗つた金は懐ろから逃げないと言ひふらしたのが迷信の起りである。途中、記録が絶えて、徳川末期にまた非常に流行してゐる。それが明治となり紙幣が發行されると、一時すたれたが、これは紙幣では水で洗へないからだつた。それがまた、大正十年と昭和二年頃の經濟界の不況とともに盛んになつたのも、人心の一面を反映してゐる。現在東京を中心に花柳界で専ら流行してゐるこの迷信の傳播路は、明治以來黄金開運の講中四團體が媒介して横須賀、横濱、川崎、東京に擴がつたが、地元の鎌倉では、一向流行らないのが走行説を裏書きしてゐる。

今次事變の勃發當時、安藝の官島を本源として、「事變は三年で終る」と言ふ流言が起り、一年後には東京に迄も傳はつたが、其の因縁と言ふのは日露戦争の時、神社の燈籠が八本倒れて、戦争が



## 五、宣傳と人

### 1 ナチス宗の開祖ヒトラー

敗戦後のフランスは、前大戦の勇將、八十幾つの老ベタン元帥をかつぎ出した。

ベタン元帥の如き、今日となつて見れば、單なる國寶的存在に過ぎまいと思はれるが、萎靡沈滞した人心を鼓舞激勵する上において、國民の齊しく敬慕する人物を、その位置に据えたことは、恐らく多分に國內の宣傳的効果を狙つたものであらう。

もし大英帝國が、七十七歳の老英雄、ロイド・ジョージ翁を臺閣の首腦に祭りあげる、日が來るとすれば、それは同じく英雄崇拜の國民心理を利用した、一種の宣傳形式に外ならないのである。だが、ヒトラーの場合は、その人物としての宣傳價值の上から云つて、ベタンや、ロイド・ジョージの比ではない。

ドイツ國民の彼に對する親しみと尊敬、それは寧ろ「人間」よりも「神」に近い。基督教徒の基督に對する絶對の愛と信仰、それと聊かの變りも無いのである。

ナチスの運動を一種の宗教運動と見る人がある。何故、ドイツに国家社会主義の運動が起つたかを考へて見ると其處には何物にも増して、多分に宗教運動の要素を見出し得るであらう。そして基督教が「愛」の宗教と云ひ得べくんば、ナチスのそれは「憎み」の宗教と呼び得るかも知れない。ナチスの運動は、恐ろしく狭量で、且つドグマチックである。それは究局においてドイツ人以外の何者をも憎む。ユダヤ人迫害は、その最もよい例だ。それから非ドイツ的な社会主義、共産主義、並に資本主義、そして國際的なもの委するにドイツ人の民族的及び國家的生存並に發展を妨げる一切を憎み、且つ排斥する。

この「憎み」の宗教の本尊として、凡そヒトラーほど好適の人物はないのだ。前大戦後、ヴェルサイユ條約の桎梏の下に陥き苦むドイツ國民中の、最も貧しき一人として憎み、苦しみ、そしてあらゆる苦難を経て立上つた彼である。

一九一八年十一月十一日午前十一時、帝政時代のドイツ軍代表が、涙を吞んで屈辱的休戦協定に署名したコンピエーニュの森。その同じ場所、同じ展望車、同じ卓を中にして再びフランス代表と相對し、かつてドイツを刺した同じ刃を敵の胸に挿した彼は、まさに憎悪と報復の化身だ。

五十年間の彼の生涯は、壓迫と苦悶と、限りなき流轉の連鎖であつた。上部オーストリアと、南ドイツの國境に近いブラウナウといふ小さい町に、貧しい税關吏の子として生れた彼の前に、幼時夙くも開かれた荆棘の道。彼の父は尊大で殘忍、かつ大酒飲みで、彼を怒鳴つては殿りつけ、母は

生活苦に悩まされ通したつた。彼はこの沒義道の父を極端に憎悪し、反對に母を愛慕した。

ヒトラーは、この頃から既に壓迫に對する「憎み」の宗教の信徒となつてゐた。父は續けさまに三度も妻を取替へたが、彼は今日まで婦女子に目もくれず、アルコール類は殆んど口にしない、そして慈愛深き母の俯のみが彼の胸奥深く、常に生きて來たのだ。かつて彼が六歳から十五歳までのドイツ少女團の前に演説した時「愛する未來の、ドイツの母たちよ、あなた方の使命は重い」と叫ぶ彼の眼に涙が光つてゐた。

十三四歳で、相前後して両親を失つた彼は自活の途を見出すために、首都ウィーンへ出て苦學した。建築場で煉瓦運びなどしながら、志す繪畫や美術の研究に没頭した。二十三歳の時、ミュンヘン市へ移つたが、ペンキ屋の手傳ひやら、雑誌の口繪描きなどで、辛うじて口を糊することが出来た。

一九一四年、大戦が始まると、彼はドイツ軍に志願して四年間、一兵卒から伍長となるまで奮闘したが、休戦喇叭が鳴り響いた時には毒ガスに眼をやられて、病床に呻吟する身となつてゐた。そして失明しかけた眼が癒された時、最初に彼の瞳に映じたものは、祖國オーストリア及びドイツのあさましい敗殘の姿と、それらの政府及び國民の屈辱的生活であつた。

彼は敢然として躍起した。民族の屈辱的生活を救ふには、政治家となる以外に途がないのだ。やがて、ナチス即ちドイツ國民社会主義労働黨が結成され、彼はその黨首となつた。一九三三年一月

遂に軍實内閣を組織して首相となり、三四年、ヒンデンブルク大統領の歿後總統の位置に就いた。彼の結黨後の十年間は、まことに文字通りの波瀾萬丈、或る時は同志と共に牢獄に呻吟し、また或る時は同志に裏切られて、生命の危険に晒されたことも一再では無かつた。しかも今日まで、あらゆる難關を突破し得たのは、全く彼の強靱な意志の賜によるものだ。

エヴェレット・コルビイは、首領としてのヒトラーの人格と個性について「ドイツ人を悉く大ドイツ國に結合せんとする牢固不拔の決心、不撓の精神、無限の勇氣、餘人には理解の出来ない自制と自信、煽動的な言々火を吐く辯舌の天才、有効にして適切なるプロパガンダ術の會得」等々を擧げてゐるが、彼が大衆に働きかけることの如何に巧みであるかは、一度彼の演説を聞いた者の齊しく首肯するところである。

それは單なる辯舌ではない。英雄的意力である。その意味ありげな表情とチエスチエアは民衆を魅惑し、畏怖せしめ、聖書の所謂「權威を持てる者の如き」神秘的色彩をすら添へるのである。

だがしかし、彼は一般に哲人とか、宗教家とか呼ばれる徒輩の様に、民衆に催眠術をかけて、一時的陶酔境に導くものではない。また彼は世の所謂政治家の如く、民衆の歡心を買ふための場あたりを云はない。「ヒトラーは云つたことを皆實行する」とは、ドイツ人の異口同音に語るところだ。實際、ヒトラーに對して反感を懷く者と雖も、彼が執政以來、渺くとも今までのところ、結果から見て、政策的に一つも失敗して居らぬ事實を認めぬわけには行かない。全くヒトラーといふ人物

は彼の計畫を果たす機會を掴むに不思議な天才をもつてゐる。それが國內であると、國外に働きかける場合とを問はず、常に勝算を胸に藏して動いたことは、今日までの実績が、最もよく證明するものであらう。

ヒトラーがベルリンの總統官邸に歸るや、その都度民衆は邸前廣場に集合して、總統に面謁すべく奔めき合ふ。すると、ヒトラーは官邸のバルコニーに現はれ、微笑を湛へつゝ右手を高く差延べてこれに應へる。「ハイル・ヒトラー」と、民衆は叫ぶ。國民と統治者の渾然たる融合がたちどころに出來上る。

そして今、彼が著すところの「わが闘争」はナチスの聖書となつた。それは彼の死後、一千年間効果的であるとは、ヒトラー自身の言明するところである。彼を取巻く使徒、即ちヘッス(副總統)や、ゲーリング(空相)や、ローゼンベルク(黨外政部長)や、ライ(ドイツ労働戦線總監)や、就中ゲッベルス(啓蒙宣傳相)は、ヒトラーを飽くまで神に祭り上げねば承知せぬらしい。

曰く、「ヒトラーはドイツである、ドイツはヒトラーである」と。曰く「ヒトラーは常に正義である」と。

だから我々も最後にかう云つてもよいであらう。

「ヒトラーは宣傳なり。宣傳はヒトラーなり。」



## 2 宣傳博士ゲッペルス

その敵から、メフィストフェレスと諷刺されるゲッペルス博士は、恐らくドイツは悪か、世界中にその比を見ざる所謂宣傳術の天才である。彼は蛇の如く敏捷だ。鋼鐵の如く堅い。氷の如く冷たいネロの如く殘酷だ。ナチスの嫌ムユダヤ人の如く打算的である。ヒトラーの前には奴隷の如く服従的だが、彼の部下に對しては恐ろしく粗野で、かつ暴虐だ。彼の私怨に召使はれる者すら、その野卑な言動に不満を洩らす場合が屢々だとのことである。

彼はまた、身長僅か五呎の矮小で、おまけに生来のガニ股と來てゐるから、その風采は甚だ上らない。そのため、第一次歐洲大戰にも出征出来なかつたのであるが、却つてそれが彼を發奮せしめる動機となり、黨員中彼の右に出る者のない程、博學の士に仕立て上げたのだといふ。だからその半面に健康な者を憎悪する復讐的氣分が辛辣な皮肉や、骨を刺す毒舌となつて姿を現はすのである。

だが、彼は稀代の雄辯家で、同時に文章家でもある。ヒトラーも雄辯家だが、熟して來ると調子が甲高くなり、ドツシリしない感じを興へるが、ゲッペルスは落ついた齒切れのよい辯舌で、時には鮮かな寓意妙振りをすら發揮し、その論旨を民衆の胸に打込んでゆく遣口は、民衆煽動演説家として、全く典型的だ。殊に白を黒と云ひくめる詭辯の巧妙さ、そして又、明確な表現方法に訴

へる辯證法的才能は、容易に反對論者を沈黙せしめ、敵を憎伏せずには措かないのである。

今日、ナチス・ドイツの宣傳プログラムと實行は、舉げて國家啓蒙宣傳相たるゲッペルスの主宰するところで、平時と戦時とを問はず、彼の命令一下、あらゆる機關を通じて、直ちに宣傳の嵐をドイツ國內は勿論、全世界に向つて吹き送る仕組になつてゐる。

ゲッペルスは一八九七年の生れ、二十五歳で入黨、間もなくその雄辯をヒトラーに認められて黨内に重きをなし、一九二六年、ヒトラーがベルリンに支部を創設するや、彼は機關新聞「アングリフ」を創刊、ジャーナリストとして活躍、ベルリンをしてミュンヘンに次ぐ有力な地盤に盛り上げたのである。

そして彼は現在、ヘッス、ゲーリング、リッペントロップと共に、ヒトラー總統の四天王の一人であり、またヒトラーの次代支配者候補でもある。だが、彼の最大缺點は人間的魅力の乏しいことだ。宣傳術は巧いが、宣傳の本體ではあり得ない。ヒトラーは彼の才能を買ふが、人格に對しては寧ろ反感をすら懷いてゐるといふ説も、單なる市井の言としてののみ看過し得ない理由がある。

即ち今次大戰勃發の當初、ヒトラーはポーランド攻略の直前、一兵士のユニフォーム姿で議會に現れた際、言明した言葉がある。「戦争中、予に萬一の事が起つた場合、その後継者はゲーリングたるべし、若しゲーリングに萬一の事が起つた場合、その後継者はヘッスたるべし。若しヘッスに萬一の事が起つた場合には、法律によつて元老會議を召集し、その中より最も勇敢にして、かつ最も

價値ある人物を選ぶべきである」と。

ヒトラーは、その際、ゲッベルスには一言も言及しなかつた。巷間、ナチスの宣傳王ゲッベルスを目して、基督を賣つたユダに譬ふる者のあるのは、よしんばそれが彼に敵意を懐く者の中傷にせよ、何か暗示的な話である。

### 3 「黒色」シュトラッサー

「公明正大の敵は、二心の味方にまさること萬々だ」と、云つたのはコルシカの驕兒、ナポレオンである。スターリンとトロツキーの抗争はあまりに有名だが、そのトロツキーに劣らぬ敵が、ヒトラーにもある。それはナチスに向つて正面から弓をひく「黒色戦線」の頭首オットー・シュトラッサー、當年四十二歳の怪男兒だ。

一九三九年十一月八日、今度の大戰勃發の數週間後、ミュンヘンにヒトラー總統暗殺を目的とする爆彈事件が起つた時、ドイツ官憲はそれをもつて、オットー・シュトラッサーを首魁とする英國スパイの陰謀だと稱し、スイス警察當局に對して、亡命中のシュトラッサー引渡し方を交渉した。シュトラッサーは身邊に危険を感じたので、間もなくバリへ遁れたが、シュトラッサーに云はせると、その爆彈事件も、一九三三年二月二十七日夜の議事堂焼打事件——ヒトラー一派は共產主義者の放火だと云つてゐる——と同様、ナチス自身の仕組んだ狂言なのである。

シュトラッサーはバヴァリアの生れ、第一次歐洲大戰が始ると、僅か十七歳の彼は、祖國愛から從軍を志願し、一兵士として拔群の勳功を立て、第一級鐵十字章を授與され、中尉まで昇進したのだから、並の男ではない。

戦後はミュンヘンで衣食のため速記者をやり、傍ら大學に通つて勉強した。そして夜間は、無報酬で労働者にドイツ史や、速記術を教へた。その頃、彼は戦争で受けた足の傷が癒らず、松葉杖をついて辛くも歩行する有様で生活難と闘ひながら、精進努力の生活を續けたのである。

戦後の負擔を過重に課せられた大衆に對する彼の同情が、當時ヒトラーを中心として結成された國家社會黨、即ちナチスの陣營に彼を走らせた。一九二五年、彼はナチスに入黨したが、この時既に、彼の兄グレゴル・シュトラッサーは、ヒトラーの片腕として、黨内に重きをなしてゐたのである。それから五年ばかり経つ間に、天性生眞面目で、かつ潔癖の彼は、あまりに政略的なヒトラーの行動に厭氣を催した。彼はヒトラーの面前で、彼の二重人格を痛罵し「イカサマ野郎」と彼を嘲つて、簡単に別れを告げた。當時さうしたヒトラーと、黨内の或る分子に對し、不満の念を懐く者は彼だけではなかつたのである。

そこで彼は、それらの不平分子を糾合して「黒色戦線」を結成した。「黒色戦線」の黒色はアナキズムではなく單に秘密を意味し、ナチス内の秘密結社の謂である。従つて、この一味は今日でもドイツの諸官廳から軍隊、甚だしきはゲシュタポ、即ち國家秘密警察の内部にまで深く根を張つて

ゐるといはれて居り、ヒトラーが唯一の政敵として彼を恐れるのも、無理もない次第であらう。

特にヒトラーが彼を恐れるのは、彼が「黒色戦線」における宣傳戦の闘士として、もの凄腕を發揮するからである。例へば彼がウィーンに亡命中、彼は反ヒトラー主義の機關新聞を發行してゐたが、それがオーストリアにおける「黒色戦線」の同志の手を通じて千部、萬部と、巧みにドイツ國內に密輸入された。その外、宣傳のパンフレットなども小さいボールの中に仕込まれ、容易に國境を通過することが出来たのである。

或る時は「黒色戦線」のバッヂ、劔と斧を印刷した郵便切手のレツテルがベルリン市へ大量密輸され、商店の飾り窓、警察の門口、兵營の内部、ナチス首領のデスクにまで貼りつけられたことがあつた。そのレツテルにはヒトラー排撃の過激な文字も印刷されてあつたのである。

シュトラッサーの宣傳運動中、最も劇的な事件は一九三四年彼がチェコに亡命中、首都ブラハの西南方約四十マイルの山地に在る旅舎にマイクロフォンを仕掛け、ドイツ國內に對して、ラヂオによる宣傳放送を行ひ、ナチスの幹部連を脅かしたことである。その時の彼の相棒は、かつてドイツ政府のラヂオ組織に參畫して、重要な地位を占めた機械技師ドルフ・フォルミスであつたがやがてゲシュタポの手は其處へ伸びて、フォルミスは非業の死を遂げた。シュトラッサー自身はその時も危機一髪で遁れることが出来たのである。

シュトラッサーが一旦ゲシュタポの手に捕まつたらどうなるか、それは一九三四年六月三十日、全

世界にセンセーションの嵐を捲き起した「血の肅清」事件が明瞭に説明するであらう。その時、血祭りに上げられたナチスの犠牲者は突撃隊長エルンスト・レームを筆頭に總數二百五十人乃至三百人、その中にはナチスの理論家であつてはヒトラーに次ぐ勢力家、オットーの兄、グレゴル・シュトラッサーの名も挙げられてゐたのである。

オットーはウィーンからブラハへ、そしてスイスへ、またパリへと、轉々亡命の旅を續けつゝドイツ國內及び國外に在る「黒色戦線」の同志と常に氣脈を通じ、得意の反ヒトラー宣傳を試みつゝあるが、ナチスとしても彼はユダヤ人でもなし、または共產主義者でもなく、かつて黨内の有力者であつただけに、全國民の反感を彼の上にあつめることの困難を感じてゐるのである。

同じく亡命者で、外國に在つて反ナチスの宣傳を行ふ者に文豪エミル・ルドヴィッヒがあり、トーマス・マンがある。殊にマンの如きは現在、米國のプリンストンに在つて、ルーズヴェルト大統領を始め、各方面有力人士の知遇を受け、論文で、またはラヂオ、小説で、彼の所謂「人類の敵」たるナチス排撃の宣傳に大童であるが、恐らくナチスにとつては、文士一流の御話を並べる程度にしか響かないだらう。

だが、オットー・シュトラッサーの場合は、それとは全然趣を異にする。即ち、彼の同志はナチスの各組織機關の内部に奥深く巢喰ひ、彼等を牛耳るオットーは實行力を有し、政治家としても手腕家であり、また人望家でもある。現に彼は、ドイツ亡命者中の有力分子たるハインリッヒ・ブリ

ユーニング(前ドイツ共和国宰相)、ヘルマン・ラウシュニング(前ダンテッヒ上院議長)、ウィルヘルム・ゾルマン(舊ドイツ社会黨領袖)等々から成るドイツ国民會議を組織すべく畫策中だとの説もある。

今や歐洲に覇を唱へて得意満面のヒトラーにしてもし心中一點の「いやな気分」があるとするればそれは恐らくシュトラッサーだらう。

#### 4 親分ムソリーニ

「我々は今、イタリア國民を束縛する地中海の鐵鎖を破らんとするのだ、……これこそ年若き國民と、没落し行く國民との争ひである、賽は遂に投げられた」と、黒シャツ御大ムソリーニが、マイクの前に大見得をきつたのは、一九四〇年六月十日午後六時、ドイツの精銳破竹の猛進に「パリ危ふし」の絶望的ニュースが頻りに傳へられてゐた時である。

「とう／＼お出でなすつた」と、誰しも心の内に叫んだ。勿論、獨伊樞軸に味方する者は快心の微笑を湛へ、英佛陣營に好感を寄せる者は痛憤の背を決したことであらうが……。

さうした大見得をきる時のムソリーニの態度には、誰しもの腦裏にクローズ・アップされるであらう一定の表現形式がある。それは極めて嚴肅な表情で、頭をグツと後ろへ引き、額は心もち前方に突出し、握つた拳を唇の邊に支へ兩足をしつかりと踏まへて、テコでも動かぬ決意と、目的物に

向つて躍りかゝらうとするやうな姿勢。何んとしても大向ふから、「ヨ、大きいぞ」とでも聲をかけねば納りのつかぬファシスト式ポーズをして見せるのである。

さうしたポーズも決して偶然ではないので、ファシストの戰術たる「力への崇拜」を暗示する一種の象徴主義であり、ヂェスチユアによるファシスト獨特の宣傳形式でもあるのだ。

この種の象徴主義は、ナチスにも見られることで、ナチス成功の重要原因たる、ナチス式敬禮の如きも、同じく一種の宣傳様式に外ならないのである。象徴主義を最も多く取り入れたものは宗教であるが、その意味でファシズムも、ナチズムも普通の政黨政派の如き、單なる政治形體でなくして多分に宗教的色彩を加味した、一種の精神主義團體と見らるべきであらう。そして又、この種の團體に缺くことの出來ぬ宣傳の本體たる人物を、ムソリーニとヒトラーに見出し得るのである。

イエス・キリストのゐない基督教を想像し得ない如く、ムソリーニのゐないファシズム、ヒトラーのゐないナチズムを想像することは困難である。トーマス・マンは、ファシズムとナチズムの相違について質問された時「どちらも同じく民主主義の敵だ」と、答へてゐる。兎に角、それは「持たぬ國」が「持てる國」へ對して、或る種の要求を爲すためには、兩者とも最もお誂へ向きの精神主義的政治團體に相違あるまい。同時に、その目的を行使する上において、ムソリーニやヒトラーの如き、理想的の中心人物は、容易に得られぬであらう。

ムソリーニも、ヒトラーも、齊しく全國民の偶像であり近代英雄であることに變りはないが、

ロマーニヤの歴史は、多岐とも神秘的であるに反し、ムソリーニは恐ろしく男性的である。日本の海軍擴張の如きものは「日本の使命を果したなら、藝術に精進しよう」といふヒトラーと「言葉も力も、海軍擴張は進んで、力と力とを伴はぬ権利などといふものは、凡て無意味だからである」といふ彼のムソリーニは驚くまで力動的、かつ闘争的である。さういふムソリーニは、ムソリーニ・ドゥケ(Duce)と呼ぶが、それは「親分」の意味である。さういふ、彼が何物かを「ムソリーニ」の親分、マル・カボネを想起させる俚があり、また大衆の熱烈な愛人となつた実績を見出される。だから國民の信頼は非常なものだ。ムソリーニにさへ随つて行つた間諜の如きもの、全國民が無批判に信じてきつてゐる。この點は、ヒトラーの場合と同じく彼の實行力と宣傳力とにあることである。

ムソリーニの最も信任の厚いファシスト機關新聞「ムソリーニ・デイ」の主筆ヴィルジニ・カ・カ・カは「ムソリーニは新聞記者である、理想的な新聞記者は、又理想的な政治家である」と云つてゐるが、ムソリーニは一流の新聞記者であるだけに、宣傳の重要性と、その呼吸を充分に吞み込んでゐる。そして彼は又、その雄舌と文章とをもつて、大向ふを眩らせるに充分な準備を有する権謀の俳優でもあるのだ。

ファシストは、一種の英雄崇拜團體である。従つてファシズムの指導者ムソリーニに對しては絶對の尊敬を主張する。御大自然もローマの英雄シーザーを崇拜し、自らをシーザーに擬してゐるの

は隠れもない事實だ。

イタリアでは、ムソリーニの尊嚴維持については特に注意が拂はれ、彼の私的にわたるニュースは一切發表されない。殊にムソリーニは老人が甚だ嫌ひなので、彼に孫が出来たといふやうなことは慶事であつても各新聞はその發表を遠慮すると云つた遣り口である。

しかし乍ら、ムソリーニと雖も齡をとらないわけには行かない。あと三年経てば六十歳である。彼が齡をとることを極端に嫌ふのは單なる見え坊のためではなく、「力」を行使する氣力が衰へるかといふにあるらしい。この點はヒトラーも同様で、今度の大戰勃發の一週間前、ヘンダーソン英大使に對して「戦争をするんなら、五十五歳、六十歳になつてからよりも五十歳の今がよい」と、啖呵をきつてゐるが、特にムソリーニの如きスポーツマンには、さうした感が深いものらしい。

だが、鐵腕宰相たるムソリーニも「力」だけで突進する猪武者ではない。事を爲すに當つては細心にして周到の用意があり、かつその豪邁不屈の裏には優しい一面もある。それは慈愛の權化たる母ローザから養はれたもので、窮乏と暗黒のどん底にあつても常に光明を失はず、不斷の努力によつて今日を築いたのも、全くその母の賜だといふ。現に、談たまたま慈母の上に及べば、英傑の炯たる眼中に涙の露が光るのである。

母の愛によつて生きたムソリーニの境遇はヒトラーのそれと相通するものがある。彼はイタリアの北部ロマーニヤ州の一寒村に生れ、父は鍛冶屋、母は小学校教師だつた。家計は甚だ貧しかつた

ので、彼の青少年時代は文字通り苦學力行に費した。殊に十九歳の時、甚だたゞスイスに赴いた當時の如き、女に耽りて勞働者の群に混じり、左官屋の下働き、菓子工場、煉瓦場、それから印刷工などをやつて、種々放浪生活を送つた。

その後、スイスやオーストリアで新聞雑誌の記者となり、二十一歳で歸國してからの十年間は、文學界の傍ら勞働者の熱心な味方として活動した。第一次歐洲大戦に際しては、一兵士として戦線に立つたが、戦線生活三十八日にして負傷し、七月月の病院生活を送つたが、大戦終了後の一九一九年三月二十三日夜初から社会黨に對抗して主戰論を主張した同志と共に團體をつくつたのが、現在のファシスト黨の始まりである。

ムッソリニは第一次大戦で聯合國に味方して戦つたが、戦後歸國したところには甚だ少かつた。それはムッソリニが陣中から離脱したためであつたからで、今後は國民自ら奮闘努力して國際的信望を恢復し、戦後外交から脱却しようといふのが、要するにファシズム宣傳の目的である。

ムッソリニには妻も子もあり、仕事が多忙にもかかわらずはらややつぱりいゝお父さんであるらしい。ところが神童にトナリとは違つた幾分ムッソリニの腹分たる一面であらう。

## 5 一 聖父—ピオ十一世

ムッソリニがドイツ國に参戦して、英佛陣營と闘ふことになつたら、羅馬法王は何處へ行くかと云

つたやうな問題が、一頻り、論議に上されたことがある。實際上、イタリアが参戦して見ると、豫想された程のことでも無かつたのだが、當時はさうした問題の起る理由も大にあつたのである。

全世界に三億六千萬の信徒を擁するローマ・カトリック教の總本山があるヴァチカン市といふのは、イタリアの首都ローマ市の西北方、同市を貫流するタイバー河の右岸、ローマ七丘の一、ヴァチカン丘を中心とした面積僅か四十五町歩足らずの一小地域だ。人口も千人あるかなしだが、これでも一九二九年二月、イタリアと羅馬教皇廳間に調印された新條約により國際的に獨立國となつてゐるのだから、どうして馬鹿にならない。

此處には無電放送局があつて、法王の訓令は短波で、世界中の教皇使節へ送られる。その他、郵便局も、鐵道も、刑務所も、軍隊も——それは法王の護衛——警察もあり、そして常に物議を起す教皇廳機關新聞「オッセルヴァトール・ロマノ」紙もこの一廓内で編輯され、かつ印刷されてゐるのである。しかも新聞統制の嚴重なこと世界一と稱せられるイタリアのファシスト官憲も、この新聞だけは手を觸れることが出来ないのだから、特に今日の如き國際情勢にあつて、問題を起すのは當然であらう。況んやその發行部數が、平時の一萬から、戦時の今日、一躍十萬に増加せるにおいてをやである。

現在、政治的に世界を二分する潮流は、民主主義と全體主義である。羅馬教皇廳は政治圈外に立つカトリック教の本部に過ぎないと云へば、それまでだが、事實は各國との外交關係が複雑微妙を

極め、民主主義國は法王の勢力を利用して、獨伊の積極的行動を阻止すべく努め、法王また神意を體して「平和のプロパガンディスト」としての使命を果さんとする以上、勢ひ全體主義國、特に今日の場合、獨伊の不機嫌を買ふことは、免れ得ないのである。

ナチスは共產主義を嫌ふこと蛇蝎の如くだが、法王の眼から見ると、「褐色」と「赤色」の違ひだけで、双方とも世界平和の敵であることに變りがない。現法王ピオ十二世は、一九一七年、即ち第一次歐洲大戰の末期、前獨帝カイゼルに對し講和勸告の使者として派遣され、その後も引續き十二年間もミュンヘン及びベルリンに駐在してゐたから、ドイツの國情は非常によく知つてゐる。だが、ナチスの戰闘的態度は教皇廳の方針と相容れなかつたので、兩者の抗争は今に續いてゐるのである。殊にヒトラーがポーランド攻撃の軍を動かした當時などは「オッセルヴァトリー・ロマノ」紙は、ナチスのやり口を大に非難したものだ。それがため、同紙の主筆ダラ・トルレ伯が刺客に狙はれたり新聞賣子がナチス青年のため、河中へ抛り込まれるなどの椿事も起つた位である。だからその後、ヒトラーがムソリーニと會見の節、ピオ十二世を國外に放逐することを勸告したといふ説も、ありさうなことに想はれる。

然らばピオ十二世と、ムソリーニとの關係は何うかといふに、これは極めてデリケートである。ピオ十二世は、今次大戰の當初からルーズヴェルト米大統領と相呼應して平和提唱の機會を覗つてをり、英佛米等の民主主義國は悉く法王の斡旋を希望してゐたのだ。これがためその態度に多少と

も民主主義的色彩を加味することも已むを得ない事實で、これはベルリン・ローマ樞軸の甚だ遺憾とする處に相違ない。

それがため、イタリアの參戰後における法王の去就が問題とされたわけだが、ムソリーニの參戰宣言直後の數日間「オッセルヴァトリー・ロマノ」紙は印刷機械破損の理由で休刊した。そして再刊後もイタリアの參戰問題に一切觸れることを避け、ピオ十二世も沈黙を守り「教皇廳何處へ行く？」の問題はそのままお預けの形となつてゐるのである。

本來から云つて、小學生に對してすら「片手に教科書、片手に武器」を奨励するムソリーニが、ひたすらに地上の平和をのみ宣傳するローマ・カトリック本山と同居することは甚だ迷惑に相違ないのだ。出來得べくんば、これをフランスか、ポルトガルか、乃至は南米へでも追拂ひたいことは山々だが、彼も亦政治家である。イタリアだけでも全人口の九十九パーセント以上の信徒を有する法王の精神的勢力が何んなものであるかといふことは十二分に承知してゐる。それだけではない、現法王ピオ十二世の人格と識見、特に政治家的手腕に對しては、さすがに傲岸なムソリーニと雖も頭を下げざるを得ないのである。

一九三九年三月二日、ピオ十一世の薨去に伴ふ新法王選舉の結果、統聖第二百六十二代を繼いだピオ十二世は本年六十三歳、歴代教皇廳と關係深い名門の出であるだけに、彼のパチリ大司教時代から、イタリア國民の信望は特に厚い。それに又、その學識は一世に卓越し、イタリア語の外に英

佛、獨は勿論、七ヶ國語に通じ、彼が政務總長として外交方面に手腕を發揮したことは夙に有名である。

ビオ十二世は非常な勤勉家で、且つ精力家だが、その生活は極めて簡素だ。彼は丈高く、細つそりと瘠せて、その表情は寧ろ冷たく、近づき難い威厳がある。しかし又、相接觸する時に、慈愛に溢るゝ双眸は何人をも抱擁せすには措かない。謁見の後、彼の法衣の裾に口紅の痕跡を發見した衛兵が、血と見間違へ、てつきり刺客の仕業としていきり立つたなどのユーモアも、恐らく彼の人格的魅力を裏書するものに外ならぬであらう。

要するに、宣傳の本體としての、ビオ十二世の價値は大きい。彼は單なる靈界の支配者であるばかりではない、時として人類の行動をも支配する能力の持主でもあるのだ。彼が平和のプロバガンディストとしての威力を發揮する時に、スターリンや、ヒトラーや、ムソリーニにとつては、或る意味において、一種の脅威であらう。

## 6 大番頭ルーズヴェルト

米國人は獨裁政治を毛虫のやうに嫌つてゐる。従つて獨裁國の立役者スターリン、ムソリーニなどに對して一向に魅力を感じない。彼等は毎日新聞雜誌で、カリカチュア材料に供されるだけだ。就中ヒトラーの如きはアメリカ人にとつて、一箇の無頼漢以上の存在ではない。要するに、政治家

の人氣はその人物が國民性に深くアピールするか、否かによつて決定されるのである。

さうした人氣は、また一面に、時代の好尚にもよることだ。今日の米國には、初代大統領ワシントンや、リンカーンのやうな人物は案外歡迎されぬかも知れない。何んと云つても現在、壓倒的人氣を占めてゐるのは、現大統領ルーズヴェルトである。

彼には代表的資本主義國の大番頭たる資格も貫目も、十分に具はつてゐる。アメリカ人の好きな自由、平等、正義のお題目も、彼の口から、その朗々たる音聲によつて叫ばれる時に、決して態とらしくは聞えない。押しも押されぬ民主主義の擁護者だ。殊に羅馬法王に渡りをつけて、世界平和、大戦阻止の運動に乗出さんとするチェスチュアの如きも、國際的名優の名を辱かしめぬ民主主義戦線の大立物である。

彼は今年五十八歳だが、その元氣は衰へるところか、多々益々辨する有様だ。そのガツシリとした廣い肩幅、長い腕、ソーセージのやうな太い指、自信に充ちた眼つきと、その決斷力を表はす締つた唇、殊に日常の煩瑣な事務を熟練工の如き落つきと、素速さで片づける動作は、米國人好みの最も頼もしいボスである。

ルーズヴェルトの手腕及び力量については、既に第一次世界大戦當時、海軍次官としての活躍がこれを裏書する。即ち、彼の先見の明によつて二年先の軍需材料を整へたことや、北海におけるドイツ潜水艦の活動を封じた決斷力は、今尙世人の記憶に新なるところ。大統領としての彼が實施し



たニュー・ディール政策の是非は別問題として、例外の第三期出馬が全國民の輿望となるに至つては、彼の人氣の程が推察されるのである。

米國の或る一流批評家は「米國で最もタフな人間はフランクリン・ルーズヴェルトだ、恐らく世界中で最もタフな男だ、少くもタフな點で米國有史以來の大物だ」と云つてゐる。

現在、歐洲には民主主義の終焉を告げる喇叭が鳴り響いてゐる。それはやがて直接、間接に米國のデモクラシーをも脅かすものであることを、米國民は痛感せずにはゐられないのだ。だから米國民は今、最も信頼するに足るリーダーを、大統領として要求してゐるのだ。その要求に應じ得るものは、今のところルーズヴェルト以上には思はれない。これ、彼の第三期出馬が要望される所以である。そして又、彼は今後單なる民主黨の首領ではない、文字通り合衆國の頭目であると、國民は信じきつてゐるのだ。

そしてル大統領自らも、今後、米國が參戰すると否とに拘らず、萬一の場合に應ずる準備、即ち陸海軍備の擴張はニュート・ディールの綱領ではない、國家的綱領であると、超黨派的立場を闡明してゐる。

大海軍、大陸軍は、その實行が可能な大資本主義國で、同時に民主主義國たるアメリカの、全體主義國に對する一種のプロパガンダであり、その宣傳の代表者はルーズヴェルトである。全米國民は今後、更に大に彼の「タフ」振りに信頼してよからう。

最後に一言する必要があるのは、いとも有名なるエレアナ・ルーズヴェルト女史、即ちホワイト・ハウスの女主人公である。彼女は現に、その偉大なる夫君以上の社會的存在ですらあるのだ。夫人は單に社交界の女王であるばかりではない。その活動力の旺盛なことは驚くべきものだ。彼女は飛行機で、國內の隅から隅へと飛び廻る。或る時は僻遠の嶺山を訪問する。労働問題の調査に出かける。巡迴講演、著述、雜誌の論文書き、各種婦人會及び社會施設機關の用務、等々で席の温る暇もない程だ。ルーズヴェルトは政治屋だが、夫人こそ眞實の政治家だと、批評する者もある位で、彼女を次期大統領候補に上げるなどの噂があつたのも、偶然では無さうである。彼女は名實共に、米國のナンバーワン婦人だ。兎に角、デモクラシー宣傳陣營の双璧が大統領夫妻であることは、米國民にとつて此上もない幸福であらう。

## 7 頑固爺チャーチル

太陽の没することのない廣大な領土を、全世界に有する「持てる國」大英帝國が「持たざる國」獨伊兩國の攻撃を受けた。まさに英國としては有史以來の危機である。この際、全國民の輿望を擔つて、幕閣の首位に坐つたのは、本年六十七歳「頑固親爺」として、平時は腫物扱ひのウィンストン・チャーチルである。

輝やく光頭に、蝶形のネクタイ、常に相手を輕侮するやうな鰐口、蛇のやうに陰險で片意地の悪

い眼、映畫俳優にしたらギャングの親分などに打つてつけの悪役面だ。そして「英國の戦争煽動家」と、ヒトラーからさへも憎々しく呼ばれるなどの敵役なればこそ、乗るか反るか、二つに一つの重任を引受けたのだとも、云ひ得るであらう。

戦争直前、明らかに危機切迫の情勢に在つて何故に英國國民は彼を信頼しなかつたか、それは「持てる者」の常として、出來得る限り戦争の脅威を避けやうとしたからである。「ヒトラーは恐らく東方へ進出するであらう、まさか英國に戦ひを挑むやうな無鐵砲はやるまい」と、英國國民は多寡を括つてゐた。しかしチャーチルはさう考へなかつた。「他人の金で安全を買はうとする英國國民の態度は卑怯だ」と、彼は自國民を痛罵した。英國國民も亦、ヒトラーの如く、彼をもつて徒らに戦争を煽動する者として嫌つたが、その後の情勢は彼の見解の正しかつたことを證明したのである。

「世界が今までかつて見ざりし強力なヒトラーの近代兵器は、早晩わが英國へ向けられるに相違ない、そして英國は結局孤立の危険に曝されるであらう」と、彼の鋭い直感を通して發せられた豫言者的警告が、事實となつて現れた時、英國國民は、この空前の危機から祖國を救ふ者は、彼を描いて外にないと、始めて悟つたのである。

彼はさうした調子で、保守黨内に在つても自黨攻撃を行ひ、頑固派として嫌はれてゐた。ナチスの興隆は當然英國の存在を脅威するものとして、辯論に、文章に、軍備の必要を主張する彼は、黨内でも異端者扱ひにされてゐた。だが、平和主義、妥協主義のチェンバレンすら、この好戦型政治

家を海相に任じ、次いで首相に推戴する時機が到來したのである。

チャーチルは、英國史上に偉大な足跡を印した名將マルボロ公の後裔で、その政治家的素質はかつて藏相を勤めたランドルフ・チャーチル卿から譲られ、文才はニューヨーク・タイムズ紙主筆の娘で、有名な美人ジェニー・ジェロームから受けたと云はれ、軍人として、新聞記者として、著述家として、ゲッベルス張の辛辣な批評家として雄辯家として、政治家としてその威力を充分に發揮し、大臣稼業も、首相、外相以外は全部試験済みであつた。

彼は、青年時代から自家宣傳屋の非難を受けたが、それは彼があまりに各方面の新聞雑誌に、原稿を書き過ぎる嫌ひがあつたからであらう。しかし今次大戦が、より多く宣傳戦であり、神經戦である以上、鈍重な英國人には珍らしい型破りの宣傳的天才は、その不屈の面魂と共に、大に貴重視されたわけである。

尙、チャーチルの帷幄に參じて、ドイツ側ゲッベルスの向ふを張り、直接宣傳の大役を擔當する者に情報相ダフ・クーパーがある。當年四十九歳、ミュンヘン會議當時はチャーチル、イーデン等と共にチェンバレン首相のドイツとの妥協政策に反對した強硬派の一人である。

兼に陸相(一九三五—三七)、海相(一九三七—三九)を歴任し、演説も巧いし、文章も達者、學識も廣い。彼の論文はイーヴニング・スタンダード紙に屢々發表され、ジャーナリズムの世界では動かぬ存在である。従つて戦時英國におけるニュース統制及び宣傳工作には、蓋し適材適所と謂ふべ

きであらう。

## 8 スターリンと宿敵トロツキー

一九三九年八月末ドイツ軍のポーランド侵寇に先立つ十日前、全世界を驚ろかした一つの出来事それはピオ十二世のいはゆる赤色ボルシェヴィズムと、褐色ボルシェヴィズム、即ちドイツ・ナチスとの握手である。獨ソ不可侵條約の調印、それは履耳に水の國際的イヴェントで、就中その時期を同じくしてモスクワへ軍事委員を派遣した英佛兩國の狼狽、困惑、そして驚愕の情は覆ふべくもなかつた。

二十世紀の奇蹟と人々は、それを呼んだであらう。しかし何んと云つたところで事實は事實に相違ないのだ。そして又、それはその後の情勢に徴しドイツ及びソ聯外交の勝利であることが裏書された。實戦に先立つ宣傳戰、神經戰で英佛は大きな一敗を喫したのである。

かつてヒトラーはナチスの聖典「我が闘争」の中に「ロシアのボルシェヴィズムは、二十世紀に世界を征服せんと意圖するユダヤ主義の努力を象徴してゐる」と述べてゐる。そして獨ソ同盟の可能性については「ロシアとの同盟は宣戰の布告を意味し、またドイツの終末を意味するであらう、……彼等は血腥い犯罪者である。……彼等はまた世界一の大嘔吐きである」と、當るべからざる權幕である。

それと現實に出来上つた獨ソ條約とは、一體何のやうな連絡があるのであらうか。條約調印のため、飛行機でモスクワを訪れたドイツ外相リッペントロップに對し、スターリンが「ヒトラー總統とは是非お會ひする機會を得たいと思つてゐるから、特によろしく御傳言願ひたい」と、評判のむつり屋に似合はないお世辭を並べてゐるのは、何うしたものであらうか。

同年十二月二十一日、ソ聯が全土を擧げて、その獨裁者の第六十回誕辰を祝つた際、ヒトラーからスターリン個人の健康と、ソ聯國民の將來の幸福を祈る旨の祝電が到來した。そればかりではない、ナチスの各新聞は「ロシア革命のフューラー(總統)」としてスターリンを禮讃してゐるのである。

一體全體、ヒトラーがユダヤ人と同じ程度に嫌惡し、侮蔑するボルシェヴィズム政權と何故握手したか、單なる政策のためか、それとも思想的に、または政治的に、心機一轉の理由があるのか、その邊は將來、歴史家の解釋に任せるとして、今、假りにスターリンの政敵、トロツキーの意見に従へば、要するに平凡にして鈍重なスターリンは、ヒトラーの天才的手腕に對して、秘かなる敬意を拂つてゐたもので、獨ソ條約の締結は、戰爭の脅威をチェンバレンよりも、寧ろより多くヒトラーに感ずるからに外ならないのである。

一般に、獨裁者は「神」の代りを勤める。その點、絶對である。ムソリーニや、ヒトラーの肖像と同様、共產主義の偶像、スターリンの寫眞は、今やソ聯至る所、十字架上の基督や、聖母マリア



てゐる。

スターリンは常に彼の理論的武器たるレーニン主義を持出し、レーニン主義の名においてトロツキイを追出し、その他の政敵をも、同じくレーニン主義に反するトロツキイ派の烙印を押して、次々に血祭りに供したのである。

だが、トロツキイは現にメキシコ市の郊外に隠れ住み、屢々ゲ・ベ・ウ(ソ聯政治警察)の襲撃を受けたが、それに屈せず、引續きスターリン政権打倒の宣傳戦に大奮である。従つてスターリン對トロツキイの抗争は、容易に終止符を打つ氣色もない。否、寧ろ今次大戦を契機として、國際舞臺にまで擴大されようとしてゐる。即ち、トロツキイは、やがて獨ソ條約が「毒瓦斯の煙のうちに解消」され、結局スターリン没落の日が到來するであらうことを期待してゐるのである。

#### 附記

本稿印刷終了の直前、即ち八月二十日、トロツキイは暴漢の襲撃に遭ひ、遂に死去せる旨の計報に接す。これによつて、久しく全世界の注目をあつめたスターリン、トロツキイ抗争劇は、永遠にその幕を閉ぢたものと解すべきであらうか、附記して讀者の公明なる批判を俟たんとするものである。

## 七、文 獻

宣傳——特に戦争と宣傳に關する本は最近我國でもかなり多數發刊された。左に近刊の關係書を摘録する。

#### 邦 書

系統的宣傳學 田中豊 巖松堂 昭和二年

プロバガンダ 小西鐵男 平凡社 昭和五年

世界列強のプロバガンダ戦 ラルリー著 大江專一譯 實業之日本社 昭和九年

標語論集 上園政雄 東京實業社 昭和十年

藝術の宣傳に及ぼす効果と實例 鈴木吉祐 太陽堂 昭和十一年

近代戦とプロバガンダ 小松孝彰 春秋社 昭和十二年

宣傳技術論 小山榮三 高陽書院 昭和十二年

戦争と宣傳 田中豊 宣傳研究所 昭和十二年

獨、伊、ソ、ヴィエトを中心とした國家宣傳とジャーナリズム統制 高梨菊二郎譯編 野田書房 昭和十三年

一九一八年大戦間に於ける佛國の對獨宣傳　ゲオルグ・フリーベル博士　内閣情報部　昭和十三年  
 大戦間獨逸の情報及宣傳　ニコライ中佐　内閣情報部　昭和十三年  
 世界大戦と宣傳　ヘルマン・ワन्दルシエツク　内閣情報部　昭和十三年  
 次期戦争と宣傳　ロガルソン　内閣情報部　昭和十三年  
 宣傳の心理と技術　レオナルド・W・ドーブ　内閣情報部　昭和十四年  
 宣傳讀本　倉本長治　誠光堂　昭和十四年  
 戦争と思想宣傳戰　小松孝彰　春秋社　昭和十四年  
 戦争と宣傳　栗屋義純　時代社　昭和十四年  
 獨逸の宣傳組織とその實際　外務省情報部　國際協會　昭和十五年  
 新聞と政策　ドクトル・ハンス・A・ミュンステル　内閣情報部　昭和十五年

註　釋

Bernays, Edward L. Propaganda.  
 Biddle, William W. Propaganda and education.  
 Dodge, Raymond. The psychology of propaganda.  
 Doob, Leonard W. Propaganda.  
 Grabowsky, Adolf. Bolschewismus.  
 Hadamovsky, Eugen. Propaganda und nationale Macht.  
 Lambert, R. S. Propaganda  
 Lasswell, Harold D. Propaganda technique in the world war.  
 Lunley, Frederick E. The propaganda menace.  
 Lunley, Frederick E. Means of social control.  
 Nikolai, W. Nachrichtendienst, Presse und Volksstimmung im Weltkrieg.  
 Plenge, Johann. Deutsche Propaganda.  
 Rogerson, S. Propaganda in the next war.  
 Schultze, Praelzer. Propaganda, Agitation und Reklame.  
 Stern, Robert, Edgar. Die Propaganda als politisches Instrument.  
 Smart, Campbell. Secrets of Crewe House.

不  
許  
複  
製

昭和十五年九月十五日印刷  
昭和十五年九月二十日發行

國際宣傳戰

定價 一圓六十錢  
外地定價 一圓七十六錢

編者

同盟通信社調查部

發行者

高山金一

印刷者

中山文雄

發行所

東京市神田區小川町二丁目十番地

高山書院

電話神田八一〇番

振替東京八三八九三番

大日本印刷株式會社發行

木村禧八郎著  
日本經濟再建の目標

轉換期日本經濟再建の指標は、これ！  
渾沌たる現狀を解明し、明日の日本經濟を語る人は、讀者！  
七版出來！！

菊判 二八〇頁  
定價 二・〇〇  
千・一〇

ヴァルガ著 安藤英夫譯  
世界經濟の戰時編成

前大戰に於て完膚なきまでに打ちひしがれた獨逸が、經濟的に立ち上る様を科學的に分析せる名著。  
好評七版！！

四六判 一八〇頁  
定價 一・二〇  
千・一〇

ヴァルガ著 和 泉仁譯  
戰爭と世界經濟

今次大戰勃發に依る經濟的變動を究明し戰爭の擴大と將來の展望を説いたヴァルガ最近の發表

四六判 二一〇頁  
定價 一・二〇  
千・一〇

今村忠男著  
大陸インフレの話

大陸インフレ顯現の虞れば我國民の重大な關心事である。本書はその現狀とこれが對策を語る

四六判 二三〇頁  
定價 一・二〇  
千・一〇

殿田孝次著  
新支那讀本

支那は新らしく立上つて新東亞建設に協力することゝなつた。本書はその全貌を語る唯一の書

四六判 四〇〇頁  
定價 一・八〇  
千・一〇

英國フラー將軍著 堀川貞樹共譯  
全體主義戰爭論

伊・エ戰爭に從事せる著者が全體主義國家の機械化精兵主義の勝利を豫言し、自國に警告せる名著。

四六判 三八〇頁  
定價 一・八〇  
千・一〇

長沼弘毅著  
戰爭の横顔

端麗な筆致と豊かな詩情に溢るる本書を、在來の戰爭文學に倦足らぬインテリ層に贈る

四六判 三〇〇頁  
定價 二・二〇  
千・一〇

フランク・ツイース著 伊藤義太郎共譯  
對馬海峡

日本海々戰の悲劇を、胸過るばかり深刻に描いた本書は、あつた大勝利の裏にこんな悲劇があつたのだ。

四六判 四五〇頁  
定價 一・六〇  
千・一四

飯澤章治著  
南進政策の再認識

南進の絶對的重要性を政治、經濟兩面より詳細に検討し、國民の再認識を促さん爲に贈る。

四六判 四六〇頁  
定價 二・〇〇  
千・一四

澤田謙著  
太平洋資源論

太平洋諸國が世界の視聽をひいてゐるのは豊富なる資源の故だ。本書はその資源を知る好適の書

四六判 三五〇頁  
定價 一・六〇  
千・一〇



神山 潤著

背景

『歴史』によつて新潮賞を得、一躍文壇の寵兒となつた著者の、極く最近の傑作集七篇を収む。

四六判 三一〇頁  
定價 一・五〇  
千 一・一〇

岡田三郎著  
愛情の倫理

愛情の問題に想ひをひそめて三十年。本書は岡田文學の最高峰であり、また昭和文壇の代表作である。

四六判 五四〇頁  
定價 二・三〇  
千 一・一四

ジョン・リットルズ共著  
ソ聯の十年

簡井史郎譯

著者は技師として在ソ十年。政治、經濟、社會情勢の實相を興味深く書いた貴重な文獻である。

四六判 三九〇頁  
定價 二・〇〇  
千 一・一四

岩淵辰雄著  
屑屋政談

日本の政治及び政治家に對し、これ程大膽に思つた事を述べることは稀かしい。全國民必讀の書。

四六判 四六〇頁  
定價 二・〇〇

HM 1765

SA 15037

~~503~~

Proj. No.	149
S. A. No.	5037
Sack No.	4
Item No.	503

高山書院刊

¥1.60

DEFENSE CHARGER OUT SLIP NO. 1

Date \_\_\_\_\_

Description of Material:

IPS Doc. No. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

I, the undersigned representative of the Defense Panel have withdrawn the material listed above. It is agreed that this withdrawal is temporary and for the purpose of inspection only, and that the complete material will be returned not later than seven (7) days from this date.

\_\_\_\_\_  
Signature